

工事番号															
(様式 - 1)															
市長		副市長		部長		課長		係長		係員		検算		担当	
令和 8 年度 (交付金) 下水道施設統廃合事業 明科幹線第 1 - 1 工区管路工事 閲覧設計書															
安曇野市明科東川手															
設 計 大 要								施 工 方 法				請 負			
管路施設工 Σ L=116.6m (交付金) (市単) 管 路 布 設 工 DIP-GX φ 200mm L=111.6m — 管 布 設 工 VP φ 250mm L= 5.0m — 管 推 進 工 3号マンホール(レジン組立式) 1 箇所 — 人孔設置工 3号マンホール(レジン塗装工) — 1箇所 付帯工 1 式								施 工 期 間				237 日間			
								起工予定年月日				令和 年 月 日			
								竣工予定年月日				令和 年 月 日			
								契約保証方法				金銭的保証			
								・別途指定する建設機械については排出ガス対策型の使用を原則とする。 ・この設計書で施工機械・仮設材の規格、調査条件等の記載及び「人、h、L、%、日、時、工数、空m3、掛m2、日・回、日回、供用日、月」の単位により見積りのための参考数量を示したものは任意扱いです。したがって、内訳書の作成や契約を拘束するものではありません。ただし、指定した場合を除きます。							

総括情報表

頁0-0002

事務所名 変更回数 適用単価区分 単価適用地区 実施設計単価表等の適用日 資材等の単価の出典	30 長野県上下水道公社 0 1 実施単価 50 1 1 中信 (2) 08.07.01 建設物価・積算資料 当年 7 月号		
	当 世 代	前 世 代	
前払率 (%) 消費税率 (%) 工種 施工地域区分 (共通仮設) 施工地域区分 (現場管理) 現場環境改善費率計上分 契約保証方法 緊急工事区分 時間的制約 豪雪割増 週休 2 日補正 冬期補正 (現管) 点在工事等区分	40 10 % 31 下水道 (2) 06 一般交通影響有り (2) - 2 06 一般交通影響有り (2) - 2 02 上記以外 01 金銭的保証 00 補正なし 00 時間的制約無し 02 豪雪割増無し 09 週単位 (土日) 494 02 附帯工事費等		

(工事費内訳書)

*** 本工事費 (交付金) ***

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
*** 本工事費 (交付金) ***						
管路						
管きょ工 (開削)						
管路土工						
管路掘削						
	1		式			工種 第0001号表
管路埋戻						
	1		式			工種 第0002号表
発生土処理						
	1		式			工種 第0003号表
管布設工						
ダクタイル鋳鉄管 呼び径200mm						
	110		m			科目 第0001号表

(工事費内訳書)

*** 本工事費 (交付金) ***

頁 -0004

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
圧送管排泥 呼び径100mm					科目 第0002号表
	4	m			
管路土留工					
建込簡易土留工					
	28.6	m			
管きょ工 (推進)					
鋼製さや管ボーリング方式推進工 鋼管径400mm × 本管径250mm					
鋼製さや管ボーリング式一重ケーシング方式 さや管径400mm 本管径250mm					
	3.1	m			
立坑工					
ライナープレート式土留工及び土工 円形ライナープレート φ2500 t=2.7mm					
	1	箇所			
* 処分費等 *					

(工事費内訳書)

*** 本工事費 (交付金) ***

頁 -0005

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
残土処分工					
明科建材(株)	20	m 3			
すべての諸経費の対象額に含めない					
スクラップ 配合 可鍛コロ (旧配合くず A)	0.01	t			
薬液注土工					
薬液注土工					
薬液注土工	19	本			科目 第0009号表
マンホール工					
組立マンホール工					
組立 3 号レジンマンホール	1	箇所			科目 第0004号表

(工事費内訳書)

*** 本工事費 (交付金) ***

頁 -0006

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
既設 1 号及び 2 号マンホール接続					科目 第0006号表
	1	箇所			
* 処分費等 *					
コンクリート(無筋)廃材処理費 コンクリート掘削廃材 共和リテック(株)					
	1	t			
付帯工					
舗装撤去工					
舗装版取壊工					
	1	式			
舗装復旧工					工種 第0004号表
	1	式			
仮設工					工種 第0005号表
安全費					

(工事費内訳書)

*** 本工事費 (交付金) ***

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
安全費										
	1			式					工種	第0006号表
*** 直接工事費 ***										
運搬費										
仮設材運搬	1			式					工種	第0007号表
技術管理費										
通水試験工 既設管と連絡せず給水車で注水	110			m					施工	第0 -0095号表
修正CBR試験										
刊行物単価	1			試験						
*** 現場環境改善費 (率分) ***										
率 0.0106										

(工事費内訳書)

＊ ＊ ＊ 本工事費 (交付金) ＊ ＊ ＊

頁 -0008

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
＊ ＊ 共通仮設費率計算額 ＊ ＊						
補正無の率 0.1110			補正後の率	0.1359		
＊ ＊ 共通仮設費計 ＊ ＊						
＊ ＊ 純工事費 ＊ ＊						
＊ ＊ 現場管理費 ＊ ＊						
補正無の率 0.3457			補正後の率	0.3978		
＊ ＊ 工事原価 ＊ ＊						
＊ 一般管理費等 ＊			前払率補正	1.0000		
補正無の率 0.2060			契約保証補正	0.0004		
＊ ＊ 工事価格 ＊ ＊						
＊ ＊ 消費税等相当額 ＊ ＊						
率 0.1000						

*** * * 本工事費（交付金） * * ***

(工事費内訳書)

[illegible]

管路掘削

工種明細表

工種 第0001号表

頁0-0010

[illegible]

工 種 明 細 表

工種 第0002号表

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
埋戻し 土砂					
	80	m 3			施工 第0 -0078号表
機械投入埋戻工 BH山積0.28m3 (平積0.2) 礫質土					
	40	m 3			施工 第0 -0079号表
埋戻し 洗浄砂					
	20	m 3			施工 第0 -0080号表
機械投入埋戻工 BH山積0.28m3 (平積0.2) 砂					
	8	m 3			施工 第0 -0082号表
*** 単位当り ***					
	1	式			

発生土処理

工種明細表

工種 第0003号表

頁0-0012

[illegible]

工 種 明 細 表

工種 第0004号表

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
舗装版切断 アスファルト舗装版 15cm以下					
	229	m			施工 第0 -0084号表
舗装版破碎 アスファルト舗装版 障害等なし					
	150	m 2			施工 第0 -0085号表
殻運搬 舗装版破碎 DID区間なし 11.5km以下 機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下) 現場～共和リテック10.1km					
	6	m 3			施工 第0 -0086号表
処分費等					
アスファルト廃材処理費 アスファルト掘削廃材 共和リテック(株)					
	14	t			
*** 単位当り ***					
	1	式			

工 種 明 細 表

工種 第0005号表

工 種 ・ 施 工 名 称 など		数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
舗装工						
表層（車道・路肩部） 1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) 平均仕上り厚 3 0 mm						
		153	m 2			施工 第0 -0087号表
上層路盤（車道・路肩部） 粒度調整碎石 全仕上り厚 1 1 0 mm						
		149	m 2			施工 第0 -0088号表
下層路盤（車道・路肩部） 全仕上り厚 2 0 0 mm 1層施工						
		141	m 2			施工 第0 -0089号表
*** 単位当り ***						
		1	式			

安全費

工種明細表

工種 第0006号表

頁0-0015

[illegible]

搬運材料假設

工種明細表

工種 第0007号表

頁0-0016

[illegible]

(工事費内訳書)

*** 本工事費 (市単) ***

頁 -0017

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
*** 本工事費 (市単) ***						
管路						
マンホール工						
組立マンホール工						
組立 3 号レジン塗装マンホール						
	1		箇所			科目 第0005号表
** 直接工事費 **						
** 共通仮設費率計算額 **						
補正無の率 0.1110			補正後の率	0.1359		
** 共通仮設費計 **						

(工事費内訳書)

*** 本工事費 (市単) ***

頁 -0018

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
*** 純工事費 ***						
*** 現場管理費 ***						
補正無の率 0.3457			補正後の率 0.3978			
*** 工事原価 ***						
*** 一般管理費等 ***						
補正無の率 0.2060			前払率補正 1.0000 契約保証補正 0.0004			
*** 工事価格 ***						
*** 消費税等相当額 ***						
率 0.1000						
*** 工事費 ***						
*** 工事価格計 ***						
*** 消費税等相当額計 ***						
率 0.1000						

(工事費内訳書)

＊ ＊ ＊ 本工事費 (市単) ＊ ＊ ＊

頁 -0019

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
＊ ＊ 工事費計 ＊ ＊						
(参考) 直接工事費のうち労務費						
(参考) 直接工事費のうち材料費						
(参考) 現場 管理費のうち 法定福利費 率 0.0438						
(参考) 現場管理費のうち建退協制度の掛金						
(参考) 工事原価のうち安全衛生費用						

ダクトイル鋳鉄管

科目内訳表

科目 第0001号表

頁0-0020

呼び径200mm

110

m

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
下水道用ダクトイル鋳鉄管 直管 呼び径200mm S種 GX形					
刊行物単価	22	本			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm - 100mm GX形 二受T字管					
刊行物単価	1	個			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm GX形 45°曲管					
刊行物単価	5	個			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm GX形 22 1/2°曲管					
刊行物単価	2	個			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm GX形 45°両受曲管					
刊行物単価	1	個			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm GX形 継ぎ輪					
刊行物単価	1	個			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm GX形 両受短管					
刊行物単価	2	個			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm GX形 受挿しソットシル仕切弁					
刊行物単価	1	基			
仕切弁筐 φ200 DP1.00m用					
調査単価	1	基			

ダクトイル鋳鉄管

科目内訳表

科目 第0001号表

頁0-0021

呼び径200mm

110

m

施 工 名 称 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
下水道用接合材 呼び径200mm 異形管用 G X 形					
	9	個			
下水道用接合材 呼び径100mm 異形管用 G X 形					
	1	個			
下水道用接合材 呼び径200mm G X 形 G - L i n k					
	9	個			
下水道用接合材 呼び径200mm G X 形 ライナ					
	5	個			
鋳鉄管布設工 吊込み据付工（機械）φ 200mm					
	110	m			施工 第0 -0001号表
鋳鉄管切断工 φ 200mm（エンジンカッター）					
	9	口			施工 第0 -0003号表
G X 形継手工（直管） φ 200mm					
	22	口			施工 第0 -0004号表
G X 形継手工（異形管） φ 200mm					
	9	口			施工 第0 -0005号表
G X 形継手工（G-Link） φ 200mm 異形管継手工60%増					
	9	口			施工 第0 -0006号表

ダクトイル鋳鉄管

科目内訳表

科目 第0001号表

頁0-0022

呼び径200mm

施工名称など		数量	単位	単価	金額	備	110	m	考
鋳鉄製仕切弁設置工 φ200mm(機械設置)									
		1	基				施工	第0	-0007号表
仕切弁筐(ねじ式弁筐)設置工 A形 1号									
		1	箇所				施工	第0	-0008号表
ポリエチレンスリーブ被覆工 φ200mm									
		112	m				施工	第0	-0009号表
管明示テープ工									
		110	m				施工	第0	-0010号表
管明示シート工									
		111	m				施工	第0	-0011号表
*** 合計 ***									
		110	m						
*** 単位当り ***									
		1	m						

圧送管排泥

科目内訳表

科目 第0002号表

頁0-0023

呼び径100mm

4

m

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
下水道用ダクティル鉄管 直管 呼び径100mm S種 GX形					
刊行物単価	1	本			
下水道用ダクティル鉄管 呼び径100mm GX形 45°曲管					
刊行物単価	3	個			
下水道用ダクティル鉄管 呼び径100mm GX形 受挿しソフトール仕切弁					
刊行物単価	1	基			
仕切弁筐 φ75～200 DP2.78m 調査単価					
刊行物単価	1	基			
下水道用接合材 呼び径100mm 異形管用 GX形					
刊行物単価	5	個			
VCジョイント φ100					
刊行物単価	1	個			
耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 呼び径100mm 長5.0m					
刊行物単価	1	本			
鉄管布設工 吊込み据付工（機械）φ100mm					
刊行物単価	3	m			施工 第0 -0012号表
鉄管切断工 φ100mm以下（エンジンカッター）					
刊行物単価	1	口			施工 第0 -0013号表

圧送管排泥

科目内訳表

科目 第0002号表

頁0-0024

呼び径100mm

施 工 名 称 など		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
G X形継手工（異形管） φ100mm以下							
		5		口			施工 第0 -0014号表
鋳鉄製仕切弁設置工 φ100mm（機械設置）							
		1		基			施工 第0 -0015号表
仕切弁筐(ねじ式弁筐)設置工 A形 1号							
		1		箇所			施工 第0 -0008号表
硬質塩化ビニル管布設工 呼び径100mm							
		2		m			施工 第0 -0016号表
硬質塩化ビニル管切断工 φ75～250mm							
		1		口			施工 第0 -0017号表
メカニカル継手工 φ100mm以下							
		1		口			施工 第0 -0018号表
ポリエチレンスリーブ被覆工 φ100mm							
		3		m			施工 第0 -0019号表
管明示テープ工							
		4		m			施工 第0 -0010号表
管明示シート工							
		4		m			施工 第0 -0011号表

圧送管排泥

科目内訳表

科目 第0002号表

呼び径100mm		4		m		
施 工 名 称 な ど		数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	*** 合 計 ***					
		4	m			
	*** 単位当り ***					
		1	m			

建込簡易土留工

科目内訳表

科目 第0003号表

頁0-0026

施 工 名 称 など		数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
たて込み簡易土留（建込工） ｸｰﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3）						
		12.1	m			施工 第0 -0020号表
たて込み簡易土留（引抜工）						
		12.1	m			施工 第0 -0022号表
たて込み簡易土留（建込工） ｸｰﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3）						
		16.5	m			施工 第0 -0023号表
たて込み簡易土留（引抜工）						
		16.5	m			施工 第0 -0024号表
たて込み簡易土留機材質料 供用日数分 深さ2.5 m掘削幅3.0 m未満						
		1	式			施工 第0 -0025号表
たて込み簡易土留機材質料 修理費及び損耗費分 深さ2.5 m掘削幅3.0 m未満						
		1	式			施工 第0 -0026号表
*** 合 計 ***						
		28.6	m			
*** 単位当り ***						
		1	m			

組立 3 号レジンマンホール

科目内訳表

科目 第0004号表

頁0-0027

施 工 名 称 な ど		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
安曇野市型マンホール親子蓋（ T - 2 5 ） 径900mm×600mm 不法投棄防止 除雪対応型							
	調査単価	1		組			
転落防止梯子							
	刊行物単価	1		個			
マンホール 調整金具 調整高45mm まで							
		1		組			
レジンマンホール 調整リング 径900mm 有効高50mm							
	調査単価	1		個			
レジンマンホール 頂版ブロック 径1500mm 有効高160mm							
	調査単価	1		個			
レジンマンホール 直壁ブロック 径1500mm 有効高1500mm							
	調査単価	1		個			
レジンマンホール 直壁ブロック 径1500mm 有効高1800mm							
	調査単価	1		個			
レジンマンホール 直壁ブロック 径1500mm 有効高2400mm							
	調査単価	3		個			
レジンマンホール 底盤ブロック 径1660mm 有効高160mm							
	調査単価	1		個			

安曇野市

施 工 名 称 な ど		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
レジンマンホール 中間スラブ FRP製 径1660mm							
	調査単価	2		個			
組立マンホール工 3号(内径1500mm)							
		1		箇所			施工 第0 -0027号表
削孔代 3号レジン用 VU管用 φ250mm							
	調査単価	1		箇所			
可とう継手 レジン用 VU管 φ250mm							
	調査単価	1		個			
*** 単位当り ***							
		1		箇所			

施 工 名 称 など		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
レジンマンホール 直壁ブロック（塗装費） 径 1 5 0 0 mm 有効高 1 5 0 0 mm							
	調査単価	1		個			
レジンマンホール 直壁ブロック（塗装費） 径 1 5 0 0 mm 有効高 1 8 0 0 mm							
	調査単価	1		個			
レジンマンホール 直壁ブロック（塗装費） 径 1 5 0 0 mm 有効高 2 4 0 0 mm							
	調査単価	3		個			
*** 単位当り ***							
		1		箇所			

既設 1 号及び 2 号マンホール接続

科目内訳表

科目 第0006号表

頁0-0030

施 工 名 称 など		数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
削孔 既設 1 号 塩ビ φ100mm						
	刊行物単価	1	箇所			
削孔 既設 2 号 塩ビ φ250mm						
	刊行物単価	1	箇所			
可とう継手 VU管用 φ100mm						
	刊行物単価	1	個			
可とう継手 VU管用 φ250mm						
	刊行物単価	1	個			
構造物とりこわし 無筋構造物 人力施工 夜間作業 (2 0 時 ~ 6 時) なし						
		0.4	m 3			施工 第0 -0028号表
殻運搬 コンクリート(無筋)構造物とりこわし 機械積込 DID区間なし 10.9km以下						
		1	m 3			施工 第0 -0029号表
コンクリート 無筋・鉄筋構造物 一般養生 小型車割増なし 夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ 人力打設						
		0.5	m 3			施工 第0 -0030号表
型枠 一般型枠 鉄筋・無筋構造物						
		1	m 2			施工 第0 -0031号表
止水ボール賃料 300-525A 6インチ用接続金具セット含 3日間 調査単価						
		2	箇所			

科目内訳表

科目 第0006号表

施 工 名 称 な ど		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
エアコンプレッサー 3日間	調査単価	1		台			
サクションホース 6インチ用 φ 150mm	刊行物単価	2		m			
*** 単位当り ***		1		箇所			

鋼製さや管ボ-リング式一重ケーシング方式

科目内訳表

科目 第0007号表

頁0-0032

さや管径400mm 本管径250mm

3.1 m

施 工 名 称 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
鋼管					
呼び径400mm					
t=9.5mm L=800mm					
調査単価	4	本			
リングクラウン					
呼び径400mm					
調査単価	1	個			
硬質塩化ビニル管（ブレーンエンド）					
一般管 VP - 250					
	4	m			
塩ビスパーサー					
呼び径250mm用					
調査単価	2	個			
管削進工					
呼び径φ400mm					
	3.1	m			施工 第0 -0032号表
仮設備工					
	1	式			施工 第0 -0044号表
*** 合 計 ***					
	3.1	m			
*** 単位当り ***					
	1	m			

ライナープレート式土留工及び土工

科目内訳表

科目 第0008号表

頁0-0033

円形ライナープレート φ2500 t=2.7mm

1

箇所
考

施 工 名 称 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ライナープレート（円形）黒皮 板厚2.7mm φ2500 残置					
刊行物単価	10.0	m			
ライナープレート（円形）黒皮 板厚2.7mm φ2500 損料					
刊行物単価	1.5	m			
ライナ - プレ - ト掘削土留工 2 0 0 0 ~ 3 9 0 0 mm（円形） 礫質土					
	4.0	m			施工 第0 -0053号表
ライナ - プレ - ト掘削土留工 2 0 0 0 ~ 3 9 0 0 mm（円形） 礫質土					
	7.0	m			施工 第0 -0056号表
ライナ - プレ - ト取り除き工 1 5 0 0 ~ 3 0 0 0 mm（円形） ライナープレート廃棄					
	1.5	m			施工 第0 -0058号表
鋼材切断工					
	7.9	m			施工 第0 -0051号表
機械投入埋戻工 BH山積0.45m3（平積0.35） 礫質土					
	30	m 3			施工 第0 -0059号表
グラウト注入工					
	8	m 3			施工 第0 -0062号表
発生土運搬工 D T 4 t 積み 運搬距離 3 . 5 km 良好 BH クレーン付山積0.45m3（平積0.35m3）積込					
	20	m 3			施工 第0 -0064号表

ライナープレート式土留工及び土工

科目内訳表

科目 第0008号表

頁0-0034

円形ライナープレート φ2500 t=2.7mm

施 工 名 称 な ど		数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
足場工 単管足場 安全ネットあり						
		34	掛m 2			施工 第0 -0066号表
*** 単位当り ***						
		1	箇所			

科目内訳表

科目 第0009号表

施 工 名 称 な ど		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
二重管ストレーナ工法 2セット 土被り長2 . 4 8 m 1本当り注入量5 3 6 L							
		19		本			施工 第0 -0067号表
注入設備据付・解体（車上）							
		1		現場			施工 第0 -0072号表
*** 合 計 ***							
		19		本			
*** 単位当り ***							
		1		本			

鑄鉄管布設工
 吊込み据付工（機械）φ200mm

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0001号表

頁0-0036

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	0.10	人			
普通作業員	0.16	人			
機械運転 （クレーン付トラック） 4 t 積 2.9 t 吊	1.41	時間			施工 第0-0002号表
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			

施 工 内 訳 表

頁0-0037

機械運転（クレーン付トラック）
4 t 積 2.9 t 吊

施工 第0 -0002号表

1 時間 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
トラック [クレーン装置付] 4 ~ 4 . 5 t 積 2 . 9 t 吊	1.0	時間			
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	5.3	L			
運転手 (特殊)	0.17	人			
諸雑費	1	式			
* * * 単位当り * * *	1	時間			

施 工 内 訳 表

頁0-0038

鋳鉄管切断工
φ200mm（エンジンカッター）

施工 第0 -0003号表

1 口 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
特殊作業員	0.05	人			
普通作業員	0.09	人			
機械損料	0.05	日			
諸雑費（燃料 カッター刃損耗費 塗装費）	30	%			労務費の30%
*** 単位当り ***	1	口			

施 工 内 訳 表

頁0-0039

G X 形継手工（直管）

施工 第0 -0004号表

φ 200mm

1 口 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	0.06	人			
普通作業員	0.06	人			
諸雑費（滑材・接合器具損料等）	1	%			労務費の 1 %
* * * 単位当り * * *	1	口			

施 工 内 訳 表

頁0-0040

G X 形継手工（異形管）
φ 200mm

施工 第0 -0005号表

1 口 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	0.07	人			
普通作業員	0.07	人			
諸雑費（滑材・接合器具損料等）	1	%			労務費の 1 %
*** 単位当り ***	1	口			

施 工 内 訳 表

頁0-0041

G X 形継手工 (G-Link)

施工 第0 -0006号表

φ 200mm

異形管継手工60%増

1

□ 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	0.112	人			
普通作業員	0.112	人			
諸雑費 (滑材 ・ 接合器具損料等)	1	%			労務費の 1 %
* * * 単位当り * * *	1	□			

施 工 内 訳 表

頁0-0042

鋳鉄製仕切弁設置工
φ200mm（機械設置）

施工 第0 -0007号表

1 基 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	0.05	人			
普通作業員	0.08	人			
機械運転 （クレーン付トラック） 4 t 積 2.9 t 吊	0.57	時間			施工 第0-0002号表
*** 単位当り ***	1	基			

施 工 内 訳 表

仕切弁筐(ねじ式弁筐)設置工
A形 1号

施工 第0 -0008号表

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員	0.04	人			
*** 単位当り ***	1	箇所			

ポリエチレンスリーブ被覆工
φ 200mm

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0009号表

頁0-0044

100 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	0.43	人			
普通作業員	0.43	人			
ポリエチレンスリーブ 呼び径200mm (6.0m×(1+0.1))/5.0m×100	132	m			刊行物単価
固定用ゴムバンド (4組×(1+0.25)+(5.0m-1.0m))/5.0m×100	180	個			刊行物単価
*** 合 計 ***	100	m			
*** 単位当り ***	1	m			

管明示テープ工

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0010号表

100 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員	0.12	人			
管明示テープ 幅30mm 茶色	100	m			調査単価
*** 合 計 ***	100	m			
*** 単位当り ***	1	m			

施 工 内 訳 表

100 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員	0.40	人			
埋設シート W=150mm ダブル 茶色	100	m			刊行物単価
*** 合 計 ***	100	m			
*** 単位当り ***	1	m			

鑄鉄管布設工
 吊込み据付工（機械）φ100mm

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0012号表

頁0-0047

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	0.07	人			
普通作業員	0.13	人			
機械運転 （クレーン付トラック） 4 t 積 2.9 t 吊	1.21	時間			施工 第0-0002号表
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			

施 工 内 訳 表

頁0-0048

鋳鉄管切断工
φ100mm以下（エンジンカッター）

施工 第0 -0013号表

1 口 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
特殊作業員	0.03	人			
普通作業員	0.06	人			
機械損料	0.03	日			
諸雑費（燃料 カッター刃損耗費 塗装費）	30	%			労務費の30%
*** 単位当り ***	1	口			

施 工 内 訳 表

頁0-0049

G X 形継手工（異形管）
φ100mm以下

施工 第0 -0014号表

1 口 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	0.05	人			
普通作業員	0.05	人			
諸雑費（滑材・接合器具損料等）	1	%			労務費の 1 %
*** 単位当り ***	1	口			

施 工 内 訳 表

頁0-0050

鋳鉄製仕切弁設置工
φ100mm (機械設置)

施工 第0 -0015号表

1 基 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	0.03	人			
普通作業員	0.05	人			
機械運転 (クレーン付トラック) 4 t 積 2.9 t 吊	0.40	時間			施工 第0-0002号表
*** 単位当り ***	1	基			

硬質塩化ビニル管布設工
呼び径100mm

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0016号表

頁0-0051

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	0.12	人			
普通作業員	0.20	人			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			

施 工 内 訳 表

頁0-0052

硬質塩化ビニル管切断工
φ 75 ~ 250mm

施工 第0 -0017号表

1 口 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	0.02	人			
普通作業員	0.02	人			
諸雑費（工具損料・消耗費等）	5	%			労務費の 5 %
*** 単位当り ***	1	口			

施 工 内 訳 表

頁0-0053

メカニカル継手工
φ100mm以下

施工 第0 -0018号表

1 口 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	0.05	人			
普通作業員	0.05	人			
諸雑費（滑材・接合器具損料等）	1	%			労務費の1%
*** 単位当り ***	1	口			

施 工 内 訳 表

頁0-0054

ポリエチレンスリーブ被覆工
φ100mm

施工 第0 -0019号表

100 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	0.30	人			
普通作業員	0.30	人			
ポリエチレンスリーブ 呼び径100mm (5.0m×(1+0.1))/4.0m×100	137	m			刊行物単価
固定用ゴムバンド (4組×(1+0.25)+(4.0m-1.0m))/4.0m×100	200	個			刊行物単価
*** 合 計 ***	100	m			
*** 単位当り ***	1	m			

施 工 内 訳 表

頁0-0055

たて込み簡易土留（建込工）

施工 第0 -0020号表

加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ運転（機 - 1） クローラ型・標準 山積 0 . 2 8 m 3 排出ガス対策型 2 次基準	1.100	時間			施工 第0-0021号表
土木一般世話役	0.200	人			
特殊作業員	0.200	人			
普通作業員	0.400	人			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態〔作業効率 E 〕：地山 バックホウ規格： 加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			掘削深（m）：2 バックホウ機種：排出ガス対策型 2 次基準		

施 工 内 訳 表

頁0-0056

バックホウ運転 (機 - 1)
クローラ型・標準 山積0.28m3

排出ガス対策型2次基準

施工 第0 -0021号表

1 時間 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ(クローラ型)[標準型] 排ガス2次 山積0.28m3	1.000	時間			
運転手(特殊)	0.170	人			
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	5.900	L			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	時間			
規格:クローラ型・標準 山積0.28m3 岩石割増:岩石割増なし 豪雪割増:豪雪割増 工種条件と同じ 軽油(L/h):0			機種:排出ガス対策型2次基準 供用日当運転時間:0 特殊運転手(人/h):0		

たて込み簡易土留（引抜工）

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0022号表

頁0-0057

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.120	人			
特殊作業員	0.120	人			
普通作業員	0.230	人			
トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 賃料 4 . 9 t 吊 (燃料油脂費含む)	0.120	日			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
掘削深 (m) : 2					

施 工 内 訳 表

頁0-0058

たて込み簡易土留（建込工）

施工 第0 -0023号表

加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ運転（機 - 1） クローラ型・標準 山積 0 . 2 8 m 3 排出ガス対策型 2 次基準	1.500	時間			施工 第0-0021号表
土木一般世話役	0.270	人			
特殊作業員	0.270	人			
普通作業員	0.540	人			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態〔作業効率 E 〕：地山 バックホウ規格： 加-ラ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			掘削深（m）：3 バックホウ機種：排出ガス対策型 2 次基準		

たて込み簡易土留（引抜工）

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0024号表

頁0-0059

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.160	人			
特殊作業員	0.160	人			
普通作業員	0.320	人			
トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 賃料 4 . 9 t 吊 (燃料油脂費含む)	0.160	日			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
掘削深 (m) : 3					

施工内訳表

頁0-0060

たて込み簡易土留機材賃料

供用日数分

深さ2.5 m掘削幅3.0 m未満

施工 第0 -0025号表

1 式 当り

[illegible]

安 曇 野 市

施工内訳表

頁0-0061

たて込み簡易土留機材質料
修理費及び損耗費分

施工 第0 -0026号表

1 式 当り

深さ2.5 m掘削幅3.0 m未満

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0062

組立マンホール工

施工 第0 -0027号表

3号(内径1500mm)

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
組立マンホール設置工 3号 深5m超～6m以下	1.000	箇所			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	箇所			
マンホール規格：3号(内径1500mm) マンホール深さ（1号用）： 条件不要 施工規模：4箇所未満 夜間作業の有無：夜間作業（20時～6時）なし			マンホール深さ（0号用）： 条件不要 マンホール深さ（2，3号用）：5m超～6m以下 時間的制約の有無（E＝1のとき）： 条件不要		

施工内訳表

頁0-0063

構造物とりこわし
無筋構造物 人力施工

夜間作業（20時～6時）なし

施工 第0 -0028号表

1 m 3 当り

[illegible]

安曇野市

施 工 内 訳 表

頁0-0064

殻運搬

施工 第0 -0029号表

ｺﾝｸﾘｰﾄ(無筋)構造物とりこわし

機械積込 DID区間なし 10.9km以下

1

m 3 当り

機械構成比： 40.77%

労務構成比： 44.82%

材料構成比： 14.41%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 1 0 t 積級	40.77%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	44.82%	人		運転手 (一般)		
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	14.41%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
* * * 単位当り * * *						
殻発生作業：ｺﾝｸﾘｰﾄ(無筋)構造物とりこわし DID区間の有無：DID区間なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				積込工法区分：機械積込 運搬距離：10.9km以下		

施 工 内 訳 表

頁0-0065

コンクリート 無筋・鉄筋構造物

一般養生 小型車割増なし

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

人力打設

施工 第0 -0030号表

1

m 3 当り

機械構成比： 0.00%

労務構成比：

28.68%

材料構成比：

71.32%

市場単価構成比：

0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
普通作業員	12.85%	人		普通作業員		
特殊作業員	7.30%	人		特殊作業員		
土木一般世話役	6.58%	人		土木一般世話役		
生コン 1 8 - 8 - 4 0 - B B (W / C = 6 0 % 以下)	71.32%	m 3		生コンクリート 2 4 - 1 2 - 2 5 高炉 W / C 5 5 %		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

施工内訳表

頁0-0066

コンクリート 無筋・鉄筋構造物

一般養生 小型車割増なし

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ 人力打設

施工 第0 -0030号表

1

m 3 当り

機械構成比： 0.00% 勞務構成比： 28.68% 材料構成比： 71.32% 市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0067

型枠
一般型枠

鉄筋・無筋構造物

施工 第0 -0031号表

1
m 2 当り

機械構成比：0.00%

労務構成比：100.00%

材料構成比：0.00%

市場単価構成比：0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
型わく工	46.66%	人		型わく工		
普通作業員	25.14%	人		普通作業員		
土木一般世話役	9.51%	人		土木一般世話役		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
型枠の種類：一般型枠				構造物の種類：鉄筋・無筋構造物		

施 工 内 訳 表

頁0-0068

管削進工
呼び径φ400mm

施工 第0 -0032号表

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
さや管削進工 呼び径φ400mm	1.0	m			施工 第0-0033号表
残土運搬工 特殊強力吸引車	0.13	m 3			施工 第0-0037号表
塩ビ管挿入工 呼び径φ250mm	1.0	m			施工 第0-0039号表
中詰注工	0.07	m 3			施工 第0-0040号表
オーガー引抜工 呼び径φ400mm	1.0	m			施工 第0-0042号表
*** 単位当り ***	1	m			

さや管削進工
呼び径φ400mm

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0033号表

頁0-0069

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.0	人			
特殊作業員	2.0	人			
普通作業員	1.0	人			
発動発電機運転 (機 - 1 2) ディーゼルエンジン駆動 1 0 0 / 1 2 5 排出ガス対策型 1 次基準	1.0	日			施工 第0-0034号表
トラック運転 (機 - 1 8) クレーン装置付 4 ~ 4 . 5 t 積 2 . 9 t 吊	1.0	日			施工 第0-0035号表
機械器具損料 (削進工)	1.0	日			施工 第0-0036号表
諸雑費	1	式			
1 m 当り		m			計 / 日進量1.4m / 日
* * * 単位当り * * *	1	m			

施 工 内 訳 表

頁0-0070

発動発電機運転 (機 - 12)

施工 第0 -0034号表

ディーゼルエンジン駆動 100 / 125 排出ガス対策型1次基準

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 排ガス1次 100 / 125 kVA	1.000	日			
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	75.800	L			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	日			
規格：ディーゼルエンジン駆動 100 / 125 運転日当運転時間 (指定事項の場合 = 省略) : 0 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			機種：排出ガス対策型1次基準 供用日当運転日数：0 燃料 (L / 日) : 75.8		

施 工 内 訳 表

頁0-0071

トラック運転 (機 - 18)
クレーン装置付 4 ~ 4.5 t 積 2.9 t 吊

施工 第0 -0035号表

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
トラック [クレーン装置付] 4 ~ 4.5 t 積 2.9 t 吊	1.200	供用日			
運転手 (特殊)	1.000	人			
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	30.200	L			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	日			
規格 : クレーン装置付 4 ~ 4.5 t 積 2.9 t 吊 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ 特殊運転手 (人 / 日) : 1			供用日当運転時間 : 0 トラック (供用日 / 日) : 1.2 軽油 (L / 日) : 30.2		

施 工 内 訳 表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
削進機	1.0	日			刊行物単価
削進ビット 呼び径 φ 400mm	1.0	日			刊行物単価
工事用水中ポンプ賃料 口径50mm 全揚程15m 1.5kW	1.0	日			
ウォーターシベル	1.0	日			刊行物単価
シベルロッド	1.0	日			刊行物単価
シベルヘッド 呼び径 φ 400mm	1.0	日			刊行物単価
エアーシベル	1.0	日			刊行物単価
油圧ホース 10m + 5m	1.0	日			刊行物単価
キャブタイヤケーブル 38mm・4芯 20m	1.0	日			刊行物単価
コンプレッサー 190hp	1.0	日			刊行物単価
エアハンマー（エアホース含） 呼び径 φ 300～600mm	1.0	日			刊行物単価
オーガー 呼び径 φ 400mm	4.0	本			刊行物単価

機械器具損料（削進工）

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0036号表

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	日			

施 工 内 訳 表

頁0-0074

残土運搬工
特殊強力吸引車

施工 第0 -0037号表

1 m 3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
特殊強力吸引車運転工	1	m 3			施工 第0-0038号表
*** 単位当り ***	1	m 3			

特殊強力吸引車運転工

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0038号表

頁0-0075

1 m 3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	44.6	L			
運転手（一般）	0.90	人			
特殊強力吸引車損料 3.5 t 車	1.0	日			刊行物単価
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	m 3			

塩ビ管挿入工
呼び径φ250mm

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0039号表

頁0-0076

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.0	人			
特殊作業員	1.0	人			
普通作業員	2.0	人			
トラック運転 (機 - 18) クレーン装置付 4～4.5t積2.9t吊	1.0	日			施工 第0-0035号表
諸雑費	1	式			
1 m当り		m			計 / 日進量12.3m / 日
*** 単位当り ***	1	m			

中詰注入工

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0040号表

頁0-0077

1 m 3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.5	人			
特殊作業員	0.5	人			
普通作業員	1.0	人			
注入材（中込材）	1.0	m 3			施工 第0-0041号表
発動発電機運転（機 - 1 2 ） ディーゼルエンジン駆動 1 0 0 / 1 2 5 排出ガス対策型 1 次基準	0.5	日			施工 第0-0034号表
グラウトポンプ [二筒複動ピストン式] 吐出量 3 7 ~ 1 0 0 L / 分	0.5	日			
グラウトミキサ [並列 2 槽式] 攪拌容量 2 0 0 L × 2 槽	0.5	日			
グラウトホース 38mm × 20m	0.5	日			刊行物単価
諸雑費	1	式			
* * * 単位当り * * *	1	m 3			

注入材（中込材）

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0041号表

1 m 3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
セメント（普通ポルトランド） 2 5 kg袋入	0.5	t			
ベントナイト 2 5 k g （ 2 0 0メッシュ）	4	袋			
清水	0.80	m 3			
＊ ＊ ＊ 単位当り ＊ ＊ ＊	1	m 3			

施 工 内 訳 表

頁0-0079

オーガー引抜工
呼び径φ400mm

施工 第0 -0042号表

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.0	人			
特殊作業員	2.0	人			
普通作業員	1.0	人			
発動発電機運転 (機 - 1 2) ディーゼルエンジン駆動 1 0 0 / 1 2 5 排出ガス対策型 1 次基準	1.0	日			施工 第0-0034号表
トラック運転 (機 - 1 8) クレーン装置付 4 ~ 4 . 5 t 積 2 . 9 t 吊	1.0	日			施工 第0-0035号表
機械器具損料 (オーガー引抜工)	1.0	日			施工 第0-0043号表
諸雑費	1	式			
1 m当り		m			計 / 日進量10m / 日
* * * 単位当り * * *	1	m			

施 工 内 訳 表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
削進機	1.0	日			刊行物単価
工事用水中ポンプ賃料 口径50mm 全揚程15m 1.5kW	1.0	日			
油圧ホース 10m + 5m	1.0	日			刊行物単価
キャブタイヤケーブル 38mm・4芯 20m	1.0	日			刊行物単価
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	日			

施 工 内 訳 表

1 式 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
機械搬入・搬出工	1	回			施工 第0-0045号表
機械据付・撤去工	1	回			施工 第0-0046号表
鏡切り工 φ 400mm ライナープレート	1	箇所			施工 第0-0047号表
鏡切り工 φ 100mm ライナープレート	1	箇所			施工 第0-0048号表
坑口工 φ 400mm	1	箇所			施工 第0-0049号表
滑材・中詰注入設備工	1	箇所			施工 第0-0052号表
*** 単位当り ***	1	式			

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0045号表

頁0-0082

1 回 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.0	人			
特殊作業員	1.0	人			
普通作業員	3.0	人			
発動発電機運転 (機 - 1 2) ディーゼルエンジン駆動 1 0 0 / 1 2 5 排出ガス対策型 1 次基準	1.0	日			施工 第0-0034号表
トラック運転 (機 - 1 8) クレーン装置付 4 ~ 4 . 5 t 積 2 . 9 t 吊	1.0	日			施工 第0-0035号表
諸雑費	1	式			
* * * 単位当り * * *	1	回			

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0046号表

頁0-0083

1 回 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	2.0	人			
特殊作業員	2.0	人			
溶接工	2.0	人			
普通作業員	4.0	人			
溶接棒（ 4 3 0 1 ） 径 4	2.5	kg			
酸素ガス ポンベ	4.0	m 3			
アセチレンガス ポンベ	1.0	kg			
諸雑費	30	%			アセチレンの30%
発動発電機運転 （ 機 - 1 2 ） ディーゼルエンジン駆動 1 0 0 / 1 2 5 排出ガス対策型 1 次基準	1.0	日			施工 第0-0034号表
トラック運転 （ 機 - 1 8 ） クレーン装置付 4 ～ 4 . 5 t 積 2 . 9 t 吊	1.0	日			施工 第0-0035号表
電気溶接機 [交流アーク式] 手動・電撃防止器内蔵型 3 0 0 A	1.0	日			
諸雑費	1	式			

機械据付・撤去工

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0046号表

1 回 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
*** 単位当り ***	1	回			

施 工 内 訳 表

頁0-0085

鏡切り工
φ400mm ライナープレート

施工 第0 -0047号表

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.006	人			
溶接工	0.051	人			
普通作業員	0.019	人			
諸雑費	5.000	%			
1 m当り					
*** 単位当り ***	1	箇所			
土留種類：ライナ - プレ - ト			鏡切り延長 (m) : 2.3		

施 工 内 訳 表

頁0-0086

鏡切り工
φ100mm ライナープレート

施工 第0 -0048号表

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.006	人			
溶接工	0.051	人			
普通作業員	0.019	人			
諸雑費	5.000	%			
1 m当り					
*** 単位当り ***	1	箇所			
土留種類：ライナ - プレ - ト			鏡切り延長 (m) : 1.2		

坑口工
φ400mm

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0049号表

頁0-0087

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
鋼材溶接工	2.6	m			施工 第0-0050号表
鋼材切断工	5.2	m			施工 第0-0051号表
普通作業員	0.7	人			
トラック運転 (機 - 18) クレーン装置付 4 ~ 4.5 t積 2.9 t吊	0.6	日			施工 第0-0035号表
*** 単位当り ***	1	箇所			

施 工 内 訳 表

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
電力料金 使用料金 臨時 低圧電力	2.700	k W h			
溶接棒 (4 3 0 1) 径 4	0.400	kg			
土木一般世話役	0.010	人			
溶接工	0.076	人			
普通作業員	0.021	人			
電気溶接機 [交流アーク式] 手動・電撃防止器内蔵型 2 5 0 A	0.076	日			
諸雑費	30.000	%			
* * * 単位当り * * *	1	m			
電力区分：低圧 臨時			豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

施 工 内 訳 表

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
酸素ガス ポンベ	0.163	m 3			
アセチレンガス ポンベ	0.028	kg			
土木一般世話役	0.007	人			
溶接工	0.053	人			
普通作業員	0.020	人			
諸雑費	30.000	%			
*** 単位当り ***	1	m			

施 工 内 訳 表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.5	人			
特殊作業員	0.5	人			
普通作業員	1.5	人			
トラック運転 (機 - 18) クレーン装置付 4～4.5t積2.9t吊	0.5	日			施工 第0-0035号表
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	箇所			

施 工 内 訳 表

頁0-0091

ライナ - プレ - ト掘削土留工

2 0 0 0 ~ 3 9 0 0 mm (円形)

礫質土

施工 第0 -0053号表

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.610	人			
トンネル特殊工	1.830	人			
普通作業員	0.610	人			
バックホウ運転 (機 - 1 8) クローラ型・標準 山積 0 . 4 5 m 3 排出ガス対策型 1 次基準	0.610	日			施工 第0-0054号表
トラック運転 (機 - 1 8) クレーン装置付 4 ~ 4 . 5 t 積 2 . 9 t 吊	0.610	日			施工 第0-0055号表
諸雑費	1	式			
* * * 単位当り * * *	1	m			
土質区分：礫質土 掘削積込の機種：バックホウ 平積 0 . 3 5 m 3 吊機械の機種：トラック (クレーン装置付) 4t積 2.9t吊			径・短辺幅 (mm) : 2 0 0 0 ~ 3 9 0 0 mm (円形) バックホウ機種：排出ガス対策型 1 次基準 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

施 工 内 訳 表

頁0-0092

バックホウ運転 (機 - 1 8)
クローラ型・標準 山積 0 . 4 5 m 3

排出ガス対策型 1 次基準

施工 第0 -0054号表

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ (クローラ型) [標準型] 排ガス 1 次 山積 0 . 4 5 m 3	1.500	供用日			
運転手 (特殊)	1.000	人			
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	50.000	L			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	日			
規格: クローラ型・標準 山積 0 . 4 5 m 3 岩石割増: 岩石割増なし 豪雪割増: 豪雪割増 工種条件と同じ 特殊運転手 (人 / 日) : 1			機種: 排出ガス対策型 1 次基準 供用日当運転時間: 0 バックホウ (供用日 / 日) : 1.5 軽油 (L / 日) : 50		

施 工 内 訳 表

頁0-0093

トラック運転 (機 - 18)
クレーン装置付 4 ~ 4.5 t 積 2.9 t 吊

施工 第0 -0055号表

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
トラック [クレーン装置付] 4 ~ 4.5 t 積 2.9 t 吊	1.230	供用日			
運転手 (特殊)	1.000	人			
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	31.000	L			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	日			
規格 : クレーン装置付 4 ~ 4.5 t 積 2.9 t 吊 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ 特殊運転手 (人 / 日) : 1			供用日当運転時間 : 0 トラック (供用日 / 日) : 1.23 軽油 (L / 日) : 31		

施 工 内 訳 表

頁0-0094

ライナ - プレ - ト掘削土留工
2 0 0 0 ~ 3 9 0 0 mm (円形)

礫質土

施工 第0 -0056号表

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.610	人			
トンネル特殊工	1.830	人			
普通作業員	0.610	人			
クラムシェル運転 (機 - 1 8) テレスコピック式 0 . 4 m 3	0.610	日			施工 第0-0057号表
トラック運転 (機 - 1 8) クレーン装置付 4 ~ 4 . 5 t 積 2 . 9 t 吊	0.610	日			施工 第0-0055号表
諸雑費	1	式			
* * * 単位当り * * *	1	m			
土質区分：礫質土 掘削積込の機種：クラムシェル 平積 0 . 4 m 3 (深堀用) 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			径・短辺幅 (mm) : 2 0 0 0 ~ 3 9 0 0 mm (円形) 吊機械の機種：トラック (クレーン装置付) 4t積 2.9t吊		

施 工 内 訳 表

頁0-0095

クラムシェル運転 (機 - 18)
テレスコピック式 0.4m3

施工 第0 -0057号表

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
油圧クラムシェル [テレスコピック式] 0.4m3	1.600	供用日			
運転手 (特殊)	1.000	人			
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	96.000	L			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	日			
規格 : テレスコピック式 0.4m3 供用日当運転時間 : 0 クラムシェル (供用日 / 日) : 1.6 軽油 (L / 日) : 96			岩石割増 : 岩石割増なし 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ 特殊運転手 (人 / 日) : 1		

施 工 内 訳 表

頁0-0096

ライナ - プレ - ト取り除き工
1 5 0 0 ~ 3 0 0 0 mm (円形)

ライナープレート廃棄

施工 第0 -0058号表

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.290	人			
特殊作業員	0.290	人			
普通作業員	0.580	人			
トラック運転 (機 - 1 8) クレーン装置付 4 ~ 4 . 5 t 積 2 . 9 t 吊	0.290	日			施工 第0-0055号表
諸雑費	1	式			
1 m 当り		m			
* * * 単位当り * * *	1	m			
径・短辺幅 (mm) : 1 5 0 0 ~ 3 0 0 0 (円形) 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ			ライナープレート区分 : ライナープレート廃棄		

施 工 内 訳 表

頁0-0097

機械投入埋戻工 BH山積0.45m3 (平積0.35)
礫質土

施工 第0 -0059号表

100 m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	2.500	人			
普通作業員	3.800	人			
埋戻土	133.000	m 3			
バックホウ運転 (機 - 1) クローラ型・クレーン付 山積 0 . 4 5 m 3 排出ガス対策型 2 次基準	6.200	時間			施工 第0-0060号表
タンバ締固め	100.000	m 3			施工 第0-0061号表
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	100	m 3			
*** 単位当り ***	1	m 3			
バックホウ規格：バックホウ投入 山積0.45m3 (平積0.35m3) 土質区分：レキ質土 バックホウ機種：排出ガス対策型 2 次基準			埋戻土単価 (円 / m3) : 土量の変化率：ほぐした土量 / 締固め後の土量 (L / C) 豪雪割増 (バックホウ)：豪雪割増 工種条件と同じ		

施 工 内 訳 表

頁0-0098

バックホウ運転（機 - 1）

施工 第0 -0060号表

クローラ型・クレーン付 山積0．4 5 m 3 排出ガス対策型2次基準

1 時間 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ（クローラ型）[標準型] クレーン付・排ガス2次 山積0．4 5 m 3	1.000	時間			
運転手（特殊）	0.170	人			
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	8.600	L			
諸雑費	1	式			
＊ ＊ ＊ 単位当り ＊ ＊ ＊	1	時間			
規格：クローラ型・クレーン付 山積0．4 5 m 3 岩石割増：岩石割増なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ 軽油（L / h）：8.6			機種：排出ガス対策型2次基準 供用日当運転時間：0 特殊運転手（人 / h）：0.17		

タンパ締固め

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0061号表

頁0-0099

機械構成比： 1.17% 労務構成比： 97.16% 材料構成比： 1.67% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m 3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
タンパ(ランマ)賃料 質量60～80kg	1.17%	日		タンパ(ランマ)賃料		
特殊作業員	51.21%	人		特殊作業員		
普通作業員	45.95%	人		普通作業員		
ガソリン レギュラー スタンド	1.67%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

グラウト注入工

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0062号表

頁0-0100

1 m 3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.049	人			
特殊作業員	0.098	人			
普通作業員	0.049	人			
グラウト材料	1	m 3			施工 第0-0063号表
諸雑費	21	%			労務費の21%
*** 単位当り ***	1	m 3			

グラウト材料

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0063号表

頁0-0101

1 m 3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
セメント（高炉B） バラ	0.5	t			
フライアッシュ	250	k g			刊行物単価
ベントナイト 2 5 k g （ 2 0 0メッシュ）	4	袋			
*** 単位当り ***	1	m 3			

施 工 内 訳 表

頁0-0102

発生土運搬工 D T 4 t 積み

施工 第0 -0064号表

運搬距離 3 . 5 km 良好

BH クレーン付山積0.45m3 (平積0.35m3) 積込

10

m 3

当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプトラック運転 (機 - 2 2) オンロード・ディーゼル 4 t 積級	0.400	日			施工 第0-0065号表
*** 合 計 ***	10	m 3			
*** 単位当り ***	1	m 3			
運搬距離 (km) : 3.5 機種区分 (B H バケット平積容量) : BH クレーン付山積0.45m3 (平積0.35) 、4tDT 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ			市街地状況 : D I D 地区無し タイヤ損耗費及び補修費 : 良好		

施 工 内 訳 表

頁0-0103

ダンプトラック運転 (機 - 2 2)
オンロード・ディーゼル 4 t 積級

施工 第0 -0065号表

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 4 t 積級	1.290	供用日			
運転手 (一般)	1.000	人			
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	32.000	L			
タイヤ損耗費 ダンプトラック 4 t 良好	1.290	供用日			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	日			
規格 : オンロード・ディーゼル 4 t 積級 岩石割増 : 岩石割増なし 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ 一般運転手 (人 / 日) : 1 タイヤ損耗費 (供用日 / 日) : 1.29			タイヤ損耗費区分 (運搬路面状況) : 運搬路面状況 良好 供用日当運転時間 : 0 ダンプトラック (供用日 / 日) : 1.29 軽油 (L / 日) : 32		

施 工 内 訳 表

頁0-0104

足場工
単管足場

施工 第0 -0066号表

100 掛m 2 当り

安全ネットあり

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.900	人			
とび工	8.400	人			
普通作業員	1.800	人			
ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ] 賃料 排ガス 3 次 2 5 t 吊 (燃料油脂費含む)	0.800	日			
諸雑費	27.000	%			
*** 合 計 ***	100	掛m 2			
*** 単位当り ***	1	掛m 2			
足場種別：単管足場 R T C 賃料補正係数：1			安全ネットの有無：安全ネットあり		

施 工 内 訳 表

頁0-0105

二重管ストレーナ工法

2セット 土被り長2.48m

1本当たり注入量536L

施工 第0-0067号表

1 本 当 り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.106	人			
特殊作業員	0.318	人			
普通作業員	0.212	人			
注入材	536.000	L			
ボーリングマシン〔油圧式〕 5.5kW級	0.212	日			
薬液注入施工機器〔薬液注入ポンプ〕 5～20L/分×2(9.8MPa)	0.212	日			
削孔消耗材料費 レキ質土	2.700	m			施工 第0-0068号表
削孔消耗材料費 砂質土	0.880	m			施工 第0-0069号表
削孔消耗材料費 粘性土	0.400	m			施工 第0-0070号表
注入消耗材料費	0.536	k L			施工 第0-0071号表
諸雑費	22.000	%			
*** 単位当り ***	1	本			

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0067号表

二重管ストレーナ工法

2セット 土被り長 2 . 4 8 m

1本当り注入量 5 3 6 L

1 本 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
セット数：2セット 砂質土の削孔長 L 0 2 (m) ：0.88 土被り長 L 2 (m) ：2.48 水ガラス積算流量計の有無：水ガラス積算流量計なし 豪雪割増：豪雪割増なし			レキ質土の削孔長 L 0 1 (m) ：2.7 粘性土の削孔長 L 0 3 (m) ：0.4 1本当り注入量 Q s (L) ：536 特許料金：特許料金計上なし 注入材料単価 (円 / L) ：		

施 工 内 訳 表

頁0-0107

削孔消耗材料費
レキ質土

施工 第0 -0068号表

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
消耗材料費（二重管ボーリングロッド）	0.500	m			
消耗材料費（メタルクラウン） φ 4 1 mm	3.000	個			
消耗材料費（グラウトモニタ） φ 4 0 . 5 mm 複相用	0.050	個			
その他雑品	11.000	%			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土質区分：レキ質土					

施 工 内 訳 表

削孔消耗材料費
砂質土

施工 第0 -0069号表

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
消耗材料費（二重管ボーリングロッド）	0.300	m			
消耗材料費（メタルクラウン） φ 4 1 mm	0.400	個			
消耗材料費（グラウトモニタ） φ 4 0 . 5 mm 複相用	0.030	個			
その他雑品	17.000	%			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土質区分：砂質土					

施 工 内 訳 表

頁0-0109

削孔消耗材料費
粘性土

施工 第0 -0070号表

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
消耗材料費（二重管ボーリングロッド）	0.200	m			
消耗材料費（メタルクラウン） φ 4 1 mm	0.300	個			
消耗材料費（グラウトモニタ） φ 4 0 . 5 mm 複相用	0.020	個			
その他雑品	16.000	%			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土質区分：粘性土					

注入消耗材料費

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0071号表

頁0-0110

10 k L 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
消耗材料費（グラウトモニタ） φ 4 0 . 5 mm 複相用	0.200	個			
消耗材料費（注入ホース類） φ 1 2 mm 5 0 m × 3	0.050	組			
消耗材料費（サクションホース） φ 3 8 mm L = 3 m × 3	0.030	組			
その他雑品	25.000	%			
*** 合 計 ***	10	k L			
*** 単位当り ***	1	k L			

注入設備据付・解体（車上）

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0072号表

頁0-0111

1 現場 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	2.000	人			
特殊作業員	2.600	人			
普通作業員	3.700	人			
トラック運転（機 - 1） クレーン装置付 4～4.5 t積2.9 t吊	14.500	時間			施工 第0-0073号表
トラック〔普通型〕 4～4.5 t積	2.000	日			
諸雑費	1	式			
小計					
トラック損料（注入時）	2.000	日			施工 第0-0074号表
*** 単位当り ***	1	現場			
総注入量（k L）：10.177 1日当り施工本数（本／日）：9.5 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			1本当り注入量（k L／本）：0.536 供用日の割増率（α）：1		

施 工 内 訳 表

頁0-0112

トラック運転 (機 - 1)
クレーン装置付 4 ~ 4.5 t 積 2.9 t 吊

施工 第0 -0073号表

1 時間 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
トラック [クレーン装置付] 4 ~ 4.5 t 積 2.9 t 吊	1.000	時間			
運転手 (特殊)	0.170	人			
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	5.300	L			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	時間			
規格 : クレーン装置付 4 ~ 4.5 t 積 2.9 t 吊 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ 軽油 (L / h) : 0			供用日当運転時間 : 0 特殊運転手 (人 / h) : 0		

施 工 内 訳 表

頁0-0113

トラック損料（注入時）

施工 第0 -0074号表

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
トラック〔クレーン装置付〕 4～4.5 t積 2.9 t吊	1.000	日			
トラック〔普通型〕 4～4.5 t積	1.000	日			
*** 単位当り ***	1	日			
豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ					

施 工 内 訳 表

頁0-0114

床掘り
土砂

施工 第0 -0075号表

機械構成比： 18.73% 労務構成比： 74.16% 材料構成比： 7.11% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m 3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
バックホウ（クローラ型）[後方超小旋回] 排ガス 2 次 山積 0 . 2 8 m 3	18.73%	供用日		バックホウ（クローラ型）[後方超小旋回] 排ガス 2 次		
運転手（特殊）	40.26%	人		運転手（特殊）		
普通作業員	33.90%	人		普通作業員		
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	7.11%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

施工内訳表

床掘り
土砂
機械構成比： 18.73% 労務構成比： 74.16% 小規模
材料構成比： 7.11% 市場単価構成比： 0.00% 施工 第0 -0075号表

1 m 3 当り 標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
土質：土砂 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				施工方法：上記以外(小規模)		

施 工 内 訳 表

頁0-0116

機械掘削工（バックホウ）

クローラ型山積0.28m3（平積0.2m3）

施工 第0 -0076号表

100

m 3

当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.900	人			
普通作業員	5.000	人			
バックホウ運転（機 - 1） クローラ型・標準 山積 0 . 2 8 m 3 排出ガス対策型 2 次基準	11.100	時間			施工 第0-0077号表
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	100	m 3			
*** 単位当り ***	1	m 3			
バックホウ規格： クローラ型山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			バックホウ機種：	排出ガス対策型 2 次基準	

施 工 内 訳 表

頁0-0117

バックホウ運転 (機 - 1)
クローラ型・標準 山積0.28m3

排出ガス対策型2次基準

施工 第0 -0077号表

1 時間 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ(クローラ型)[標準型] 排ガス2次 山積0.28m3	1.000	時間			
運転手(特殊)	0.170	人			
軽油 小型ロ-リ- パトロール給油	5.900	L			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	時間			
規格:クローラ型・標準 山積0.28m3 岩石割増:岩石割増なし 豪雪割増:豪雪割増 工種条件と同じ 軽油(L/h):5.9			機種:排出ガス対策型2次基準 供用日当運転時間:0 特殊運転手(人/h):0.17		

埋戻し

施工内訳表

施工 第0 -0078号表

頁0-0118

機械構成比： 8.87% 労務構成比： 87.15% 材料構成比： 3.98% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m 3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
バックホウ（クローラ型）[後方超小旋回] 排ガス 2 次 山積 0 . 2 8 m 3	8.27%	供用日		バックホウ（クローラ型）[後方超小旋回] 排ガス 2 次		
タンパ及びランマ [ランマ] 質量 6 0 ~ 8 0 k g	0.60%	供用日		タンパ及びランマ [ランマ]		
普通作業員	50.03%	人		普通作業員		
特殊作業員	19.35%	人		特殊作業員		
運転手（特殊）	17.77%	人		運転手（特殊）		
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	3.14%	L		軽油 パトロール給油		

施 工 内 訳 表

埋戻し

施工 第0 -0078号表

機械構成比： 8.87% 労務構成比： 87.15% 材料構成比： 3.98% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m 3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ガソリン レギュラー スタンド	0.84%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
施工方法：上記以外(小規模) 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				土質：土砂		

施 工 内 訳 表

頁0-0120

機械投入埋戻工 BH山積0.28m3 (平積0.2)
礫質土

施工 第0 -0079号表

100 m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	2.500	人			
普通作業員	3.800	人			
埋戻土	133.000	m 3			
バックホウ運転 (機 - 1) クローラ型・標準 山積0.28m3 排出ガス対策型2次基準	7.600	時間			施工 第0-0077号表
タンバ締固め	100.000	m 3			施工 第0-0061号表
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	100	m 3			
*** 単位当り ***	1	m 3			
バックホウ規格：バックホウ投入 山積0.28m3 (平積0.2m3) 土質区分：レキ質土 バックホウ機種：排出ガス対策型2次基準			埋戻土単価(円/m3)： 土量の変化率：ほぐした土量/締固め後の土量(L/C) 豪雪割増(バックホウ)：豪雪割増 工種条件と同じ		

施 工 内 訳 表

頁0-0121

埋戻し
洗淨砂

施工 第0 -0080号表

100 m 3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
埋戻し 土砂	100	m 3			施工 第0-0081号表
埋戻土 (洗滌砂)	126	m 3			
*** 合 計 ***	100	m 3			
*** 単位当り ***	1	m 3			

埋戻し

施工内訳表

施工 第0 -0081号表

頁0-0122

機械構成比： 8.87% 労務構成比： 87.15% 材料構成比： 3.98% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m 3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
バックホウ（クローラ型）[後方超小旋回] 排ガス 2 次 山積 0 . 2 8 m 3	8.27%	供用日		バックホウ（クローラ型）[後方超小旋回] 排ガス 2 次		
タンパ及びランマ [ランマ] 質量 6 0 ~ 8 0 k g	0.60%	供用日		タンパ及びランマ [ランマ]		
普通作業員	50.03%	人		普通作業員		
特殊作業員	19.35%	人		特殊作業員		
運転手（特殊）	17.77%	人		運転手（特殊）		
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	3.14%	L		軽油 パトロール給油		

埋戻し

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0081号表

機械構成比：8.87%

労務構成比：87.15%

材料構成比：3.98%

市場単価構成比：0.00%

標準単価：1

m 3

当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ガソリン レギュラー スタンド	0.84%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
施工方法：上記以外(小規模) 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				土質：土砂		

施 工 内 訳 表

頁0-0124

機械投入埋戻工 BH山積0.28m3 (平積0.2)
砂

施工 第0 -0082号表

100 m 3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	2.500	人			
普通作業員	3.800	人			
埋戻土	126.000	m 3			
バックホウ運転 (機 - 1) クローラ型・標準 山積 0 . 2 8 m 3 排出ガス対策型 2 次基準	7.600	時間			施工 第0-0077号表
タンバ締固め	100.000	m 3			施工 第0-0061号表
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	100	m 3			
*** 単位当り ***	1	m 3			
バックホウ規格：バックホウ投入 山積0.28m3 (平積0.2m3) 土質区分：砂 バックホウ機種：排出ガス対策型 2 次基準			埋戻土単価 (円 / m3) : 土量の変化率：ほぐした土量 / 締固め後の土量 (L / C) 豪雪割増 (バックホウ)：豪雪割増 工種条件と同じ		

施 工 内 訳 表

頁0-0125

発生土運搬工 DT 4 t 積み

施工 第0 -0083号表

運搬距離 3 . 5 km 良好

BH 山積0.28m3 (平積0.2m3) 積込

10

m 3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプトラック運転 (機 - 2 2) オンロード・ディーゼル 4 t 積級	0.500	日			施工 第0-0065号表
*** 合 計 ***	10	m 3			
*** 単位当り ***	1	m 3			
運搬距離 (km) : 3.5 機種区分 (BHバケット平積容量) : BH 山積0.28m3 (平積0.2m3)、4 t DT 豪雪割増 : 豪雪割増 工種条件と同じ			市街地状況 : D I D地区無し タイヤ損耗費及び補修費 : 良好		

施 工 内 訳 表

頁0-0126

舗装版切断
アスファルト舗装版

施工 第0 -0084号表

機械構成比： 15.05% 労務構成比： 15cm以下 58.43% 材料構成比： 26.52% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音 切削深 2 0 c m級 B径 5 6 c m	10.24%	供用日		コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音		
特殊作業員	19.96%	人		特殊作業員		
土木一般世話役	10.88%	人		土木一般世話役		
普通作業員	8.92%	人		普通作業員		
ブレード (コンクリートカッタ) 径 1 8 インチ (4 5 c m)	22.39%	枚		ブレード (コンクリートカッタ) 径 1 8 インチ (4 5 c m)		
ガソリン レギュラー スタンド	2.81%	L		ガソリン レギュラー スタンド		

施 工 内 訳 表

舗装版切断
アスファルト舗装版

施工 第0 -0084号表

機械構成比： 15.05% 労務構成比： 15cm以下 58.43% 材料構成比： 26.52% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m 当り

代 表 機 労 材 規 格	構 成 比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格 (東京地区)	単 価 (東京地区)	備 考
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
舗装版種別：アスファルト舗装版 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				アスファルト舗装版厚：15cm以下		

施工内訳表

頁0-0128

舗装版破碎
アスファルト舗装版

施工 第0 -0085号表

障害等なし

1 m 2 当り

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ [クローラ・後方超小旋回] 賃料 ～超低・～排ガス3次 山積0.45m ³	12.85%	日		バックホウ [クローラ・後方超小旋回] 賃料		
土木一般世話役	29.54%	人		土木一般世話役		
運転手 (特殊)	27.52%	人		運転手 (特殊)		
普通作業員	24.18%	人		普通作業員		
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	5.91%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		

機械構成比： 12.85%

労務構成比： 81.24%

材料構成比： 5.91%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

施 工 内 訳 表

舗装版破碎
アスファルト舗装版
機械構成比：

12.85%

労務構成比：

障害等なし

81.24%

材料構成比：

5.91%

市場単価構成比：

施工 第0 -0085号表

0.00%

1
標準単価：

m 2 当り

代 表 機 労 材 規 格	構 成 比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格 (東京地区)	単 価 (東京地区)	備 考
*** 単位当り ***						
舗装版種別：アスファルト舗装版 騒音振動対策：騒音振動対策不要 積込作業の有無：積込作業あり				障害等の有無：障害等なし 舗装版厚：15cm以下 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

施 工 内 訳 表

頁0-0130

殻運搬

施工 第0 -0086号表

舗装版破碎 DID区間なし 11.5km以下

機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下) 現場～共和リテック10.1km

1 m 3 当り

機械構成比： 44.05% 労務構成比：

39.87% 材料構成比： 16.08%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 1 0 t 積級	44.05%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	39.87%	人		運転手 (一般)		
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	16.08%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
殻発生作業：舗装版破碎 DID区間の有無：DID区間なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				積込工法区分：機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下) 運搬距離：11.5km以下		

施 工 内 訳 表

頁0-0131

表層（車道・路肩部）

1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下)

平均仕上り厚 3 0 mm

施工 第0 -0087号表

1 m 2 当り

機械構成比： 0.43%

労務構成比： 44.34%

材料構成比： 55.23%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
振動ローラ（舗装用）[ハンドガイド式] 運転質量 0 . 5 ~ 0 . 6 t	0.24%	供用日		振動ローラ（舗装用）[ハンドガイド式]		
振動コンパクタ [前進型] 機械質量 4 0 ~ 6 0 k g	0.13%	供用日		振動コンパクタ [前進型]		
特殊作業員	19.57%	人		特殊作業員		
普通作業員	14.05%	人		普通作業員		
土木一般世話役	4.28%	人		土木一般世話役		
再生アスファルト混合物 密粒度（ 1 3 F ）[再生材 混入率50%以下]	50.52%	t		アスファルト混合物 密粒度（ 2 0 ）		

施 工 内 訳 表

頁0-0132

表層（車道・路肩部）

1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下)

平均仕上り厚 3 0 mm

施工 第0 -0087号表

1 m 2 当り

機械構成比： 0.43%

労務構成比：

44.34%

材料構成比：

55.23%

市場単価構成比：

0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
アスファルト乳剤 P K - 3 プライムコート用	4.48%	L		アスファルト乳剤 P K - 3 プライムコート用		
ガソリン レギュラー スタンド	0.17%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	0.03%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
平均幅員：1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) 標準締固め後密度：2.35t/m3 材料：再生 密粒度（ 1 3 F ） アスファルト混合物小型車割増：小型車割増なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				1層当り平均仕上り厚(mm)：30 瀝青材料種類：プライムコート 瀝青材料種類：プライムコート PK-3 アスファルト混合物夜間割増：夜間割増なし		

施 工 内 訳 表

頁0-0133

上層路盤（車道・路肩部）

施工 第0 -0088号表

粒度調整碎石

全仕上り厚 1 1 0 mm

1 m 2 当り

機械構成比：

11.57%

労務構成比：

37.08%

材料構成比：

51.35%

市場単価構成比：

0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
モータグレーダ[土工用] 排ガス2014 ブレード幅3.1m	7.99%	供用日		モータグレーダ[土工用] 排ガス2014		
ロードローラ[マカダム]賃料 ～超低・～排ガス2次 質量10～12t	1.00%	日		ロードローラ[マカダム]賃料		
タイヤローラ賃料 質量13～14t	0.99%	日		タイヤローラ賃料		
運転手（特殊）	16.31%	人		運転手（特殊）		
普通作業員	5.97%	人		普通作業員		
特殊作業員	5.32%	人		特殊作業員		

施 工 内 訳 表

頁0-0134

上層路盤（車道・路肩部）

施工 第0 -0088号表

粒度調整碎石

全仕上り厚 1 1 0 mm

1

m 2 当り

機械構成比： 11.57%

労務構成比： 37.08%

材料構成比： 51.35%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
土木一般世話役	4.37%	人		土木一般世話役		
粒調碎石 2 5 mm以下	47.84%	m 3		再生粒度調整碎石 R M - 4 0		
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	3.03%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
材料：粒度調整碎石 施工区分：1層施工 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				全仕上り厚(mm)：110 材料(粒度調整碎石)：粒度調整碎石 M - 2 5		

施 工 内 訳 表

頁0-0135

下層路盤（車道・路肩部）

全仕上り厚 2 0 0 mm

機械構成比： 5.72%

労務構成比：

1層施工

18.33%

材料構成比：

75.95%

市場単価構成比：

施工 第0 -0089号表

0.00%

1
標準単価：

m 2 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
モータグレーダ[土工用] 排ガス 2 0 1 4 ブレード幅 3 . 1 m	3.95%	供用日		モータグレーダ[土工用] 排ガス 2 0 1 4		
ロードローラ[マカダム]賃料 ～超低・～排ガス 2 次 質量 1 0 ～ 1 2 t	0.49%	日		ロードローラ[マカダム]賃料		
タイヤローラ賃料 質量 1 3 ～ 1 4 t	0.49%	日		タイヤローラ賃料		
運転手（特殊）	8.06%	人		運転手（特殊）		
普通作業員	2.95%	人		普通作業員		
特殊作業員	2.63%	人		特殊作業員		

施 工 内 訳 表

頁0-0136

下層路盤（車道・路肩部）

全仕上り厚 2 0 0 mm

機械構成比： 5.72%

労務構成比：

1層施工

18.33%

材料構成比：

75.95%

市場単価構成比：

0.00%

施工 第0 -0089号表

標準単価：

1

m 2 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
土木一般世話役	2.16%	人		土木一般世話役		
再生クラッシャーラン 4 0 mm以下	74.21%	m 3		クラッシャーラン C - 4 0		
軽油 小型ロ - リ - パトロール給油	1.50%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
全仕上り厚(mm)：200 材料：再生クラッシャーラン R C - 4 0				施工区分：1層施工 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

交通誘導警備員 B

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0090号表

1 人・日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
交通誘導警備員 B	1.000	人			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	人・日			
交通誘導警備員区分：交通誘導警備員 B					

施工内訳表

頁0-0138

仮設材等の運搬
製品長 1.2 m 以内

運搬距離 9 . 2 k m (搬入)

建込18.4t+ライナ-3.0t

施工 第0 -0091号表

1 t 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0139

仮設材等の運搬
製品長 1.2 m以内

運搬距離 9.2 km (搬出)

建込18.4t+51t-0.4t

施工 第0 -0092号表

1 t 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0140

仮設材等の積込み，取卸し費
基地積込み，現場取卸し（片道分）

施工 第0 -0093号表

建込18.4t+ラ付-3.0t

1 t 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
仮設材等積込み費 基地積込み	1.000	t			
仮設材等取卸し費 現場取卸し	1.000	t			
* * * 単位当り * * *	1	t			
作業区分：基地積込み，現場取卸し（片道分）					

施 工 内 訳 表

頁0-0141

仮設材等の積込み，取卸し費
現場積込み，基地取卸し（片道分）

施工 第0 -0094号表

建込18.4t+立付-0.4t

1 t 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
仮設材等積込み費 現場積込み	1.000	t			
仮設材等取卸し費 基地取卸し	1.000	t			
* * * 単位当り * * *	1	t			
作業区分：現場積込み，基地取卸し（片道分）					

施 工 内 訳 表

頁0-0142

通水試験工
既設管と連絡せず給水車で注水

施工 第0 -0095号表

1000 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工	2	人			
普通作業員	3	人			
運転手（一般）	1	人			
給水車運転工（ 4 t ）	0.5	日			施工 第0-0096号表
諸雑費	30	%			
*** 合 計 ***	1,000	m			
*** 単位当り ***	1	m			

給水車運転工（ 4 t ）

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0096号表

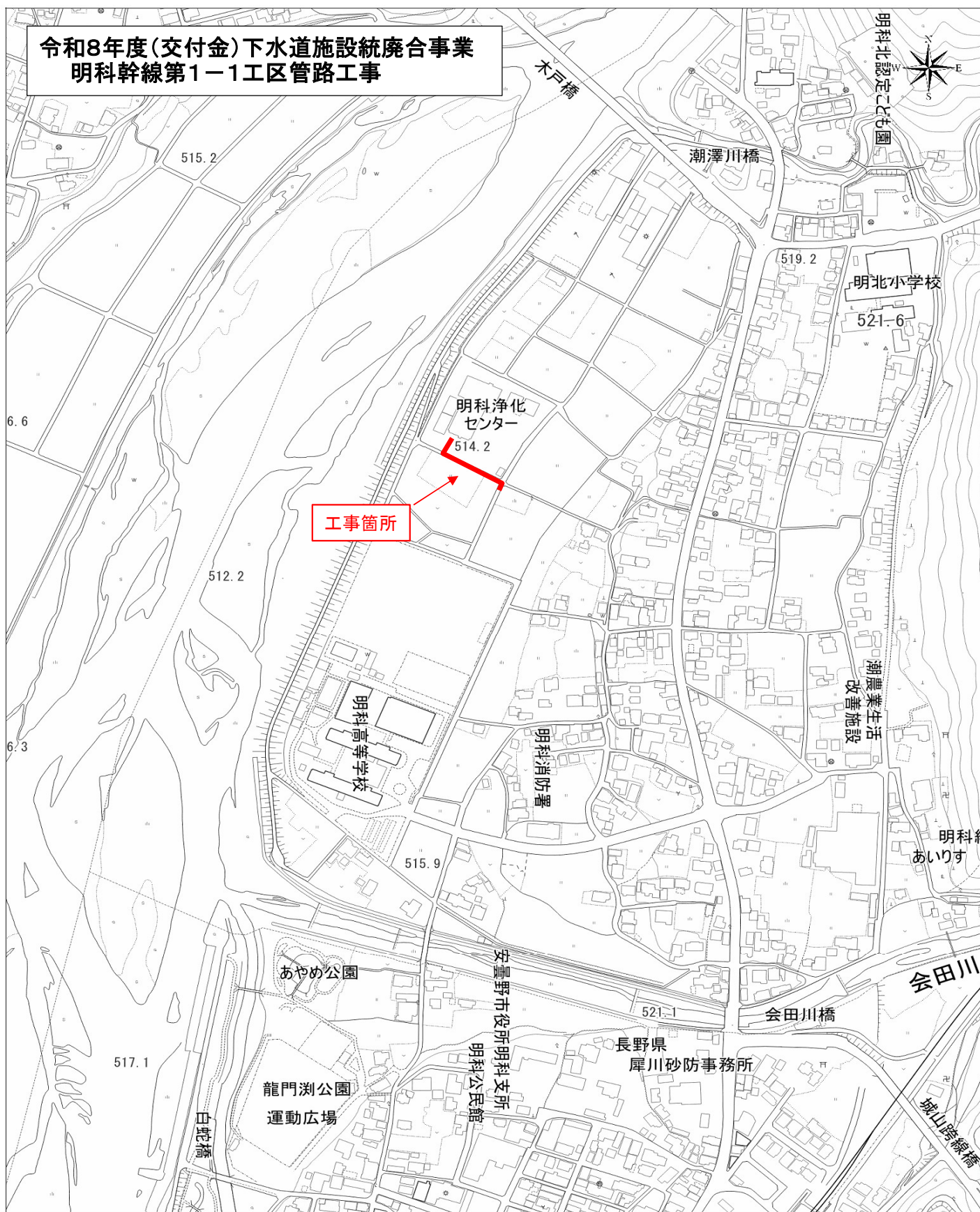
頁0-0143

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
軽油 小型口 - リ - パトロール給油	34.8	L			
給水車損料 4 t	6	時間			
*** 単位当り ***	1	日			

位置図

令和8年度(交付金)下水道施設統廃合事業
明科幹線第1-1工区管路工事



0 20 60m
1:5000

安曇野市下水道工事特記仕様書

施工条件明示

施工監理基準



令和8年4月

安曇野市上下水道部

目 次

安曇野市下水道工事特記仕様書	P. 3～16
施工条件明示	P. 17～19
別紙－1 排出ガス対策型建設機械の使用	P. 20～21
工事における提出書類一覧表	
開削工写真撮影一覧表	
出来形管理基準及び規格値（下水道）	

安曇野市下水道工事特記仕様書

第1章 総 則

(総 則)

- 1 安曇野市が発注する下水道工事の施工においては、下記に示す基準のほか、本特記仕様書によるものとする。
 - 「長野県土木工事共通仕様書」(長野県土木部)
 - 「長野県施工管理基準」(長野県土木部)
 - 「土木工事現場必携」(長野県土木部)
 - 「下水道工事施工の手引き(平成20年度版)」(長野県下水道公社)
 - 「下水道工事実施設計要領(1)―開削工編―」(長野県下水道公社)
 - 「道路土工 仮設構造物工指針」(社団法人日本道路協会)
 - 「たて込み簡易土留設計施工指針」(たて込み簡易土留協会)
 - 「安曇野市公共下水道工事施工基準」(安曇野市上下水道部下水道課)
 - 「水道事業実務必携」(全国簡易水道協議会) 令和5年改訂版
 - 「下水道用ダクタイトイル鉄管管路 設計と施工」(日本ダクタイトイル鉄管協会)
 - 「GX形ダクタイトイル鉄管 接合要領書」(日本ダクタイトイル鉄管協会)
 - 「安曇野市土木工事共通仕様書」(安曇野市都市建設部) 最新版
- 2 優先順位は、安曇野市下水道工事特記仕様書、長野県土木工事共通仕様書の順によるものとする。
- 3 該当しない工種については適用しないものとする。
- 4 個別の施工条件について、別紙のとおり定める。

(工程)

- 1 本工事は、週休2日工事の対象工事である。「安曇野市週休2日工実施要領」に従い組むものとする。

また、工事契約後、週休2日対象期間において、受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間が生じた場合は、受発注者間で協議して現場閉所による週休2日の対象外とする作業と期間を決定するものとする。
- 2 工期は雨天、休日等を見込んでいる。なお休日等には日曜日、祝日、夏季休暇、年末年始休暇のほか、作業期間内の全土曜日を含んでいる。

工期には、施工に必要な実日数(実働日数)以外に以下の事項を見込んでいる。

①準備期間 30日間 ②雨休率 0.77(実働工期日数に休日と悪天候により作業ができない日数を見込むための係数) 実働日数×係数 ③後片付け期間、その他の作業不能日に関しては見込んでいない。
- 3 受注者は、施工条件に示す関係機関と工事に対する協議等を行い、その結果を踏まえ工程計画を策定するものとする。

- 4 工事箇所又は工事箇所付近で別工事が施工されている場合、相互で工程調整を図り道路利用者の混乱を避けるよう努めるものとする。

(対外関係)

- 1 発注者は本工事着手後に沿線住民を対象とした下水道工事説明会（個別説明）を開催する。受注者は下水道工事説明会（個別説明）に出席し、発注者に提出する工程表とは別に住民向けの工程表を作成し、その内容を説明するものとする。
- 2 受注者は、通行制限を行うにあたり工事箇所沿線の宅地、事業所等の出入り及び車両の駐車場を確保しなければならない。また、沿線の宅地、事業所等に福祉車両、汲取車両、配達車両の出入りがある等特殊事情がある場合これに配慮しなければならない。
- 3 受注者は民地内での工事を行う場合、地権者の承諾を得て着手しなければならない。
- 4 受注者は、境界杭の保全には特に注意を払い、工事施工前に必ず境界杭の確認をするとともに必要に応じ控え杭、写真等に記録しなければならない。また工事の施工により境界杭を移動・破損または、亡失等させた場合は受注者の責において適切に復元しなければならない。
- 5 受注者は、民地内の土地、構造物、立木、施設に損傷を与えた場合は地権者及び管理者に直ちに報告するとともに協議の上復旧しなければならない。
- 6 受注者は、施行条件に示す関係機関との立会等の必要がある場合には、これにあたらなければならない。
- 7 関係機関、所有者、管理者並びにその他関係者との協議内容については、書面及び写真などで協議記録として残すこととする。なお、協議記録の書式については任意扱いとするが、協議事項、指示事項、対応事項及び必要事項については必ず明記し、監督員からの要請があった時は提出しなければならない。

(工事支障物件、占用物)

- 1 受注者は、工事施工箇所に占用物件が予想される場合には、工事の施工に先立って地下埋設物件等の調査を行わなければならない。
- 2 受注者は、工事の施工により道路附属物、河川管理施設、占用物件に損傷を与えた場合には、直ちに応急措置をとり監督員に報告するとともに、管理者及び占用者に連絡し復旧措置を講じなければならない。
- 3 受注者は、工事途中で管理者不明の占用物件を発見した場合には、監督員に報告し、その措置は予想される占用者の立会を得て管理者を明確にしたうえで処置しなければならない。

(環境対策)

- 1 排出ガス対策型建設機械の使用については別紙－1 に示すとおりとする。
- 2 セメント及びセメント系固化材による地盤改良及び安定処理等の土砂とセメント及び

セメント細化材の攪拌混合を行う土質を使用する場合は下記によるものとする。

(1) セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領(案)(平成13年4月23日国官技第18号)により六価クロム溶出試験を実施すること。

(2) 配合設計段階の試験結果が土壤環境基準(平成3年8月23日環境庁告示第46号)を超える場合は、基準内に納まるよう設計図書に関して監督員と協議するものとする。

3 受注者は工事の施工にあたり、掘削箇所地下水を河川又は水路に放流する場合には、下記によるものとする。

(1) 流水断面及び下流域を調査し放流が可能な水量を放流するものとする。

(2) 放流に先立ち河川又は水路の管理者の承諾を得なければならない。

(3) 砂及び土砂を併せて放流してはならない。砂及び土砂を放流させた場合は河川又は水路管理者に報告するとともに、受注者の責によりこれを除去しなければならない。

(交通安全管理)

1 受注者は、工事の施工にあたり公衆の交通安全を確保しなければならない。

2 受注者は、安全管理については道路工事保安施設設置基準(平成18年4月1日国関整道管第65号)及び下記によるものとするが、工事現場の実状に応じた方法により交通管理を行わなければならない。

3 交通規制及び標識については、道路工事現場における標示施設等の設置基準(平成22年7月)に基づき適切に設置するものとする。ただし、これにより難しい場合は監督員と協議するものとする。

4 受注者は、夜間開放時には保安灯を設置するものとし、工事期間中は保安灯、バリケード、標識の保守点検を実施しなければならない。

5 受注者は、道路の交通規制を行う場合は、規制の計画を監督員に提出するとともに関係機関に所定の手続きをとらなければならない。

なお実施にあたっては、関係機関からの指示事項を順守しなければならない。

6 工事期間中に配置する交通誘導員は、施行条件に明示した配置人員とする。ただし道路管理者、交通管理者との協議条件などの社会的要件、現場精査に基づく配置人員の変更が必要になった場合は監督員と協議するものとする。

7 受注者は、通行規制に伴う迂回路を定めた場合、工事期間中は迂回路の保守、点検を行い公衆の安全な迂回を確保しなければならない。また、迂回路の損傷を発見した場合は直ちに監督員に報告しなければならない。

8 受注者は、道路に通勤車両及び建設資材を置いてはならない。

9 工事区間または、迂回路区間が小中学校の通学路に指定されている場合、契約締結後早急に学校教育課を通じて各小中学校と協議をしなければならない。通学路を変更する場合は、適切かつ安全な対策を講ずること。その他の福祉バス、巡回バス等の運行路線になっている時も同様に関係機関等と協議をすること。

10 工事区間内及び工事区間周辺に店舗がある場合は、店舗責任者及び管理者などと店舗への出入り口及び駐車場などについて事前協議すること。また、協議内容、対策等を現場着手前

に監督員へ書面にて報告すること。

(その他)

- 1 契約額が 500 万円以上の工事については、工事实績情報サービス(C O R I N S)に基づき、受注時・変更時・完成時・訂正時(工期延長、現場代理人、主任技術者の変更)に工事实績情報として工事カルテを作成し、監督員の確認を受けた上で登録すること。また、登録完了書の写しを提出すること。各登録期限は、受注・変更時登録は契約後 10 日以内(土曜日、日曜日、祝日等を除く)、完成時登録はしゅん工後 10 日以内とする。ただし、変更時と完成時との間が 10 日間に満たない場合は、変更時登録を省略し、竣工時登録に併せ行うことが出来ることとする。
- 2 契約額が 800 万円以上の工事については、建設業者は、建退協制度の発注者用掛金収納書原本を発注者へ 1 ヶ月以内に提出すること。また、竣工書類の一部として収支表を提示すること。
- 3 建設業法第 26 条の規定により、受注者が工事現場ごとに設置しなければならない専任の主任技術者又は専任の監理技術者(以下、技術者と言う。)は、適切な資格、技術力を有する者(本工事現場に常駐し、専らその職務に従事する者で、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあるものに限る)を配置すること。(受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係とは、本工事の入札執行日前に受注者と技術者との間に 3 ヶ月以上の雇用関係が必要である。)
- 4 本特記仕様書に疑義が生じた場合は、受注者と発注者が協議のうえ決定することとする。
- 5 本工事の現場技術業務を、公益財団法人長野県上下水道公社に委託している。
現場技術員は受注者に対して適切な助言指導、施工監理を行い、設計の変更、現場の施工条件、施工方法等の変更が生じた時は、監督員と協議し受注者に通知する。
- 6 監督員、現場技術員は、別途指定し通知する。

第 2 章 施 工

(起工測量)

- 1 本工事着手前に起工測量を実施し、成果を施工前に必ず提出すること。測量方法については水準測量などの適切な測量方法により行なうこと。測量を実施した際、規定値から外れているもの(スパン延長、マンホール設置地盤高、流出管底高など)があれば監督員と協議すること。また、施工後(マンホール鉄蓋設置後)上記内容を満たしていない場合は、鉄蓋の再設置(高さ修正)を依頼する場合があるので、事前調査を十分行なった上で施工すること。なお、図面に記載されているベンチマークの高さについても併せて確認作業を行ない監督員に報告すること。
- 2 起工測量結果に基づき、組立式マンホールの組合せ表を施工計画書又は施工協議書に添えて提出し、監督員の承認を得ること。なお、使用する組合せ部材に 5cm の調整リングは使用しないこと。また、しゅん工時における組立式マンホールの組合せ表をしゅん工書類に添付すること。
- 3 現場施工については、『施工計画書・材料承認願い・起工測量結果・汚水桝調査表・下請負人通知書・その他必要書類など』の提出後とし、監督員の承認を得てから現場着手することとす

る。

- 4 水準測量において設置した仮ベンチマークは、施工途中で狂いが生じないよう堅固に設けること。特に隣接工区工事が発注されている場合又は今後発注された場合には、隣接工区受注者とベンチマークの高さについて関連付けをすること。なお、本工事において設置した仮ベンチマーク(特に工事区間内周辺宅地、周辺水路脇など)は工事終了後遅滞なく撤去すること。

(自然流下管材料)

- 1 本管は、下水道用硬質塩化ビニル管(JSWAS. K-1)を使用する。
- 2 材料の運搬は丁寧に行い、材料の損傷を防ぐこと。現場において管を保管する際、曲がりや変形、リブの破損を防ぐため原則として屋内保管をすること。やむを得ず屋外保管をする時は、簡易屋根を設けるか不透明シートで管を覆い直射日光を避け、熱気がこもらないよう風通しの良い方向へ受口又は差口を向けること。また、接着剤などは冷暗所において保管すること。
- 3 取付管は、下水道用硬質塩化ビニル管(JSWAS. K-1 SRB)を使用すること。また、(社)日本下水道協会において認定している下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル管(認定資材類別『Ⅱ類』、認定資器材名『リサイクル硬質塩化ビニル管』、RS-SRB 等)を使用する時は監督員と協議すること。
- 4 プラスチック製小型マンホールは、下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール(JSWAS. K-9)を使用すると共に、鉄蓋については下水道用鋳鉄防護蓋(JSWAS. G-3)を使用する。なお、内蓋については取手が上についたものを使用すること。なお、(社)日本下水道協会において認定している下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル製ます(認定資材類別『Ⅱ類』、認定資器材名『リサイクル硬質塩化ビニル製ます・継手』)を使用する時は監督員と協議すること。
- 5 使用する全ての材料について使用承認を得ること。ただし、(社)日本下水道協会の認定工場制度による工場製品の場合は、検査証明書(自主検査結果及び検査証明書並びに検査成績書)の提出により立会い検査に代えることが出来る。この場合、事前に監督員の承認を得るとともに搬入された認定標章および製造年月日の確認をすること。
- 6 試掘により管基礎材として使用できる路盤材の有無を確認し、同時に土質試験資料の採取を行うこと。また、使用できる路盤材が確認されたときは、監督員と協議し可能な限り管基礎材として再利用できるように発生土と分けて保管すること。

(圧送管材料)

- 1 本管(圧送管)は、下水道用ダクトイル鋳鉄管(JSWAS. G-1)を使用する。
- 2 管、弁類を取り扱う場合は、その接合部及び塗装部分などに損傷を与えてはならない。
- 3 管、弁類の積みおろしをする場合は、台棒等を利用し、巻きおろすか又はクレーン等で2点吊りにより、管を損傷させないように十分な注意をしなければならない。
- 4 管、弁類を運搬又は移動する場合は、クッション材を用いて行い、損傷、内面塗装を痛めないよう十分な注意をしなければならない。
- 5 管、弁類を保管又は一時仮置きする場合は、台棒、角材、板材等を敷いて、直接地面に接しないようにし、転がり止めを確実に行わなければならない。

- 6 材料の運搬は丁寧に行い、材料の損傷を防ぐこと。現場において管を保管する際、曲がりや変形を防ぐため原則として屋内保管をすること。やむを得ず屋外保管をする時は、簡易屋根を設けるか不透明シートで管を覆い直射日光を避け、熱気がこもらないよう風通しの良い方向へ受口又は差口を向けること。また、接着剤などは冷暗所において保管すること。
- 7 組立式マンホールと本管との接続は、設計書に記載の可とう継手を設計図にしたがって設置すること。
- 8 使用する全ての材料について使用承認を得ること。ただし、(社)日本下水道協会の認定工場制度による工場製品の場合は、検査証明書(自主検査結果及び検査証明書並びに検査成績書)の提出により立会い検査に代えることが出来る。この場合、事前に監督員の承認を得るとともに搬入された認定標章および製造年月日の確認をすること。
- 9 管渠の基礎に使用する材料は、埋戻し用砂を使用するものとする。
- 10 試掘により管基礎材として使用できる路盤材の有無を確認し、同時に土質試験資料の採取を行うこと。また、使用できる路盤材が確認されたときは、監督員と協議し可能な限り管基礎材として再利用できるように発生土と分けて保管すること。

(土 工)

- 1 掘削にあたっては、設計幅以上とならないよう施工すること。なお、土質による設計変更は基本的に行わないものとする。建物、その他構造物等に接近した場合には、完全な防護を施した上で施工すること。
- 2 本工事により発生する残土は原則として指定処分とする。なお、残土処分量が確認できる資料をしゅん工書類に添付して報告すること。

施工計画書には現場から仮置場までの搬出経路、搬出距離及び運搬時間を明記し、仮置場から最終処分場までの搬出経路、搬出距離及び運搬時間も明記すること。なお、仮置場(現場発生土、アスファルト殻など)の安全対策を講じたものを施工計画書に明記すること。
- 3 管上 10cm から 30cm までの良質土埋戻しは、レキ径 20 mm を超えない土砂とする。下水道実施設計要領(1)一開削工編一及び日本下水道協会(G-1)規格を確認し埋戻し材を決めること。埋戻し材を変更する場合には、変更理由、使用材料、施工方法などを監督員と協議すること
- 4 埋戻し材の土の含水比、締固め試験、修正 CBR 試験を報告すること。なお、品質基準値は、締固め度(90%以上)・修正 CBR(20%以上)とする。
- 5 埋戻し材は発生土の良質なものとし、埋戻しに適した含水比で埋戻すこと。軟弱土質等埋戻し材として不適当と判断された時は砂等で置き換えて施工すること。
- 6 埋戻しの施工にあたり、管渠その他の構造物の下部に空隙が生じないようにすること。また偏圧が作用しないよう左右均等に十分な締固めること。
- 7 埋戻し作業にあたり、管渠に影響を与えないよう土砂を投入し、一層の厚さが 30cm を超えない範囲で一層毎に不陸のないよう敷均し人力により十分締め固めること。路体の締固め密度は最大乾燥密度の 85%以上・路床は 90%以上を確保し、密度試験は 500 m³に 1 回の割合で行うこと。
- 8 受注者は施工後の路面の不等沈下や宅地の地盤沈下等が生じない様、入念に埋戻しを行うも

のとする。

- 9 掘削溝内に埋設物がある時は、埋設物管理者との協議に基づく防護を施し、埋設物付近が将来沈下しないようにすること。
- 10 路体部、路床部の密度試験実施箇所については、発注用の平面図へ試験実施箇所が分かるよう記載し監督員へ報告すること。
- 11 農地を残土置場又は資材置場などに使用する際は、契約締結後早急に農業委員会事務局<三郷総合支所内>と協議し、「農地の一時利用転用願」を提出すること。

(本管布設)

- 1 管の布設にあたっては「安曇野市公共下水道工事施工基準」によるものとする。
- 2 埋設物等があり設計書どおり施工できない場合は協議すること。(上水道管やその他構造物などとの離隔は交差時、並列時共 30cm を原則とする。)
- 3 ゴム輪接合において、ゴム輪が正確に溝にはまっているか確認すること。ゴム輪のねじれ・はみ出しがある場合は再装着すること。また、ゴム輪接合部に付着している泥土、水分、油分等は乾いた布などで清掃すること。
- 4 接着剤塗布後は、素早く差口を受口に挿入し所定の位置まで差し込みそのまましばらく保持すること。なお、呼び径 200 mm 以上は原則として挿入機を使用し、かけや等による叩き込みはしないこと。また、接着直後は接合部に無理な外力が加わらないように注意すること。
- 5 管の基礎については設計厚以上を確保すること。また、良質土埋戻しを管基礎の材料と同様のものに変更した場合も設計厚以上を確保すること。その際の写真撮影、出来形管理等は管基礎と同様の管理を行なうこと。
- 6 管の据付けに先立ち、十分管体検査を行い、亀裂、塗装のはがれ、その他の欠陥がないことを確認しなければならない。
- 7 管の吊り下ろしにあたって、土留用切梁を一時取り外す必要がある場合は、必ず適切な補強を施し、安全を確認の上作業しなければならない。
- 8 管の据付けにあたっては、管内部を十分清掃し、水平器、型板、水準等を使用し、中心線及び高低を確定して移動しないように固定する。このとき、管体の表示記号を上に向けて据付けなければならない。
- 9 直管を使用して曲げ配管を行わなければならない場合は、監督員の承諾を得てから継手の持つ許容曲げ角度以内で行わなければならない。
- 10 一日の布設作業完了後は、管内に土砂、汚水等が流入しないような措置を行うとともに、管内には綿布及び工具類等を置き忘れないよう注意しなければならない。
- 11 さや管内へ管を布設する場合は、さや管と布設管が接触して塗装面が損傷しないように、押し込みには適切な器具等を取り付けなければならない。
- 12 配管作業に従事する技能者は、豊富な経験と知識を有する熟練した者でなければならない。

(管の切断)

- 1 管の切断にあたっては、所用の切り管長及び切断箇所を正確に定め、切断線の標線を管の全

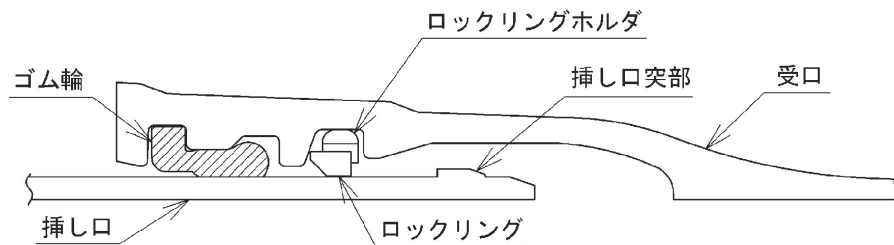
周にわたって入れる。

- 2 管の切断は、管軸に対して直角に入れること。
- 3 切り管が必要な場合には残管を照合調査し、極力残管を使用すること。
- 4 鋳鉄管の切断は切断機で行うことを標準とし、異形管を切断してはならない。
- 5 鋳鉄管の切断面は、ダクタイト切管鉄部用塗料で塗装し防食しなければならない。
- 6 鋼管は切断完了後、新管の開先形状に準じて丁寧に開先仕上げを行う。また、切断部分の塗装は、原則として新管と同様に仕上げること。

(管の接合)

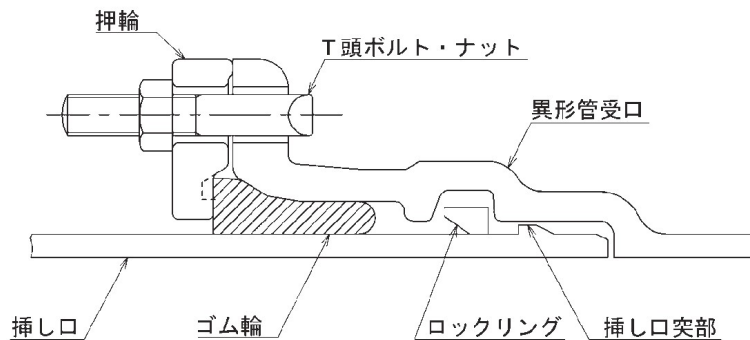
G X形ダクタイト鋳鉄管の接合

a. 直管の接合 : $\phi 75 \sim \phi 400$



- 1 管のメーカーマークを上にして、所定に位置に静かに吊りおろす。
- 2 管の受口溝とゴム輪の当たる面及び挿し口外面の異物除去と清掃を行う。
- 3 ロックリングとロックリングホルダの確認を行う。
- 4 ゴム輪を確認後清掃し、受口内面の所定の位置に装着する。
- 5 ゴム輪の内面と挿し口外面のテーパ部から所定の位置まで滑剤を塗布する。
- 6 管をクレーンなどで吊った状態にして、挿し口を受口に預ける。この時 2 本の管が一直線又は 2° 以内になるようにする。
- 7 レバブロックを操作して挿し口を受口に挿入し、所定の位置まで受口端面にくるように合わせる。このとき、曲げ挿入は行わないこと。

b. 異形管の接合 : $\phi 75 \sim \phi 400$



- 1 挿し口外面と受口内面の清掃を行う。

- 2 接合部品(押輪及びゴム輪)を挿し口へ預け入れる。
- 3 受口内面、挿し口外面、ゴム輪外面に滑剤を塗布する。
- 4 挿し口を受口に挿入する。
- 5 ストッパーを取り外す。
- 6 挿し口突部がロックリングを通過しているか確認する。
- 7 ゴム輪、押輪をT頭ボルト・ナットで締め付ける。
- 8 押輪の施工管理用突部と受口端面がメタルタッチになっていることを確認する。

(管路山留め)

- 1 開削工事の土留工は、土工標準図に記載の土留め材で施工することを標準とし、これにより難しい場合は監督員と協議すること。
- 2 土留と地山に間隙が生じた場合は、砂詰め等を行い周辺地盤に影響が出ないように施工すること。
- 3 施工計画書に土留工の構造計算書を添付すること。その際、構造計算書には作成者の押印をすること。また、構造計算書の作成にあたり次の内容を守ること。土留め設置高及び掘削幅毎に計算書を作成し、土の単位体積重量は $20.0 \text{ (kN/m}^3\text{)}$ 、載荷重 $10.0 \text{ (kN/m}^2\text{)}$ 、内部摩擦角を算出する際の N 値は 6 とする。なお、本条件と違う土質条件の場合には、参考資料、土質状況写真及びその他関係資料を添えて監督員と協議し、監督員の承認後構造計算書を作成すること。
- 4 建て込み簡易土留めの施工に当たっては、土留材の設置部を先掘りしながら所定の深さに設置しなければならない。先掘りは背面土砂が崩壊しない深さとし、30cm 以下で施工しなければならない。なお、全ての箇所において土留材は掘削底面と同じか又は深く設置しなければならない。
- 5 土留めを建て込む際に使用するバックホウは、クレーン仕様を原則とする。なお、クレーン仕様が分かる写真を撮影し、しゅん工書類に添付すること。
- 6 バックホウによる吊り込み作業には、専用装置以外の装置を使用しないこと。また、バックホウでの打撃による建込は行わないこと。
- 7 機材の引き抜きは、トラッククレーン等により施工すること。
- 8 機材は締固め厚さ毎に引き抜き、パネル部分の埋戻しと締固めを十分行い、写真確認が後日できるように管理すること。
- 9 土留めパネル裏側に空隙が生じた場合、アスファルト舗装などを撤去し裏込め材を投入すること。また、土留めパネル引き抜き後は開削部分だけでなく空隙が生じた箇所も十分転圧すること。なお、転圧が不十分な場合には、道路面における地盤沈下があるので細心の注意を払って施工すること。

(立坑土留め)

- 1 立坑(マンホールポンプ設置部)に使用する土留めはライナープレートを標準とする。
- 2 使用するライナープレートは、地質条件及び掘削方式を検討の上、十分に安全なものを選定し、施工計画書に明記し監督員に提出しなければならない。

- 3 ライナープレート式土留工の施工は、周囲の状況を考慮し、掘削深さ、土質、地下水位、作用する土圧及び載荷重を十分検討し施工しなければならない。
- 4 ライナープレート式土留工の土留掘削に先立ち、溝掘り及び探針を行い、埋設物の有無を確認しなければならない。
- 5 ライナープレート土留掘削は、先行掘削になるため、地盤が自立していることを確認し順次掘下げていくこと。また、ライナープレートと地山との空隙を少なくするよう掘削しなければならない。
- 6 掘削は1リングごとに行い、地山の崩壊を防止するために速やかにライナープレートを設置しなければならない。
- 7 1リング組立て完了後、形状、寸法、水平度及び鉛直度等を確認し、ライナープレートを固定するため、頂部をコンクリート及びH鋼等で組んだ井桁による方法で堅固に固定し、移動や変形を防止しなければならない。
- 8 ライナープレートの組立てにおいて、継目が縦方向に通らないよう千鳥状に設置しなければならない。また、土留背面と掘削壁との間にエアーモルタル等で間隙が生じないようにグラウト注入し、固定しなければならない。
- 9 補強リングを用いる場合には、補強リングをライナープレートに仮止めしながら継手版を用いて環状に組立て、その後、下段のライナープレートを組立てるときに、円周方向のボルトで固定しなければならない。
- 10 ライナープレート埋戻しにおいて、ライナープレート存置は設計図書による。ただし、立坑上部については取りはずすこととし、その処置及び方法について監督員と協議しなければならない。
- 11 立坑内での作業員の昇降設備や立坑内への資機材の吊下しについては、安全を十分に確保したうえで作業を行わなければならない。

(マンホール設置工)

- 1 調整モルタルの打設は舗装復旧前を原則とする。
- 2 インバート形状は流入管底と流出管底を直線で結んだものとする。ただし、落差の大きい箇所副管を使用しない場合、または直角に曲がるインバートの場合は監督員と協議すること。
- 3 工区最下流並びに最上流マンホールのインバートは、設計書の数量計算書に基づくものとする。上流より流入計画のあるマンホール(平面図において確認すること。)については、原則としてインバートの施工はしないこと。ただし、副管の場合はこの限りではないので監督員と協議すること。
- 4 起点マンホールのインバートは流出管幅でマンホール内径全ての長さを円形に仕上げること。ただし、取付管流入がある場合は2の記載による。
- 5 1号マンホールのステップは原則として流出側に設置する。
- 6 マンホール鉄蓋の向きは、デザインの上部が流出管方向を向くよう設置すること。ただし、親子蓋の場合は、上記5と関連付けをすること。
- 7 マンホール深さが2mを超える時は、転落防止梯子付の鉄蓋を設置すること。

- 8 既設マンホールへ接続する際は、管の端面を内壁に一致させること。なお、供用開始後のマンホールへ接続する際には、酸素欠乏空気の危険性、有毒ガス発生の可能性等の有無について事前に調査すること。また、作業にあたっては関係法令等を遵守し作業の安全性を確保すること。
- 9 副管の本管への接続は本管勾配に対して直角に設置する。また管端が突出しないように鉛直に行うこと。
- 10 マンホール部材の吊り込みは、上下同時作業にならないように施工すること。また、マンホール周辺の埋戻しは、極力部材 1 個毎に行ない偏土圧による傾斜を防止するため、360 度均一に行うこと。ただし、組立て完成写真を撮影するため施工方法、写真撮影時期について監督員と協議すること。
- 11 マンホール設置地盤高については特に留意し、周辺地盤高、道路勾配(縦断勾配、横断勾配)、周辺構造物などとの整合を図ること。

(補助地盤改良工(薬液注入))

- 1 薬液注入工事の着手前に下記について監督員の確認を得なければならない。
 - (1) 工法関係 ① 注入圧 管路編 2-11 ② 注入速度 ③ 注入順序 ④ ステップ長
 - (2) 材料関係 ① 材料(購入・流通経路等を含む) ② ゲルタイム ③ 配合
- 2 薬液注入工事は、「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針(建設省通達)」の規定によること。
- 3 薬液注入工事の施工管理等は、「薬液注入工事に係る施工管理等について(建設省通達)」の規定によること。
- 4 注入工事の施工にあたっては、昭和 52 年 4 月 21 日付け建設省官技発第 157 号「薬液注入工法の管理について」に定められた技術者を注入責任技術者として届け出るとともに、注入作業中は常駐させるものとする。
- 5 注入工事に使用する薬液は、水ガラス系の薬液(主剤が珪酸ナトリウムである薬液をいう。)で、劇物またはフッ素化合物を含まないものに限る。ただし、工事施工中緊急事態が発生し、第二次災害を防ぐための応急措置として薬液注入工事を施工する場合は、監督員の承諾を得て現場の状況に応じて、劇物の少ない薬液を使用することができる。この場合においてもアクリルアミドは使用しないこと。
- 6 薬液注入工事を施工するにあたっては、注入箇所及びその周辺地域の地下水、公共用水域、土質、地下埋設物、井戸、植物並びに農作物等について、あらかじめ調査をしなければならない。

(さや管推進工)

1 一般事項

- (1) 推進工事施工に際しては、十分な知識と経験を有する技術指導員を現場に随時派遣し、作業者を指導しなければならない。
- (2) 当該工事箇所の構造物等の管理者がいる場合は工事着手前に工程、施工方法等の打ち合

わせをし、事故防止、工事進捗等に支障のないようにしなければならない。

- (3) 地下埋設物等の支障物件については事前に調査を行い、関係者と調整、打ち合わせを行い、必要な措置を講じなければならない。

2 さや管

- ① さや管は原則として、一般構造用炭素鋼鋼管（STK400）を標準管とする。ただし、その他の管を使用する場合は、あらかじめ監督員の承認を受けなければならない。

3 さや管推進工

- ① 工事に先立ち、土質調査資料等を十分検討し、推進方法及び補助工法等を選定する。
- ② 管の押込みにあたっては、設計図書に基づいて中心線及び高低を確認し、施工しなければならない。
- ③ 掘削の結果、管の押込みに対しての後方（地山）支持力が不十分な時は監督員と協議のうえ、必要に応じて適切な補強をしなければならない。
- ④ 管の押込みにあたっては、管先端部周囲の土砂の崩落を防ぐ工法で行い、管内に入った土砂だけを掘出し、先掘り等の周囲の土砂をゆるめることのないように施工しなければならない。
- ⑤ 管の接合は、地下水、細砂等が流入しないようにシーリング材充填等を行わなければならない。又押込み口には出水時の排水のための、水替え設備を準備しなければならない。
- ⑥ 監督員が指示した場合は、地質の変化があるごとに資料を採集し、地層の状態について地層図を作成し、監督員に提出しなければならない。
- ⑦ 押込み中に、障害物、湧水、土砂崩れ等が生じたときは、直ちに臨機の処置をとるとともに、監督員に報告しなければならない。
- ⑧ 管の周囲に空隙を生じた場合は、直ちにセメントグラウト等で裏込め充填しなければならない。
- ⑨ グラウトは管内面から行い、配合、注入圧力は監督員と協議し、承諾を得なければならない。又、施工については監督員の立会を原則とする。
- ⑩ 地盤改良を行う場合は監督員と協議し、承認を得なければならない。

4 押込み完了後の処置

- ① 地山補強等は配管工事に支障ないように、速やかに取り壊さなければならない。
- ② さや管の継手部は再確認し、必要あれば再度シーリング等の充填を行うこと。
- ③ 必要に応じて、管の周囲にセメントグラウトを行うが、工事箇所周囲の状況には十分注意し、井戸水等への影響がないようにしなければならない。

（仮設工）

- 1 本工事の仮設工は施工条件明示による。
- 2 受注者は、安曇野市景観条例（平成24年3月26日条例第10号）第12条3の規定に基づき、屋外における土石、廃棄物、再生資源その他物件の堆積が以下の値を超える場合は、安曇野市長に景観計画区域内における行為の届出を行為の30日前までに行うこと。

※面積 100 m²又は堆積の高さが 3 m （届出先：都市建設部 建築住宅課 建築景観係）

（用地関係）

- 1 工事に伴い、現場事務所、材料置場、土砂置場等に要する敷地が必要な場合、敷地の借り受けその他必要な手続きは受注者の責任において行うものとする。
- 2 前項により用地処理したときは、その土地使用により生じた苦情、紛争等は受注者が責任を持って解決しなければならない。
- 3 工事に伴い、工事箇所隣接する土地の境界杭や構造物が支障となる場合は、直ちに監督員と協議し、物件所有者と調整を図ること。

（付帯工）

- 1 本工事におけるアスファルト舗装復旧は仮復旧を原則とし、1 路線毎随時復旧する。なお、設計幅以上の復旧は監督員の指示があるとき以外は原則として設計変更の対象としない。ただし、既設舗装の損傷及びその他地下埋設物の復旧跡などがある場合は事前に監督員に報告すること。また、アスファルト舗装を復旧する際には監督員の現地立会いを受けたあとに行なうこと。
- 2 下層路盤及び上層路盤の出来形管理は、設計掘削幅に対し管理すること。
- 3 路盤工の 1 層当たりの最大仕上げ厚は、上層路盤は 15 cm、下層路盤は 20 cm までとする。
- 4 舗装復旧する際に使用した舗装止め型枠等は、舗装復旧終了後速やかに撤去及び片付けをすること。また、撤去した合材が農地や宅地に飛散した場合も同様に撤去及び片付けをすること。
- 5 舗装復旧（本復旧、仮復旧とも）をする場合には、建設機械などで道路上にある構造物（下水道用マンホール鉄蓋、上水道用仕切弁、横断水路など）に影響を与えないようにすること。また、各構造物の高さ調整が必要となる場合には、協議書に図面及び現況写真等を添えて監督員と協議すること。なお、路肩にある構造物等も同様に整合を図ること。
- 6 舗装復旧は周辺の構造物及び路面と整合を図りながら平坦性を保ち施工する。
- 7 舗装施工中は温度管理に注意し、常に平坦性を考慮しながら仕上げを行なうこと。また、開放時の温度や外気温等にも注意し施工を行ない、温度管理同様写真管理を行なうこと。
- 8 舗装終了後は、マンホール鉄蓋に付着したアスファルト合材を除去すること。
- 9 本工事において消失した路面表示は、施工前の状態に復旧するものとする。この場合設計の掘削幅のみ設計計上のみ変更対象影響とする。ただし、既存道路の路面状態が悪い場合や消失しかけた場合などの理由はこの限りではないので、現場作業着手前に監督員と現地立会いを実施し、工事後の路面状況により（本復旧又は仮復旧）路面表示等の各復旧方法についての対応を監督員と協議すること。
- 10 工事箇所周辺に水路等がある場合には、現地作業終了後水路清掃を行うこと。また、本工事において支障を与えた農地等の土手崩落及び舗装道路、砂利道の路肩崩落、迂回路の路面復旧等も現地作業終了後復旧すること。
- 11 宅地への出入り、農地等への出入りは土地所有者及び耕作者等と協議して施工すること。また、施工に際しては『施工前よりも施工後の出入り条件が悪くなった』などの苦情がないよう

にすること。ただし、土地所有者及び耕作者等と協議を進めていく中で、過剰なまでの要求があった場合には監督員と協議すること。

- 12 舗装コア採取箇所は監督員の指示により行い、舗装厚の確認を求めること。また、100%出来形図へ採取箇所を記載ししゅん工図書とともに提出すること。

(書類・検査)

- 1 本工における着手時、施工途中時、完成時の提出書類は「安曇野市公共下水道工事施工基準」に準じて作成すること。
- 2 配管中は継手ごとに別途添付するチェックシートを用いて管理すること。
- 3 配管中または配管後の検査として、継手接合時の作業検査、管路水圧試験が行われている。水圧の代わりに空気圧で試験を行うと、管が吹き飛ばされる恐れがあるため決して行ってはならない。

以下より管路水圧試験について示す。

- ① 管路の充水は、原則として管路の低い方から、管内空気の排出状況を確認しながら、ゆっくりと行うことが望ましい。
 - ② 管路の水圧試験は、管内の残留空気を少なくするために、充水後少なくとも一昼夜程度経過してから行うものとする。また、充水中は管路の異常の有無を点検して事故の防止に努める。
 - ③ 試験は、試験水圧まで加圧した後、一定時間保持し、その間の管路の異常の有無および圧力の変化を調べる。なお、試験水圧、保持時間および許容圧力低下量については使用水圧、管路延長、管種、付帯設備および施工条件などを考慮して適切な数値を設定する。
- 4 出来形が80%に達したときは速やかに80%予想出来形展開図を提出すること。
 - 5 マニフェストは、A表、B2表、D表、E表を搬出初日及び搬出最終日を検査時に提示すること。
 - 6 再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書については、用紙を各1枚ずつ添付し、入力した媒体(FD又はCD)も提出すること。
 - 7 資機材料の納入伝票は、受注者において品目毎に取りまとめ管理すること。また、抜き取った舗装コアについても同様に管理ししゅん工検査時に持参すること。なお、しゅん工検査後は受注者において保管すること。この場合の保管年数は、工事完了年度より5年間とする。
 - 8 デジタルカメラを使用する場合、有効画素数は200万画素以上とし、工事写真の大きさはサービス版サイズと同等とする。また、使用する用紙は白色度85%以上とし書面に於て監督員へ報告すること。
 - 9 写真撮影箇所、撮影時期などは設計図書のとおりに行なうこと。また、品質管理や出来形管理も同様に行なうこと。

(後片付け)

- 1 工事を終了したときは、残材、廃材等を撤去し工事現場の後片付け及び清掃等を工期期限内に完了しなければならない。
- 2 工事中影響を与えた構造物、土地等は管理者の承諾のもと、受注者の責任により復旧すること。

第3章 安全対策、交通管理

(安全対策・交通管理)

- 1 受注者は労働災害及び公衆災害の防止に努めなければならない。
- 2 本工事区間内に農地(水田・畑等)がある場合には、土地所有者及び耕作者と協議し、耕作(田植え、稲刈り及び収穫など)等の作業の支障にならないようにすることとする。
- 3 工事中、関係者(住民、通行者等)が詳細な工事工程、交通規制方法(迂回路等)を理解出来るよう前もって連絡や表示を行うこととする。全面通行止めの場合は遅くとも10日前、片側交互通行の場合は7日前には設置することとする。
- 4 本工事において仮駐車場が必要となった場合は、受注者において確保、手配すること。また、仮駐車場として借用した土地については原形復旧し、土地所有者の確認を受けて返すこと。
- 5 現場管理費には、工事期間中、月一回半日以上の安全教育・研修訓練等の費用が含まれているので必ず実施しなければならない。また、実施計画を施工計画書に記載し、実施状況がわかる資料をしゅん工時に提出しなければならない。
- 6 受注者は、苦情等があった場合、丁重に対応し、直ちに工事監督員に報告しなければならない。

(施 工 条 件 明 示)

注) 明示事項がない場合は、「無し」と記入する

工 事 件 名		令和 8 年度（交付金）下水道施設統廃合事業 明科幹線第 1－1 工区管路工事			
1. 工 程 関 係	・ 工期は、(令和一年一月一日)とする。237 日間(標準工期) 上記期間には、休日数、作業不能日数、各種届出等期間、社会的制約条件等、作業編成、手直し期間等を含む。 ・ 本工事は下記の関係機関、地域住民と協議を要する。				
	関 係 機 関 名		届出・協議事項		時 期
	道路管理者(市・維持管理課) 道路管理者(県安曇野建設事務所)		道路通行制限願い		着手前
	安曇野警察署		道路使用許可		着手前
	市学校教育課、小中学校、認定こども園、明科高校		小中学校通学路、バス運行、通園路、生徒の通学、各種行事調整		着手前
	地元区・沿線住民・店舗、事業所		工事説明・交通規制等		着手前
	水路管理者(土地改良・水利組合)		水止め・水替の放流		着手前
	工事支障物件の管理者		占用物付近の施工について		着手前
	安曇野市 生活環境保全課		ゴミステーションの移動・収集運搬業者の通行		着手前
	公共交通機関（あづみん）		通行制限について		着手前
	NTT、中部電力、あづみ野テレビ		電柱、架空線、地下埋設物等		着手前
	その他		必要に応じて		適時適切に対応
2. 用 地 関 係	無し				
3. 公 害 対 策 関 係	・ 指定工種において排出ガス対策型建設機械を使用すること。(別紙-1 参照)				
4. 安 全 対 策 関 係	・ 本工事における交通整理員は、下記のとおり配置を計上している。 ・ 人工数は任意扱いの参考値であるため、入札にあたり留意すること。なお、近接工事などで交通量が著しく増減した場合や、道路管理者等からの要請により現場条件に著しい変更が生じた場合を除き原則として設計変更の対象としない。				
	工種	配置場所	配置員数	実日数	備考
	管路工	起終点部	2 名	昼	

5. 仮 設 備 関 係	任意仮設 (1)土留工 ・スライドレール式建て込み簡易土留工を想定している。また、土留材は、1セット 30mを現場搬入とし、100%の設置としている。 ・小口止め及び土留の調整箇所は、軽量鋼矢板等を使用すること。 ・横断構造物等は、一時撤去・原形復旧とする。なお、事前協議を実施すると共に詳細図及び数量等の資料を提出すること。				
6. 建設副産物関係	本工事の施工において生じる特定建設資材の処分については、下記の搬出先を想定して、処分費、運搬費を計上している。(受注者の都合による処分先の変更は原則として設計変更しない。) ○建設発生土				
	搬出先の名称	処分費	運搬距離	処理施設の所在地	
	明科建材(株)	1,900 円/	3.5km	安曇野市明科中川手 2058	
	○特定建設資材（建設リサイクル法）				
	種 別	処分条件	処分先	数量	運搬距離
	アスファルト (掘削廃材)	再利用	共和リテック(株)	14 t	10.1km
	コンクリート (無筋)	再利用	共和リテック(株)	1 t	10.1km
7. 工事支障物件等	・無し				
8. 排水工（濁水 処 理 含 む）	・本工事により発生する排水は直接放流せず沈殿（沈砂）処理等を行い、各法令を守り自然環境等、悪影響を及ぼすことのないよう処理すること。 ・指示のある場合を除き、付近の公共用水域、排水用水路等に排水すること。 ・沈殿槽（沈砂）は、定期的に清掃し放流先水路等への土砂堆積防止を図り、工事完了後は放流水路の清掃（土砂上げ）を実施すること。 ・排水路下流に、ます池やわさび田があるので現地を十分確認し、管理者と協議、及び承諾を得ること。				
9. 薬液注入関係	・地下水の影響を受けるため、渇水期（1月から3月）の施工ができるよう作業工程の調整を行うこと。				

10. 占 用 条 件 関 係	・本工事は、車両通行止め を想定している。 ・長野県道路占用基準及び安曇野市掘削条件による。 ・掘削許可及び道路通行制限等の申請書の内容について、監督員による確認後、関係機関に提出すること。 ・掘削区間は出来るだけ短くし、事故防止等の対策を講じること。 ・舗装切断幅は、残舗装への影響が懸念されることから設計値とすること。 なお、工事施工に伴う残舗装の破損は、受注者の責任において復旧すること。運搬経路も同様。 ・未舗装道路の路面復旧は設計書のとおりとする。
11. 環 境 保 全	・掘削工事は、周辺構造物や地表への影響が出ないように、適切に管理を行い、沈下や陥没等が生じた場合は公衆災害防止措置を直ちに講じるとともに、速やかに監督員に報告すること。また、その指示に従い対応に当たること。
12. その他	・工事説明会 済 ・ 有（未定）・無=戸別説明 規制の伴う掘削開始は、施工計画書の決裁及び説明会（個別説明）終了後7日経過後とする。 ・現場を熟知した上、当該現場に合致した施工計画書の作成に心掛け提出すること。なお、規制の伴う現場掘削工事等は各種提出書類を監督員が受諾した後とする。 ・明科浄化センターの汚泥搬出が月3回程度あるため、（公財）長野県上下水道公社と調整の上、作業工程を立て、掘削部を一時的に埋戻し、通行の確保を行なうこと。（別途迂回路がないため）

上記定めがない事項については、国土交通省「下水道土木工事共通仕様書（案）」、長野県土木部監修「土木工事共通仕様書」「現場管理の手引き」「現場管理における実務要覧」「下水道工事の手引き」「安曇野市下水道工事特記仕様書」によるものとする。

排出ガス対策型建設機械の使用

- 1 本工事において、下記 7 に示す建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成 3 年 10 月 8 日付建設省経機発第 249 号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。
- 2 排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成 7 年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策型建設機械と同等とみなす。
- 3 施工計画書に、排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用することを明記すること。ただし、これらを使用することができない場合は、下記 4 のとおり監督員と協議するものとする。
- 4 排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を調達できない場合は、次を示す。
 - (1) 工事地域周辺の市町村にあるリース業者に、排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械の在庫がない。
 - (2) 工事地域周辺のメーカーの販売店から排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を調達するのに大幅な時間がかかる。この場合は受注者が、上記（1）（2）について、リース業者名又は販売店名を記入した上で、施工協議書を監督員へ提出すること。
- 5 排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において、使用する建設機械の写真撮影を行い、監督員に提出するものとする。この写真は、機械の形式または指定ラベルあるいは認定ラベルが明瞭に写っているものであること。
- 6 下記 7 に示す機種について、上記 4 による施工協議で排出ガス未対策型建設機械（従来型）の使用が認められ場合、および上記 5 によって排出ガス対策型建設機械の使用が確認できない場合は、従来型へ設計変更する。

7 排出ガス対策型建設機械を原則使用とする機種

機 種	備 考
一般工事用建設機械 ・ バックホウ ・ トラクタショベル ・ ブルドーザ ・ 発動発電機（可搬式） ・ 空気圧縮機（可搬式） ・ 油圧ユニット （以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシーンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの； 油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、前回転型オールケーシング掘削機） ・ ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ ホイールクレーン	ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kW以上260kW以下）を搭載した建設機械に限る。

安曇野市下水道工事施工基準

安曇野市上下水道部下水道課

工事における提出書類一覧表

請負契約後提出書類

種 類	内 容	頻 度
1 現場代理人、主任技術者の通知	技術経歴書の添付	契約毎
2 技術者報告書の提出	技術者の雇用関係証明書類添付	契約毎
3 社会保険証の写し	現場代理人、主任技術者及び監理技術者のもの	契約毎
4 建退協掛金収納書の提出	800万円以上の工事では契約後1ヶ月以内に提出する。	契約毎
5 工事カルテの提出	工事金額が500万円以上の場合、契約後10日以内にJACIC((財)日本建設情報総合センター)のコリズシステムへ登録し、その「工事カルテ受領書」の写しを提出する。	1回
6 下請負人通知書	原則不要	R3/3/2工事書類簡素化ガイドライン
7 施工体制台帳及び施工体系図	下請契約がある場合には、全ての工事において作成し提出する。	写しを協議書に添付すること。契約毎
8 前金払請求書	受注者において前払い金が必要な場合	1回
9 その他	発注者及び受注者で必要なもの。	必要回数

工事着手前提出書類

種 類	内 容	頻 度
1 工事施工計画書		契約毎
2 工事施工協議書	起工測量結果表等	工事着手後直ちに工事測量を行い、結果を監督員に提出する。契約毎
	汚水桝調査結果表等	契約毎
	予想出来型展開図	設計図書を基に起工測量結果を考慮して予想出来形展開図を作成する。(発注図面の利用及び舗装面積展開図) 契約毎
	材料承認願	人孔ブロック、鉄蓋、管類等、生コンクリート、アスファルト合材、骨材、その他工事に使用する全ての材料。 契約毎
3 事前調査結果書	図面との不一致協議	必要回数
	周辺調査・地下埋設物調査・家屋調査・その他各種事前調査資料など	契約毎
4 その他	監督員の指示するもの。	必要回数

工事における提出書類一覧表

工事中提出書類

種 類	内 容	頻 度
1 工事施工協議書	協議事項	必要回数
	材料承認願い	必要回数
	予想出来型展開図	必要回数
2 技術者等変更通知書	現場代理人、主任技術者等の変更	必要回数
3 工期延長申請書	受注者の責により工期延長する場合	必要回数
4 監督員指示書	監督員の指定するもの	必要回数
5 工事変更施工計画書	施工延長の変更、技術者等の変更、工期変更及び下請に変更があった場合	変更毎に
6 施工体制台帳及び施工体系図	下請契約に変更が生じた場合及び追加が生じた場合は提出する。	契約毎
7 事故報告書	事故があった場合	必要回数
8 80%予想出来形展開図	平面図・縦断図・舗装展開図・取付管及び汚水桝調書及び雑工関係	80%出来形
9 工事カルテの提出(変更時)	500万円以上の工事全て。なお、登録期限は変更契約時から10日以内とする。ただし、しゅん工時登録と変更時登録の間が10日以内であれば、変更時登録を省略し、しゅん工時に登録することが出来る。	変更契約毎
10 検査記録票(段階確認用)	監督員が指定した場合には提出すること。	必要回数
11 出来形確認申請書	受注者において部分払いが必要な場合	部分払を請求する回数は、安曇野市財務規則第137条による。
12 出来形検査結果通知書		
13 部分払請求書		
14 その他	監督員の指示するもの。	必要回数

工事完成時提出書類

種 類	内 容	頻 度
1 コリンス登録書(しゅん工時)	500万円以上の工事全て。登録期限はしゅん工日から10日以内とする。工期、現場代理人、主任技術者の変更時も登録する。	しゅん工時
2 しゅん工届		しゅん工時
3 請求書		しゅん工時

工事における提出書類一覧表

しゅん工書類

種 類		内 容		頻 度
1	目次			契約毎
2	経緯表		施工協議書の受け渡し内容、指示書などを日付順にまとめ	契約毎
3	施工協議書	発注者側からの協議書(指示書)も含む	日付順にまとめる。	契約毎
4	実施工程表			契約毎
5	工事記録簿(工事日誌)		工期中は空白を作らず、計画・準備・書類整備等も記入すること。	契約毎
6	監督日誌			必要回数
7	検査記録表	検査記録表	各工種すべて	出来形管理基準による
		管路施工管理図表	基準高、蛇行	5m毎に1箇所
8	使用材料集計表	下記材料の集計として		契約毎
9	各種材料受払簿	下記各種材料の集計		契約毎
10	使用材料伝票類	使用材料全て(しゅん工書類には添付不用だが、検査時に持参)	検査終了年度から5年間会社管理すること。	契約毎
11	100%出来形展開図	平面図・縦断図・舗装展開図・取付管延長・汚水桝深	工事完成時の設計寸法を()により記入し、実測寸法を()の外に記入する。	契約毎
12	調書	マンホール組合せ調書・取付管調書・汚水桝調書		契約毎
13	材料試験結果	埋戻材(発生土・砕石)密度・アスファルト(厚さ・密度)・コンクリート		品質管理基準による
14	管内調査資料	DVD、社内調査結果資料など		契約毎
15	環境調査・事前調査			契約毎
16	再生資源利用計画書 再生資源利用促進計画書		計画書は当初施工計画書に写しを添付し、実施書は媒体を添えて写しを提出する。	必要回数
17	産業廃棄物処理表	A、B2、D、E表の写しを最初、中間、最終を提出すること	検査終了年度から5年間会社管理すること。	写真も一緒にまとめる
18	社内検査資料	書類検査時写真及び検査記録表など		契約毎
19	工事写真		着工、竣工、管路工、マンホール工、取付管・桝工、附帯工、その他の順番で綴る。	契約毎
20	安全教育資料		写真や安全教育資料など	契約毎
22	交通整理員集計表	伝票を集計したものを添付する。(伝票は使用材料伝票類と一緒に綴ること)	検査終了年度から5年間会社管理すること。	契約毎
23	舗装コア	検査時に持参	検査終了年度から5年間会社管理すること。	検査毎
24	確認書、公共ます設置申請書及び同意書など	地権者の署名、㊟など	支所毎で相違しているのも、旧町村毎で使用していたもので良い。	必要毎
25	その他	監督員が指示するもの		必要回数

開削工写真撮影一覧表

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目			備 考	
		撮影項目	撮影時期	提出頻度		
着工前・完成	着工前	全景(下流から上流に向 かって撮影し、最上流スパン については、上流から下流 に向けても撮影すること)	着工前	着工前各1回		
	完成	着工前と同じ	完成後	完成後各1回		
自然流下管布設工	掘削	予掘り状況	施工中	3スパン1回		
		掘削状況				
		掘削深さ	床掘完了後	1スパン1回		
		掘削幅				
	床均し	床均し状況	施工中	3スパン1回		
		土留工	建込み状況	施工中	1スパン1回	
			設置状況			
	引抜き状況					
	発生土処分	積込み状況 (工事箇所から仮置場へ)	積込み中	3スパン1回		
					過積載の確認	
		積込み状況 (仮置場から処分場への搬 出)	積込み中	中間で1回		
					過積載の確認	
		処分状況 (仮置場含む)	積卸し	処分地及び仮置場 が異なる毎に1回の 撮影とし、着工前各 1回、完成後各1回		
			整地中			
		処分場全景 (仮置場含む)	着工前			
			整地中			
			整地後			
	基礎工 (碎石基礎工も 同様)	設置及び投入状況	施工中	1スパン1回		
		転圧状況				
	管布設工	厚さ・幅	基礎工完了後	1スパン1回		
		管敷設状況(特にジョイントソ ケット取付部の状況)	施工中	1スパン1回		
	蛇行管理状況		管布設後	3スパン1回		
		埋戻し及び投入状況	施工中	1スパン1回		
					締固め状況	
	厚さ・幅		良質土埋戻し完了 後			
	発生土埋戻し	埋戻し及び投入状況	施工中	1スパン1回		
					締固め状況	
		1層毎の厚さ・幅	1層毎の発生土埋 戻し完了後	1層毎に1スパン1回		
圧送管布設工	床掘	掘削状況	施工中	各項目とも施工延長 40mに1箇所の割合 で測定する。(離脱 防止金具設置箇所 は全て撮影し提出 すること)		
		掘削深さ	床掘完了後			
		掘削幅				
	床均し	床均し状況	施工中			
		基礎工	設置及び投入状況		施工中	
	転圧状況					
	厚さ・幅		基礎工完了後			
	管布設工	管敷設状況	施工中及び管布設 完了後			
		土留工	自然流下管に準ずること。			
	発生土処分					
	良質土埋戻し					
	発生土埋戻し					

開削工写真撮影一覧表

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目			備 考	
		撮影項目	撮影時期	提出頻度		
組立人孔	床掘	予掘り状況	施工中	3人孔に1回。3人孔未満は全人孔に1回		
		掘削状況				
		掘削深さ	床掘完了後			
		掘削幅				
	土留工	建込み状況	施工中			
		設置状況				
		引抜き状況				
	床均し	床均し状況	施工中			
	基礎工	転圧状況及び投入状況	施工中			
		厚さ・幅・長さ	基礎工完了後			
	ブロック据付工	据付状況(底版・躯体・直壁・斜壁・調整リング)	施工中	人孔毎に各1回		
		シール材及びゴム材の塗布状況				
		据付後状況	施工後			
	可とう継手	可とう継手設置状況	既設人孔流入箇所	設置箇所毎に1回		
			可とう継手は、組立人孔ブロック据付において撮影すること。	3人孔に1回。3人孔未満は全人孔に1回		
	削孔	削孔状況	既設人孔流入箇所	削孔箇所毎に1回		
	発生土埋戻し	埋戻し及び投入状況	施工中	3人孔に1回。3人孔未満は全人孔に1回		
			締固め状況			
			1層毎の厚さ		発生土埋戻し完了後	
	人孔蓋据付	据付状況	施工中	3人孔に1回。3人孔未満は全人孔に1回		
		モルタル打設状況				
	インバート工	既設インバート状況	着工前	インバート毎に1回		
		出来形状況	施工後			
		コンクリート打設状況	施工中	3人孔に1回。3人孔未満は全人孔に1回		
	副管工	管設置状況	施工中	副管毎に1回		
		コンクリート打設状況、型枠設置状況				
		出来形状況	施工後			
小型人孔	床掘	掘削状況	施工中	小型人孔毎に各1回		
		掘削深さ	床掘完了後			
		掘削幅				
	床均し	床均し状況	施工中			
	基礎工	転圧状況	施工中			
		厚さ・幅	基礎工完了後			
	据付工	据付状況(インバート、立管、レジン製品など)	施工中			
		据付後状況	施工後			
	人孔蓋据付	据付状況	施工中			
		モルタル打設状況(レジン)				
		据付後状況			施工後	
	土留工	自然流下管に準ずること。				
	発生土処分					
	良質土埋戻し					
	発生土埋戻し					

開削工写真撮影一覧表

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目			備 考
		撮影項目	撮影時期	提出頻度	
取付管工・ 汚水枦工	着工前	全景	着工前	汚水枦着工前1回	
	完成	全景	完成後	汚水枦完成後1回	
	掘削	予掘り状況	施工中(取付管工 及び汚水枦工毎に 1回)	取付管及び汚水枦5 箇所に1回	
		掘削状況			
		掘削深さ	床掘完了後(取付 管工及び汚水枦工 毎に1回)	取付管及び汚水枦 毎に1回	
		掘削幅			
	基礎工	設置及び投入状況	施工中	取付管1箇所に1回	
		転圧状況			
		厚さ・幅	基礎工完了後		
	汚水枦設置工	汚水枦設置状況	施工中	汚水枦1箇所に1回	
			施工後		
	管布設工	管敷設状況	施工中	取付管1箇所に1回	
			施工後		
	良質土埋戻し	埋戻し及び投入状況	施工中	取付管及び汚水枦5 箇所に1回	
					締固め状況
		厚さ	施工後		
	発生土埋戻し	埋戻し及び投入状況	施工中	取付管及び汚水枦5 箇所に1回	
					締固め状況
		1層毎の厚さ	施工後		
	土留工	予掘り状況	施工中	建込み箇所毎に1回	
		建込み状況			
		設置状況	施工後		
		引抜き状況			
防護蓋据付	据付状況	施工中	設置箇所毎に1回		
附帯工	舗装切断	切断状況	施工中	3スパン1回	
	舗装取壊し	取壊し状況	施工中	3スパン1回	
		積込状況			
		現況舗装厚の検測		適宜	
	路盤工	敷均し厚	施工中	各層毎100mに1回	
		転圧状況			
		整正状況	整正後	各層毎100mに1回	
		厚さ	整正後	各層毎40mに1回	
		幅	整正後	各層毎40mに1回	
	碎石埋戻し	埋戻し及び投入状況	施工中	1スパン1回	
		締固め状況			
		1層毎の厚さ	1層毎の碎石埋戻 し完了後		
		1層毎の幅			
	表層工	敷均し厚	施工中	各層毎100mに1回	
		転圧状況			
		整正状況	整正後	各層毎100mに1回	
		厚さ	整正後	200㎡に1回	
幅		整正後	各層毎40mに1回		

開削工写真撮影一覧表

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目			備 考
		撮影項目	撮影時期	提出頻度	
共通仮設	水替工	ポンプ設置状況	施工中	1施工箇所1回	
		排水状況(吐出先の状況)			
		形状寸法		ポンプ規格が異なる場合は都度1回	
	仮橋工	設置状況	設置前	1施工箇所1回	
		形状寸法	施工中		
			撤去後		
	仮設電気	設置状況	設置前	1施工箇所1回	
		形状寸法	施工中	異なる箇所に設置した場合は都度1回	
			撤去後		
	土地借上げ	借上げ状況	使用前	使用前1回	
			使用中	使用中1回	
			使用后	使用后1回	
	安全施設	各種標識類の設置	設置後	種類毎に1回	
		各種保安施設の設置			
		開口部における昼間及び夜間の安全管理写真		種類毎に1回	
		転落防止柵の設置			
		昇降梯子の設置		3スパン1回	
		監視員・交通整理状況	作業中	配置箇所毎に1回	
		安全訓練の実施状況	実施中	実施毎に1回	
使用材料	使用材料	形状寸法	使用前	使用品目及び使用部材毎に1回	
		検査実施状況	検査時	検査毎に1回	
使用機械	使用機械		使用前	機械毎に1回	
品質管理	路床・路体	現場密度の測定	試験実施中	試験毎に1回	
	路盤工	締固め密度測定	試験実施中	路盤毎に1回	
		ブルーフローリング測定	試験実施中	路盤毎に1回	
	アスファルト舗装(舗設現場)	温度測定	試験実施中	合材の種別毎に1回	
		密度試験			
		採取コア量抽出			
		粒度分析試験			
		摩り抵抗試験			
	コンクリート	スランプ試験	試験実施中	試験毎に1回	
		圧縮強度試験			
		塩化物含有量試験			
		空気量測定			
その他	補償関係	被害又は損害状況等	発生時 対応状況後	その都度	
	環境対策	各施設設置状況	設置後	種別毎に1回	
	事前調査	樹木、ブロック塀、家屋のクラックなど	着工前	実施箇所毎に1回	
		地下埋設物調査	調査後	実施箇所毎に1回	
	建退協	建退協への加盟写真	実施中	1回	
	安全教育	実施状況	実施中	実施毎に1回	
	KY活動	実施状況	実施中	適宜	

- ※1 その他必要な項目がある場合は、当該監督員と協議して決定すること。その際は、協議書を添えて協議すること。
- ※2 現場における黒板及びホワイトボードへ設計値及び実測値を記入すること。また、書類整備においても写真の横にある余白へ設計値及び実測値を記入すること。
- ※3 しゅん工書類には、区分毎及び測点毎にインデックスをつけること。

出来形管理基準及び規格値

出 来 形 管 理 基 準							出 来 高 の 規 格 値						
工 種	測 定 項 目						測 定 基 準	備考	検 査 対 象		規格値(mm)	備考	
	基準高	厚さ	幅	高さ	長さ	その他			工種	項目			
土 工	○		○	○			マンホール間ごと1箇所測定する。		土工	基準高 EL	±30		
										深さ h	±30		
										幅 B	-50		
砂基礎工	○	○	○				各マンホール間の中央部及び両端部等で測定する。		砂基礎	基準高 EL	±30		
										幅 B	-50		
										厚さ h	設計厚以上		
砕石基礎工	○	○	○				マンホール間の中央部及び両端部等を測定する。		砕石基礎	基準高 EL	±30		
										幅 B	-50		
										厚さ h	設計厚以上		
管渠工(自然流下管)	○				○	○	基準高及び蛇行は5mに1箇所毎に測定する。		自然流下管	基準高 EL	±30		
										幅 B	-50		
										厚さ h	-30		
							延長lはマンホール間を測定する。 上記を積上げた数値とする。				蛇行	管内径の5%以内 (左右の合計値)	
											勾配	逆勾配は認めない	
											延長 ℓ	-ℓ/500以内	
			総延長 L	-200									
管渠工(圧送管)	○				○	○	施工延長40mに1箇所の割合で測定する。		圧送管	基準高	±30		
										中心線の変位(水平)	±50		
										総延長	-200		
良質土埋戻工	○	○	○				マンホール間ごと1箇所測定する。		良質土埋戻し	基準高 EL	±30		
発生土埋戻工	○	○	○				マンホール間ごと1箇所測定する。		発生土埋戻し	基準高 EL	±30		
下層路盤工		○	○				幅は40mに1箇所、厚さは200mに1箇所それぞれ測定する。		路盤工	厚さ t	-45		
										幅 B	-50		
上層路盤工		○	○				幅は40mに1箇所、厚さは200mに1箇所それぞれ測定する。		路盤工	厚さ t	中規模以上-25 小規模以上-30		
										幅 B	-50		
表層工		○	○				幅は40mに1箇所、厚さは1,000㎡に1箇所それぞれ測定する。		表層工	厚さ h2	中規模以上-7 小規模以上-9		
										幅 B	-25		
組立マンホール工(小型マンホールも同マンホール基礎工)	○	○	○	○		○	マンホール毎に測定する。		マンホール	天端高 EL	±30		
										管底(上流) EL1	±30		
										管底(下流) EL2	±30		
		○	○		○		マンホール毎に測定する。		基礎工	幅・長さ	-20		
										厚さ	-20		
取付管及び柵工				○			公共柵毎に測定する。		公共柵	柵深 h	±30		
					○		公共柵毎に測定し、公共柵の中心から本管中心まで測定する。なお、人孔へ直接流入する場合は公共柵の中心より人孔中心までを測定後、人孔内径分を控除すること。		取付管	長さ L	-200		

資材単価等について

令和８年度（交付金）下水道施設統廃合事業 明科幹線第1-1工区管路工事に係る工事費の積算にあたっては、長野県建設部の「令和８年度実施設計単価表」や積算資料（財団法人経済調査会）及び建設物価（財団法人建設物価調査会）に設定されている単価により予定価格を算出しています。

また、見積もり等による単価は下記のとおりです。

なお、使用した単価は予定価格算出のものであり、特定の製品や民間取引を指定したものではありません。

見積等により決定している設計単価

(円)

[illegible]

明科地域下水道施設統廃合事業
接続管路実施設計業務委託

数量計算書
(明科1-1工区)

令和8年3月

安曇野市下水道課

1. 材料・労務（圧送管）

压送管 DIP-GX $\phi 200$ 材料

[illegible]

圧送管 DIP-GX ϕ 200 切管調書

[illegible]

圧送管 DIP-GX $\phi 200$ 労務

[illegible]

2. 材料・労務（圧送管排泥）

压送管排泥 DIP-GX,HIVP-RR $\phi 100$ 材料

[illegible]

圧送管 DIP-GX ϕ 100 切管調書

[illegible]

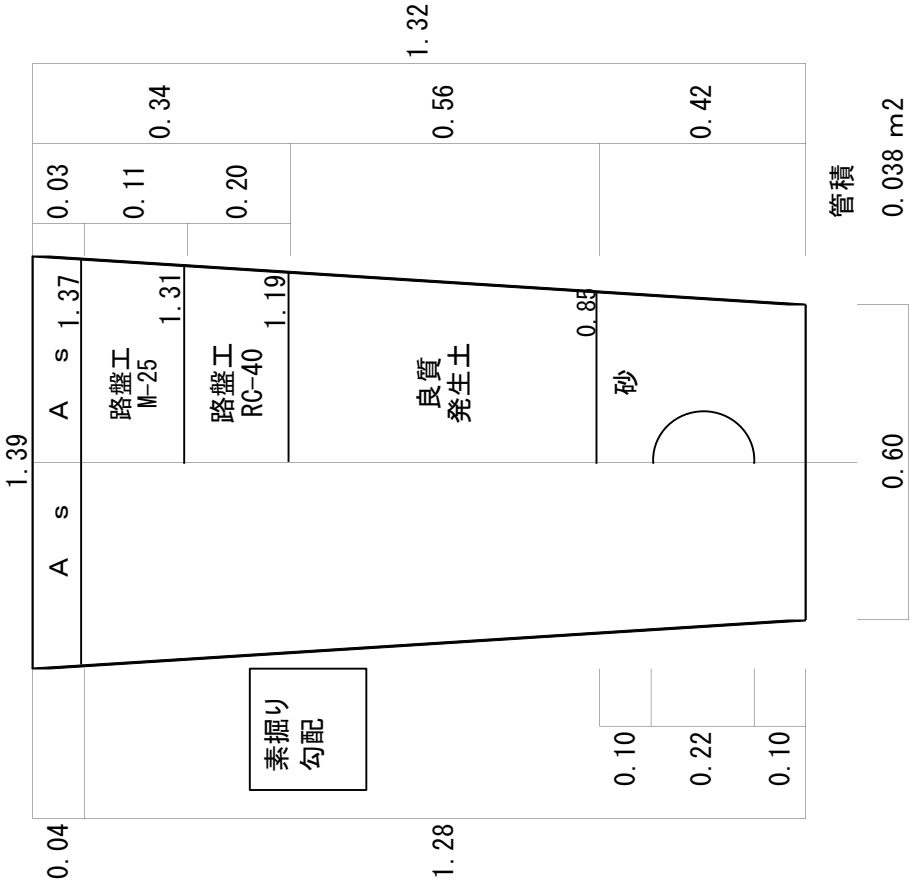
[illegible]

圧送管排泥 DIP-GX,HIVP-RR ϕ 100 労務

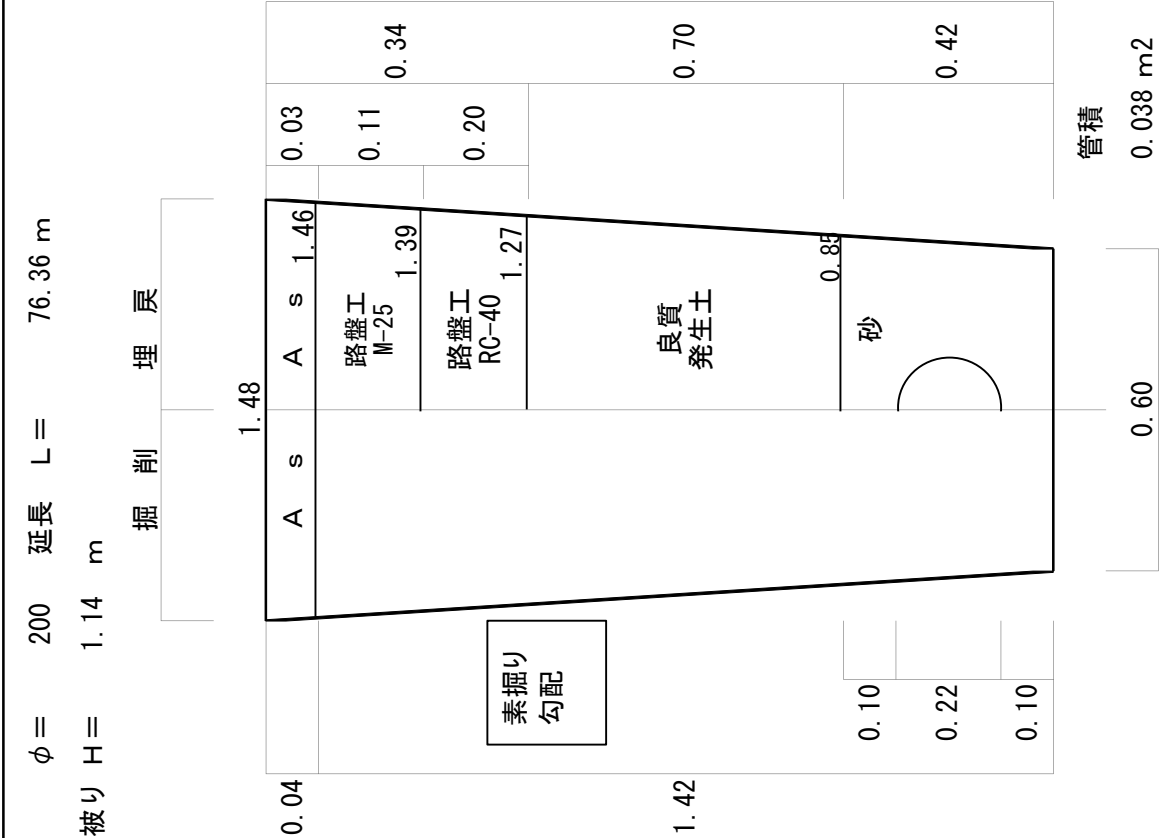
[illegible]

2. 土工事（圧送管）

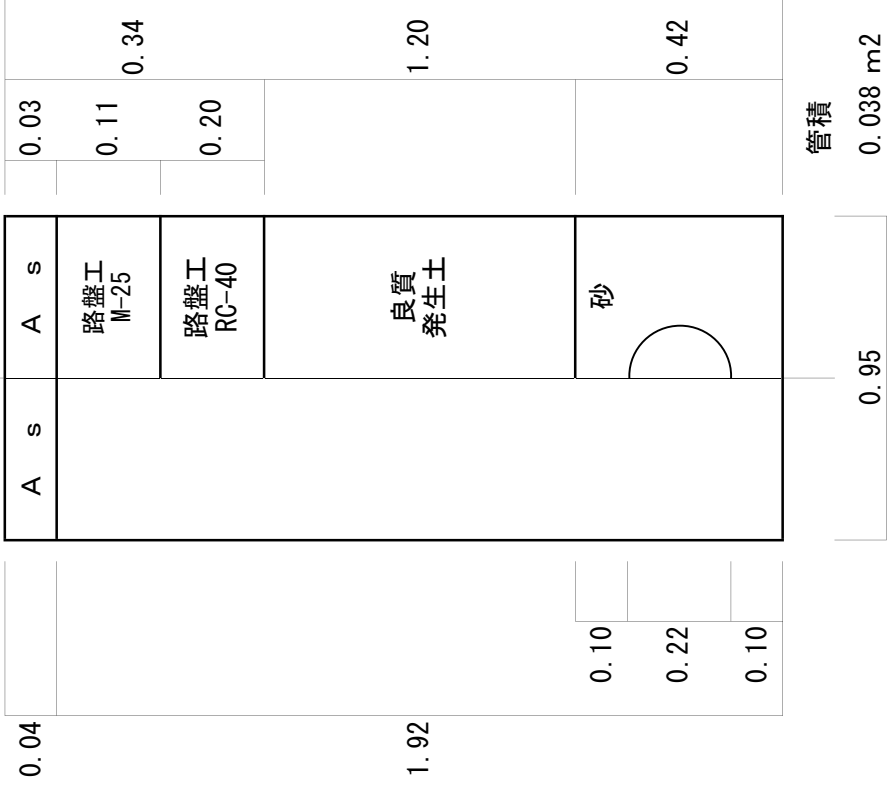
1. 圧送管DIP-GXφ200 市道車道As DP=1.00m				BH0. 2		
φ = 200	延長	L = 2.68 m		舗装切断工 (As) (t=15cm以下)	2.68 × 2	5.36 m
土被り H = 1.00 m						
	掘削埋戻			舗装版破砕工 (As) (t=10cm以下)	1.39 × 2.68	3.73 m2
				掘削工 (機械)	(1.37 + 0.60) × 1.28 ÷ 2 × 2.68	3.38 m3
				発生土埋戻し工	(0.85+1.19) × 0.56 ÷ 2 × 2.68	1.53 m3
				砂埋戻工	((0.60+0.85) × 0.42 ÷ 2 - 0.038) × 2.68	0.71 m3
				下層路盤工 (RC-40 t=20cm)	(1.19+1.31) ÷ 2 × 2.68	3.35 m2
				上層路盤工 (M-25 t=11cm)	(1.31+1.37) ÷ 2 × 2.68	3.59 m2
				舗装工 (再生密粒度As t=3cm)	1.39 × 2.68	3.73 m2
				残土処理工 (土砂)	3.38 - 1.53	1.85 m3
				残土処分費 (土砂)		1.85 m3
				残土処理工 (As塊)	1.39 × 0.04 × 2.68	0.15 m3
				建設廃材処分費 (As塊)	0.15 × 2.3t/m3	0.35 t



2. 圧送管DIP-GXφ200 市道車道As DP=1.08m				BH0.2	
φ = 200	延長	L = 76.36 m		舗装切断工 (As) (t=15cm以下)	76.36 × 2
土被り H = 1.14 m					
				舗装版破砕工 (As) (t=10cm以下)	1.48 × 76.36
				掘削工 (機械)	(1.46 + 0.60) × 1.42 ÷ 2 × 76.36
				発生土埋戻し工	(0.85+1.27) × 0.70 ÷ 2 × 76.36
				砂埋戻工	((0.60+0.85) × 0.42 ÷ 2 - 0.038) × 76.36
				下層路盤工 (RC-40 t=20cm)	(1.27+1.39) ÷ 2 × 76.36
				上層路盤工 (M-25 t=11cm)	(1.39+1.46) ÷ 2 × 76.36
				舗装工 (再生密粒度As t=3cm)	1.48 × 76.36
				残土処理工 (土砂)	111.68 - 56.66
				残土処分費 (土砂)	
				残土処理工 (As塊)	1.48 × 0.04 × 76.36
				建設廃材処分費 (As塊)	4.52 × 2.3t/m3



4. 圧送管排泥DIP-GX φ 200 市道車道As DP=1.64m										BH0. 2			
φ = 200		延長 L = 12.07 m		掘削埋戻									
土被り H = 1.64 m													
0.04													
1.92		1.96											



5. 圧送管排泥DIP-GXφ200 市道車道As DP=2.48m										BH0.2	
φ = 200 延長 L = 12.16 m		掘削埋戻									
土被り H = 2.31 m											
0.04		A	s	A	s	舗装切断工(As) (t=15cm以下)		12.16 × 2	24.32 m		
		路盤工 M-25									
		路盤工 RC-40						0.95 × 12.16	11.55 m2		
2.59						掘削工 (機械)		0.95 × 2.59 × 12.16	29.92 m3		
						発生土埋戻し工		0.95 × 1.87 × 12.16	21.60 m3		
						砂埋戻工		(0.95 × 0.42 - 0.038) × 12.16	4.39 m3		
						下層路盤工 (RC-40 t=20cm)		0.95 × 12.16	11.55 m2		
						上層路盤工 (M-25 t=11cm)		0.95 × 12.16	11.55 m2		
						舗装工 (再生密粒度As t=3cm)		0.95 × 12.16	11.55 m2		
	0.10										
	0.22					残土処理工(土砂)		29.92 - 21.60	8.32 m3		
	0.10					残土処分費(土砂)			8.32 m3		
						残土処理工(As塊)		0.95 × 0.04 × 12.16	0.46 m3		
						建設廃材処分費(As塊)		0.46 × 2.3t/m3	1.06 t		
						土留工		H=2.0m	12.16 m		

7. 圧送管排泥DIP-GXφ100 市道車道As DP=2.78m										BH0.2		
φ = 100 延長 L = 2.84 m		掘削埋戻										
土被り H = 2.78 m												
0.04		A	s	A	s	2.84 × 2				5.68 m		
		路盤工 M-25		0.03								
		路盤工 RC-40		0.11		0.34						
				0.20								
2.96		良質発生土		2.34		0.95 × 2.34 × 2.84				6.31 m3		
				3.00		(0.95 × 0.32 - 0.011) × 2.84				0.83 m3		
						0.95 × 2.84				2.70 m2		
						0.95 × 2.84				2.70 m2		
	0.10	砂		0.32		0.95 × 2.84				2.70 m2		
	0.12					7.99 - 6.31				1.68 m3		
	0.10									1.68 m3		
				管積		0.95 × 0.04 × 2.84				0.11 m3		
		0.95		0.011 m2		0.11 × 2.3t/m3				0.25 t		
						H=3.0m				2.84 m		

8. 圧送管排泥HIVP-RRφ100 市道車道As DP=2.78m				BH0.2	
φ = 100	延長	L = 1.49 m		1.49 × 2	2.98 m
土被り H = 2.78 m					
掘削埋戻					
0.04	A s	A s	0.03	0.95 × 2.95 × 1.49	4.18 m3
		路盤工 M-25	0.11		
		路盤工 RC-40	0.20		
		良質発生土	2.34		
2.95			2.99	0.95 × 1.49	1.42 m2
0.10	A s	砂	0.31	0.95 × 1.49	1.42 m2
0.11				4.18 - 3.31	0.87 m3
0.10					0.87 m3
管積					
		0.95	0.010 m2	0.95 × 0.04 × 1.49	0.06 m3
				0.06 × 2.3t/m3	0.14 t
土留工				H=3.0m	1.49 m

3. 土留め日数

[illegible]

交通誘導員日数算定表(素掘り区間)																	
項目	単位	建て込み簡易土留め規格															
		DCIP φ200mm BH規格 0.28m3～0.80m3															
		1.5m	2.0m	2.5m	3.0m	2.5m	3.0m	3.5m	3.0m	3.5m	4.0m	4.0m	4.5m	5.0m	合計		
機材質量 t (仮設材運搬費)		9.0	12.0	14.6	18.4	14.6	18.4	23.0	18.4	23.0	32.7	32.7	38.3	46.5			
1. 算定条件																	
管外径 d	mm	220	220		220		220										
掘削幅 w	m	1.03	0.95		0.95		0.95										
平均掘削深 H	m	1.45	1.96		2.63		3.00										
余掘深 h(H'=H-h)	m																
バックホウ																	
規格	m ³	0.28	0.28		0.28		0.28										
運転日当たり運転時間	hr	6.3	6.3		6.3		6.3										
トラッククレーン																	
規格	t	4.8～4.9	4.8～4.9		4.8～4.9		4.8～4.9										
運転日当たり運転時間	hr	6.2	6.2		6.2		6.2										
2. 誘導日数の算定																	
①工程別日進量																	
掘削工																	
バックホウの1日当たりの掘削作業量 Q	m ³ /日	59	59		59		59										
1m当たりの掘削土量 V=H'・W	m ³	1.49	1.86		2.50		2.85										
作業量より L ₁ =Q/V	m/日	39.60	31.72		23.60		20.70										
土留め建て込み工																	
世話役労力 Q	人/10m				0.27		0.27										
建て込み押し込み作業 L ₂ =10m/Q	m/日				37.04		37.04										
砂基礎工																	
1m当たりの基礎量 V=(d+0.2)・W-d ² ・π/4	m ³	0.395	0.361		0.361		0.361										
タンバ作業量より L ₃ =(36m ³ /日)/V	m/日	91.14	99.72		99.72		99.72										
管布設工																	
(DCIP)配管工より L ₄ =1人/0.016人/日	m/日	62.5	62.5		62.5		62.5										
引抜き・埋戻し工(機械)																	
1m当たりの埋戻し量 V=W・(H'-d-0.2)	m ³ /m				2.1		2.451										
タンバ作業量より L ₅ =(36m ³ /日)/V	m/日				17.14		14.69										
②30m当たりの所要日数																	
掘削工 D ₁ =30/L ₁	日	0.76	0.95		1.27		1.45										
建て込み工(押し込み作業) D ₂ =30/L ₂	日				0.81		0.81										
砂基礎工 D ₃ =30/L ₃	日	0.33	0.30		0.30		0.30										
管布設工 D ₄ =30/L ₄	日	0.48	0.48		0.48		0.48										
引抜き・埋戻し工(機械) D ₅ =30/L ₅	日				1.75		2.04										
③交通誘導員日数																	
D=((D1+D2)*3/5+D3+D4*3/5+D5)*1	日	1.07	1.16		3.59		3.98										
日進量 ΔL=30/D	m/日	28.04	25.86		8.36		7.54										
施工延長 L ₀	m	86.69	12.07		12.16		4.33										
施工延長に対する誘導日数 D0=(D/30)*L0	日	3.09	0.47		1.46		0.57								5.59		
		6															
		115.25															
		延長			土被			面積			総延長			平均掘削深			
		1	2.68	×	1.32	=	3.54	86.69			1.45						
		2	76.36	×	1.46	=	111.49	総面積			平均掘削幅						
		3	0.95	×	1.45	=	1.38	125.46			上幅			1.47			
		4	6.7		1.35	=	9.05				下幅			0.60			
		5										平均			1.03		

4. 立坑工・薬液注入工

ライナープレート式立坑築造工総括表

工程種	種 別	細 別	単位	発進立坑	MP立坑				合 計
				推進立坑	MP立坑				
土 工	一 次 掘 削 工	BH 0.35m3 (礫)	m ³	---	---				--- m ³
		BH 0.35m3 (粘土・砂)	m ³	---	---				--- m ³
		人 力	m	---	---				--- m
	掘 削 土 留 工 (砂質土・粘性土)	BH 0.35m3	m	---	---				--- m
		CR 0.40m3	m	---	---				--- m
		人 力	m	---	---				0.000 m
	掘 削 土 留 工 (礫 質 土)	BH 0.35m3	m	3.96	---				3.960 m
		CR 0.40m3	m	3.53	3.50				7.028 m
		均しコンクリート	m ³	0.00	0.00				0.00 m ³
	埋 戻 工	発生土	m ³	0.00	30.99				30.99 m ³
		砂埋戻し	m ³	0.00	0.00				0.00 m ³
		無筋	m ³	---	---				0.00 m ³
礎 工 基	支持架台設置 基礎コンクリート工	(H鋼250×250)	t	---	---				0.00 t
			m ³	---	---				0.00 m ³
土 留 工	立 坑 形 状			円 形	円 形				
	立 坑 寸 法			φ 2.5	φ 2.5				
	ライナープレート			t=2.7mm	t=2.7mm				
	設 置 高		m	8.00	3.50				11.50 m
	撤 去 高		m	0.00	1.97				1.97 m
	残 置 高		m	8.00	1.53				9.53 m
	設 置 重 量	ライナープレート	t	2.080	0.910				2.990 t
		補強リング	t	---	---				--- t
	撤 去 重 量	ライナープレート	t	0.005	0.394				0.399 t
		補強リング	t	---	---				--- t
	スクラップ重量		t	0.005	0.004				0.009 t
	残 置 重 量		t	2.075	0.516				2.591 t
支 保 工	桁材設置撤去重量	主部材	t	---	---				--- t
		副部材(A)	t	---	---				--- t
		副部材(B)	t	---	---				--- t
		合計	t	---	---				--- t
	運 搬 重 量	往路	t	---	---				--- t
		復路	t	---	---				--- t
薬 入 液 注	注 入 本 数		本	19.000	---				19.00 本
舗 装 工	舗 装 切 断 工	As t=15cm以下	m	12.00	0.00				12.00 m
	舗 装 破 碎 工	As t=15cm以下	m ²	9.00	0.00				9.00 m ²
	処 分 工	Asガラ(無筋)	m ³	0.36	0.00				0.36 m ³
	舗 装 仮 復 旧 工	表層工 As t=3cm	m ²	0.00	8.36				8.36 m ²
		路盤工 RC-40 t=20cm	m ²	0.00	8.36				8.36 m ²
		路盤工 M-25 t=11cm	m ²	0.00	8.36				8.36 m ²

名 称	計 算 式						数 量
立坑築造工	$\phi 2500$	発進	立坑	立坑深さ	=	7.528 m	
	先掘面積	A	=	3.000	×	3.000	= 9.00 m ²
	立坑面積	A	=	$\pi/4$	×	2.500 ²	= 4.91 m ²
1. 土 工							
1) 掘削工	機械掘削	BH0.35					
	H1	=	4.000	−	0.040	= 3.960 m	
	V1	=	4.91	×	3.960	= 19.44 m ³	
	人力掘削	H ≤ 6.0m					
	H2	=	−	=	m		
	t=2.7mm 砂質土・粘性土			H	=	m	
	礫質土			H	=	m	
	V2	=	×		=	m ³	
	クラムシェル掘削	BH 0.40m ³ (平積)	H > 4.0m				
	H3	=	7.528	−	4.000	= 3.528 m	
	砂質土・粘性土			H	=	− m	
	礫質土			H	=	3.528 m	
	V3	=	4.910	×	3.528	= 17.32 m ³	
2) 埋戻し工	埋戻し工均しコンクリート	18-8-40					
	V	=	×		=	m ³	m ³
	埋戻し工（人孔設置前）再生砕石	RC-40					
	V	=	×		=	m ³	m ³
	埋戻し工 購入砂						
	H	=	−	−	−	= m	
	V2	=	×	−	=	m ³	m ³
	控除数量 1号マンホール	V =	×	×	=	m ³	
	本管（上流	V =	×	² ×	=	m ³	
	本管（下流	V =	×	² ×	=	m ³	
	ΣV					= m ³	
3) 処分工	発生土						
	V	=	19.44	+	17.32	= 36.76	36.76 m ³

名 称	計 算 式	数 量
2. 立坑基礎工	支持架台 (H鋼250×250) 設置	
	$W = \quad \times \quad \times \quad \text{kg/m} = \quad \text{kg}$	
	基礎コンクリート工 18-8-40	
	$V = \quad \times \quad^2 \times \quad = \quad \text{m}^3$	
3. 土 留 工	ライナープレート	
	円形 ϕ 2.500 m	
	1) 掘削土留	
	砂質土および粘性土 H = 1.275 m	
	礫質土 H = 6.253 m	
	設置高 H = 8.000 m	
	撤去高 H = m うち損料高 m	
	(t=2.7mm)	
	設置枚数 P-10 10.0 枚/m 26.0 kg/枚	
	2) 重 量	
	設置重量	
	$W = 8.00 \text{ m} \times 10.0 \text{ 枚} \times 26.0 \text{ Kg/枚} = 2,080 \text{ kg}$	
	スクラップ重量	
	$W = \frac{\pi}{4} \times 0.220^2 \times 33.1 \text{ kg/m}^2 \times 1 = 1 \text{ kg}$	
	$\frac{\pi}{4} \times 0.406^2 \times 33.1 \text{ kg/m}^2 \times 1 = 4 \text{ kg}$	
	$\times \quad \times \quad 33.1 \text{ kg/m}^2 \times 1 = \text{kg}$	
	$\Sigma W = 5 \text{ kg}$	
	損料重量	
	$W = \quad \text{m} \times 10.0 \text{ 枚} \times 26.0 \text{ Kg/枚} = \quad \text{kg}$	
	撤去重量	
	$W = \quad \text{kg} + 5.0 \text{ Kg} = 5 \text{ kg}$	
	残置重量	
	$W = 2,080 - 5 = 2,075 \text{ kg}$	
	ボルト重量	
	P-10 $W = 10.0 \text{ 枚} \times 14.0 \text{ 本} \times 0.137 \text{ kg/本} = 19 \text{ kg}$	
	$\Sigma V = 19 \text{ kg}$	
	3) 裏込注入工	
	$V = 0.09 \times \pi \times (2.500 + 0.09) \times 7.528 = 5.51 \text{ m}^3$	
	参考	
	ライナープレート m^2 当たり重量 (P-10で換算)	
	$A = \frac{L}{H} \times \frac{H}{\text{kg/枚}} = \frac{1.570}{0.500} \times \frac{0.785 \text{ m}^2/\text{枚}}{\text{kg/枚}} = 0.785 \text{ m}^2/\text{枚}$	
	$W = \frac{26.0}{0.785} = 33.1 \text{ kg/m}^2$	

名 称	計 算 式								数 量
4. 路面覆工									
	1) 覆工板								
	覆工板面積								
	A	=	×		=	m ²		m ²	
	覆工板重量								
	W	=	×	t/m枚	=	t		t	
	2) 桁材重量								
	名 称	部 材	長 さ (m)	本数 (本)	単位重量 (t/m)	重 量 (t)	備考		
	受桁								
	合 計								
	撤去重量					Σ W	=	t	t
	運搬重量	W	=	+		=	t	t	
5. 舗装工	1) 舗装切断工 As t=15cm以下								
	L	=	3.00	×	4	=	12.00 m	12.00 m	
	2) 舗装破碎工 As t=15cm以下								
	A	=	3.00	×	3.00	=	9.00 m ²	9.00 m ²	
	3) 処分工 Asガラ（無筋）								
	V	=	9.00	×	0.04	=	0.36 m ²	0.36 m ²	
	4) 舗装仮復旧工								
	① 表層工 As t=3cm								
	A	=	—	蓋控除		=	m ²	m ²	
	② 路盤工 RC-40 t=20cm M-25 t=11cm								
	A	=	—	蓋控除		=	m ²	m ²	

名 称	計 算 式	数 量
立坑築造工	$\phi 2500$ MP 立坑 立坑深さ = 11.028 m	
	先掘面積 A = 3.000 × 3.000 = 9.00 m ²	
	立坑面積 A = $\pi/4$ × 2.500 ² = 4.91 m ²	
1. 土 工		
1) 掘削工	機械掘削 BH0.35	
	H1 = — = m	
	V1 = × = m ³	
	人力掘削 H ≤ 6.0m	
	H2 = — = m	
	t=2.7mm 砂質土・粘性土 H = m	
	礫質土 H = m	
	V2 = × = m ³	
	クラムシェル掘削 BH 0.40m ³ (平積) H > 4.0m	
	H3 = 11.028 — 7.528 = 3.500 m	
	砂質土・粘性土 H = — m	
	礫質土 H = 3.500 m	
	V3 = 4.910 × 3.500 = 17.19 m ³	
2) 構造物とりこわし工	機械施工(無筋構造物)	
	V = × = m ³	
3) 埋戻し工	埋戻し工(立坑掘削分)発生土	
	H = 11.028 — 0.340 = 10.688 m	
	V2 = 4.91 × 10.688 — 21.49 = 30.99 m ³	30.99 m ³
	控除数量 3号マンホール V = $\pi/4$ × 1.600 × 10.688 = 21.49 m ³	
	$\Sigma V = 21.49$ m ³	
4) 処分工	発生土	
	V = 36.760 + 17.19 — 30.99 = 22.96	22.96 m ³

名 称	計 算 式	数 量
2. 土 留 エ	ライナープレート	
	円形 ϕ 2.500 m	
	1) 掘削土留	
	砂質土および粘性土 H = m	
	礫質土 H = 3.500 m	
	設置高 H = 3.500 m	
	撤去高 H = 1.972 m うち損料高 1.500 m	
	設置枚数 P-10 10.0 枚/m 26.0 kg/枚 (t=2.7mm)	
	2) 重 量	
	設置重量	
	W = 3.50 m $\times$ 10.0 枚 $\times$ 26.0 Kg/枚 = 910 kg	
	既存設置	
	W = 8.00 m $\times$ 10.0 枚 $\times$ 26.0 Kg/枚 = 2,080 kg	
	ΣW = 2,990 kg	
	スクラップ重量	
	W = $\times$ $\times$ 33.1 kg/m ² $\times$ 1 = kg	
	$\times$ $\times$ 33.1 kg/m ² $\times$ 1 = kg	
	$\times$ $\times$ 33.1 kg/m ² $\times$ 2 = kg	
	0.472 $\times$ $\pi \times 2.5$ $\times$ 33.1 kg/m ² $\times$ 1 = 4 kg	
	ΣW = 4 kg	
	損料重量	
	W = 1.50 m $\times$ 10.0 枚 $\times$ 26.0 Kg/枚 = 390 kg	
	撤去重量	
	W = 390.00 kg + 4.0 Kg = 394 kg	
	残置重量	
	W = 910 - 394 = 516 kg	
	ボルト重量	
	P-10 W = 10.0 枚 $\times$ 14.0 本 $\times$ 0.137 kg/本 = 19 kg	
	ΣV = 19 kg	
	3) 裏込注入工	
	V = 0.09 $\times$ π $\times$ (2.500 + 0.09)	
	$\times$ 3.500 = 2.56 m ³	
	参考	
	ライナープレートm ² 当たり重量 (P-10で換算)	
	A = L $\times$ H = 0.785 m ² /枚	
	W = 26.0 $\div$ 0.785 = 33.1 kg/m ²	

[illegible]

薬液注入工（二重管ストレーナ工法、複相式）数量計算書

施 工 場 所			単位	発進立坑 φ 2500 側部	MP立坑 φ 2500 側部	到達立坑 φ 1500 側部				小 計
注 入 面 積			m ²	18.850						18.850
削 孔 長	砂 礫 土	m	2.700							2.700
	砂 質 土	m	0.875							0.875
	粘 性 土	m	0.400							0.400
	削 孔 長 計		m	3.975						3.975
注 入 長	砂 礫 土	10～50	m	1.500						1.500
		50以上	m							
	砂 質 土	0～10	m							
		10～30	m							
		30以上	m							
	粘 性 土	0～4	m							
		4～8	m							
注 入 長 計		m	1.500						1.500	
引 抜 き 長			m	2.475						2.475
注 入 量 （ 注 入 率 ）	砂 礫 土	10～50	kl	10.177						10.177
		50以上	kl							
	砂 質 土	0～10	kl							
		10～30	kl							
		30以上	kl							
	粘 性 土	0～4	kl							
		4～8	kl							
注 入 量 計		kl	10.177						10.177	
注 入 量 （ 比 率 ）	瞬 結 材	砂礫土:10～	kl	6.785						6.785
		砂礫土:50以	kl							
		砂質土:0～	kl							
		砂質土:10～	kl							
		砂質土:30以	kl							
		粘性土:0～	kl							
		粘性土:4～	kl							
		注入量(瞬結材)計		kl	6.785					6.785
	緩 結 材	砂礫土:10～	kl	3.392						3.392
		砂礫土:50以	kl							
		砂質土:0～	kl							
		砂質土:10～	kl							
		砂質土:30以	kl							
		粘性土:0～	kl							
		粘性土:4～	kl							
注入量(緩結材)計		kl	3.392					3.392		
注 入 本 数			本	19					19	
1本当り注入量	瞬結材	ℓ	357							
	緩結材	ℓ	179							
	計	ℓ	536						535.65	
準 備 時 間		14	分	14.00					14.00	
削 孔 時 間	礫 質 土	8分/m	分	21.6					21.6	
	砂 質 土	5分/m	分	4.38					4.38	
	粘 性 土	4分/m	分	1.60					1.60	
	削 孔 時 間 計		分	27.58					27.58	
注 入 時 間		16ℓ/min	分	33.48					33.48	
引抜き時間		2分/m	分	4.95					4.95	
1本当り施工時間			分	80.00					80.00	
1箇所当り施工時間			分	1520.00					1520.00	
1日当り施工本数(2セット)			6.3h/日	本	9.45				9.45	
1日当り施工本数(4セット)			6.3h/日	本	18.90				18.90	

下水道用設計標準歩掛表(R6年度)－第1巻 管路－ P.60～65

※1.施工本数が100本未満の場合は2セット、100本以上の場合は4セットを標準とする。

2.水ガラス積算流量計は、総注入量500kl以上の場合に計上する。

二重管ストレーナ工法注入率表(複相方式)

分類	土 質	N 値		間 隙 率 ρ (%)	注入充填率 α (%)	注 入 率 (%)
1	砂 礫 土	ゆるい～中位		40	90	36.0
2		中位～締った		35	90	31.5
3	砂 質 土	ゆるい～中位		45	90	40.5
4		中位～締った		35	90	31.5
5	粘 性 土	ゆるい～中位		70	40	28.0
6		中位～締った		60	40	24.0

下水道用設計標準歩掛表(H25年度)－別冊 参考資料－ P.18

小口径推進工法数量（鋼管φ400）

処理場分水路線（明科1-1工区）

推 進 工

処理場分水路線(明科1-1工区)

推進工集計表

管推進工 鋼管 φ400mm 内管 φ250mm (塩化ビニル管)

項 目	細 目	数 量	単 位	摘 要
路 線 延 長		5.0	m	
管 体 延 長		3.7	m	
推 進 延 長		3.1	m	
推 進 管	本管VP L=4.0	1.0	本	
	継手 本管用		個	
	400mmSTK L=2.0		本	
	400mmSTK L=0.8	4	本	
	400mmSTK L=0.6		本	
スぺーサー	VP φ 250 塩ビスぺーサー	2	個	
可とう継手	VP φ 250 推進管用可とう継手	1	個	レジンマンホールの見積もり参照
	VP φ 250 既設人孔到達用	1	個	
コンクリート削孔	φ 250	1	箇所	
本管挿入工	VP φ 250	3.1	m	
足場工	単管パイプ	33.9	掛㎡	
オーガー引抜工		3.1	m	
中込注入		0.21	m3	
残 土		0.4	m3	

組立マンホール工 レジンマンホール3号

項 目	細 目	数 量	単 位	摘 要
マンホール鉄蓋	φ900/φ600親子蓋 不法投棄防止、除雪対応型 T14		組	
	φ900/φ600親子蓋 不法投棄防止、除雪対応型 T25	1.0	組	
転落防止梯子(SUS)		1.0	箇所	
マンホール底版	外径1660*160	1.0	箇所	
底部工	基礎		m ³	
	インバート工18-8-40BB*モルタル(1:3)仕上げ		箇所	
躯体ブロック	H=600		個	
	H=900		個	
	H=1200		個	
	H=1500		個	
	H=1800		個	
	H=2100		個	
	H=2400		個	
直壁ブロック	H=600 内面クリーム色		個	
	H=900 内面クリーム色		個	
	H=1200 内面クリーム色		個	
	H=1500 内面クリーム色	1.0	個	
	H=1800 内面クリーム色	1.0	個	
	H=2100 内面クリーム色		個	
	H=2400 内面クリーム色	3.0	個	
頂版	H=60		個	
	H=160	1.0	個	
中間スラブ	FRP製	2.0	個	
調整リング	t=5	1.0	個	
	t=10		個	
	t=15		個	
	t=20		個	
調整プレート	45mm	1.0	個	
	50mm		個	
削孔	200mm		箇所	
	250mm	1.0	箇所	
ブロック据付工	H=3m以下		箇所	
	H=3m超～H=4m以下		箇所	
	H=4m超～H=5m以下		箇所	
	H=6m超 H=10.88	1.00	箇所	

仮設備工

項 目	細 目	数 量	単 位	摘 要
発 進 坑 口 工		1	箇 所	
到 達 坑 口 工			箇 所	推進工による接続はしない ため不要
推 進 設 備 工		1	式	
鏡 切 り 工		2	箇所	鋼材処分は立坑築造工に計上
	推進鋼管 φ 400	1.275	m	
	流出管 φ 200(DIP)	0.691	m	
立 坑 基 礎 工			箇 所	立坑築造工に計上
			m3	立坑築造工に計上

インバート切り替え工

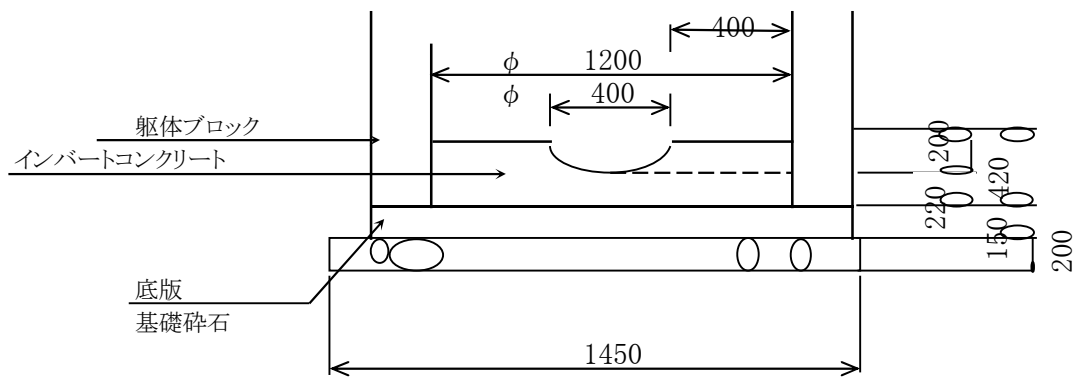
[illegible]

推 進 工 計 算 書

内径 φ250 mm (鋼管さや管推進 鋼管 φ400)

立坑番号	土留寸法 m	人孔	線路延長 m	人孔減長 m	立坑減長 m	管体延長 m 路線延長 - 人孔減長	推進延長 m 路線延長 - 立坑減長	内装管挿入 m 鋼管延長	足場工 掛㎡ (マンホール 内径外周×足 場必要高)/2	坑内管体延 m 0.500 0.100 0.600	本管VP 本 L=4.00	Co削孔 箇所 φ250	継ぎ手 個 本管用	可とう継手 個 上流 下流	400mmSTK 本 L=2.00 L=0.80 L=0.60	スパー 個 2m/個	中込め注入 m ³ {(0.4064 -0.0032×2) ² -0.2672}×π/4 ×鋼管延長	残土 m ³ 0.4064×2×π/4 ×推進延長
発進立坑	2.50	有		0.75	1.250				33.910	0.500								
到達立坑		既設		0.60	0.700					0.100								
			5.00			3.65	3.05	3.05	33.910	0.600	1.0	1.0	1.0	1.0	4	2	0.21	0.4
合 計			5.00			3.65	3.05	3.05	33.91	0.60	1.0	1.0	1.0	1.0	4	2	0.21	0.4

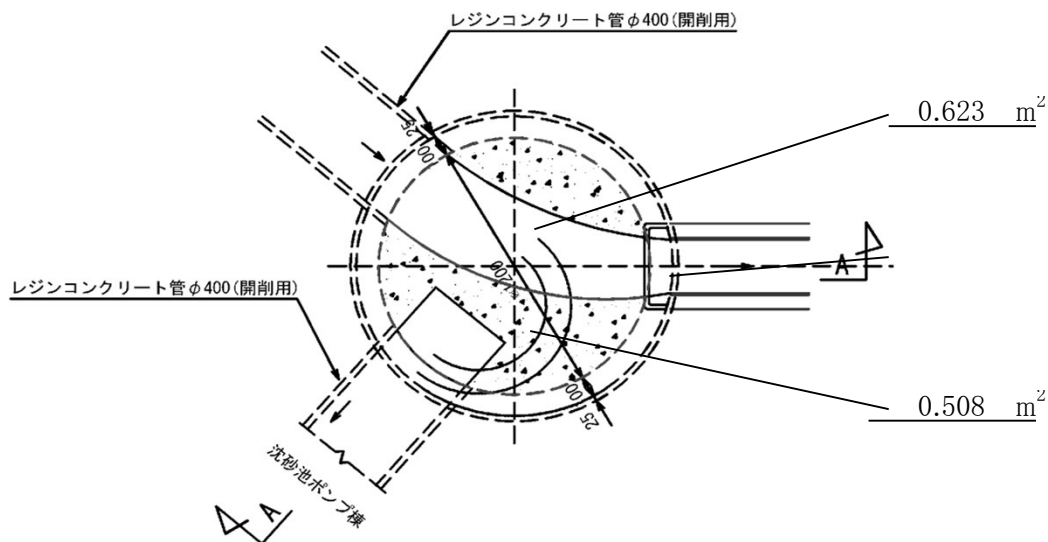
2, 既設インバートコンクリート壊し



$$\begin{aligned} & \frac{1}{4} \times \pi \times 1.20^2 \times 0.42 = 0.475 \text{ m}^3 \\ - & \frac{1}{4} \times \pi \times 0.40^2 \times \frac{1}{2} \times 1.20 = -0.075 \text{ m}^3 \end{aligned}$$

$$\Sigma V = 0.400 \text{ m}^3$$

2, インバートコンクリート打設 18-8-40-BB W/C60%以下(超速硬セメント使用)



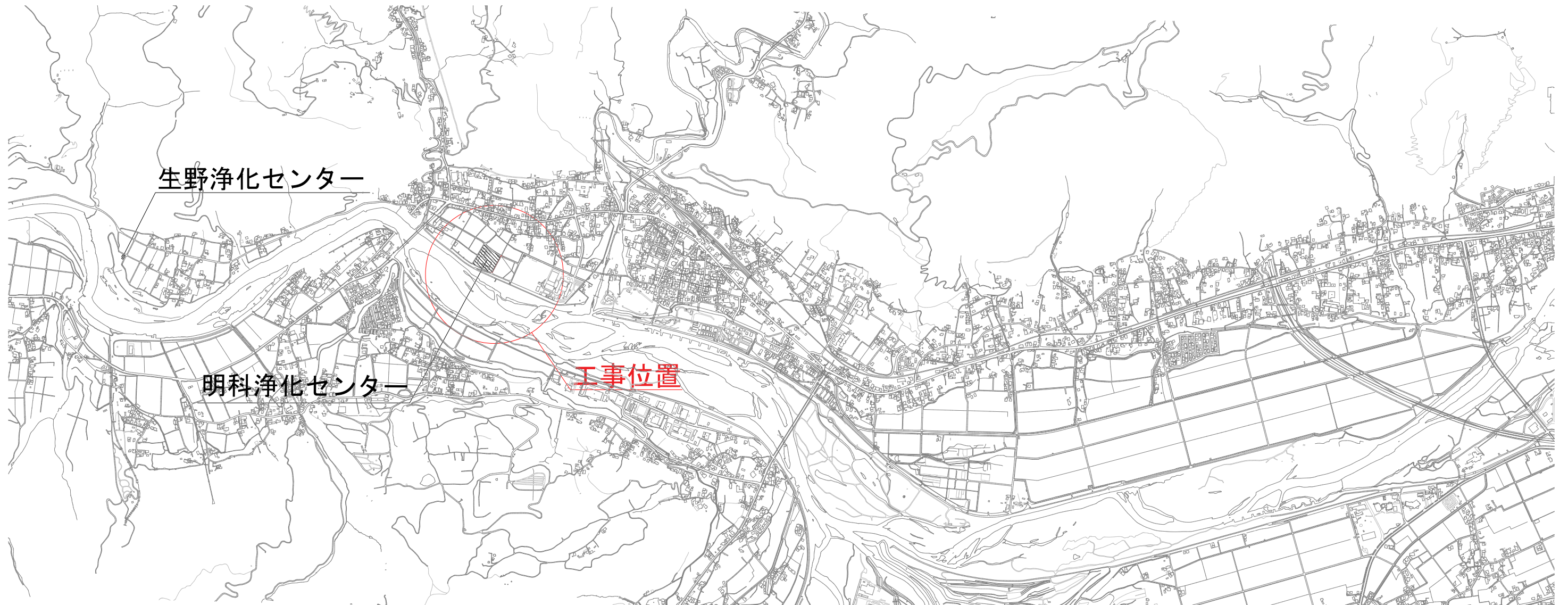
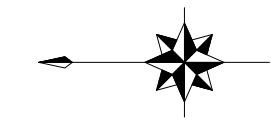
$$\begin{aligned} & 0.623 \text{ (図面参照)} \times (0.237 + 0.250 \times \frac{1}{2}) = 0.226 \text{ m}^3 \\ - & \frac{1}{4} \times \pi \times 0.250^2 \times 1.20 \times \frac{1}{2} = -0.029 \text{ m}^3 \\ & 0.508 \text{ (図面参照)} \times (0.237 + 0.448) = 0.348 \text{ m}^3 \\ - & 0.300 \times 0.400 \times 0.448 = -0.054 \text{ m}^3 \end{aligned}$$

$$\Sigma V = 0.491 \text{ m}^3$$

開口型枠

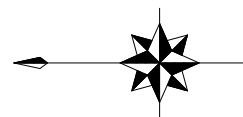
$$A = 0.4 \times 0.448 + (0.3 \times 0.448) \times 2 = \text{###} \text{ m}^2$$

位置図 S=1/20,000

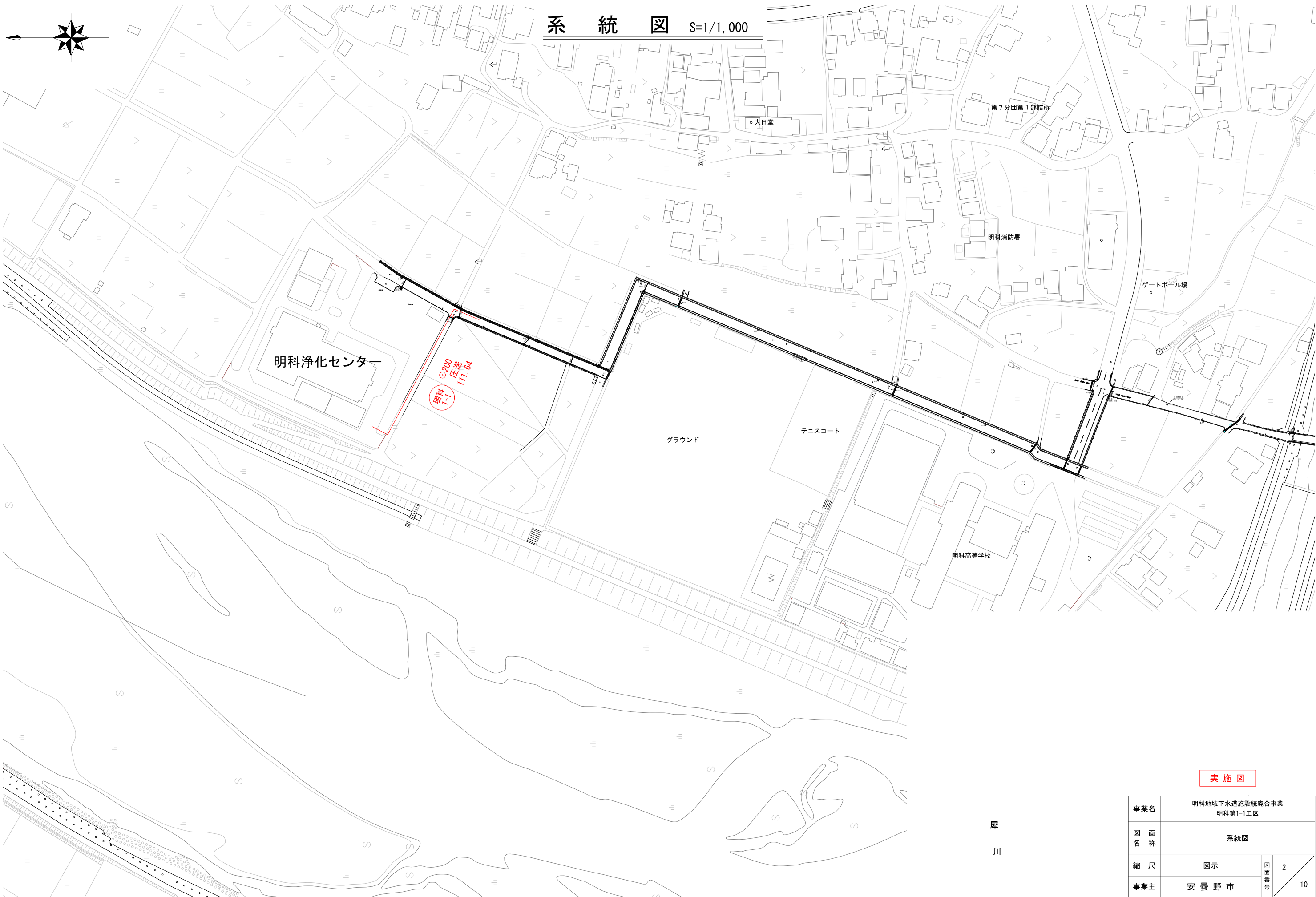


実施図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第1-1工区		
図面名称	位置図 (明科1-1工区)		
縮尺	図示	図面番号	1
事業主	安曇野市		10



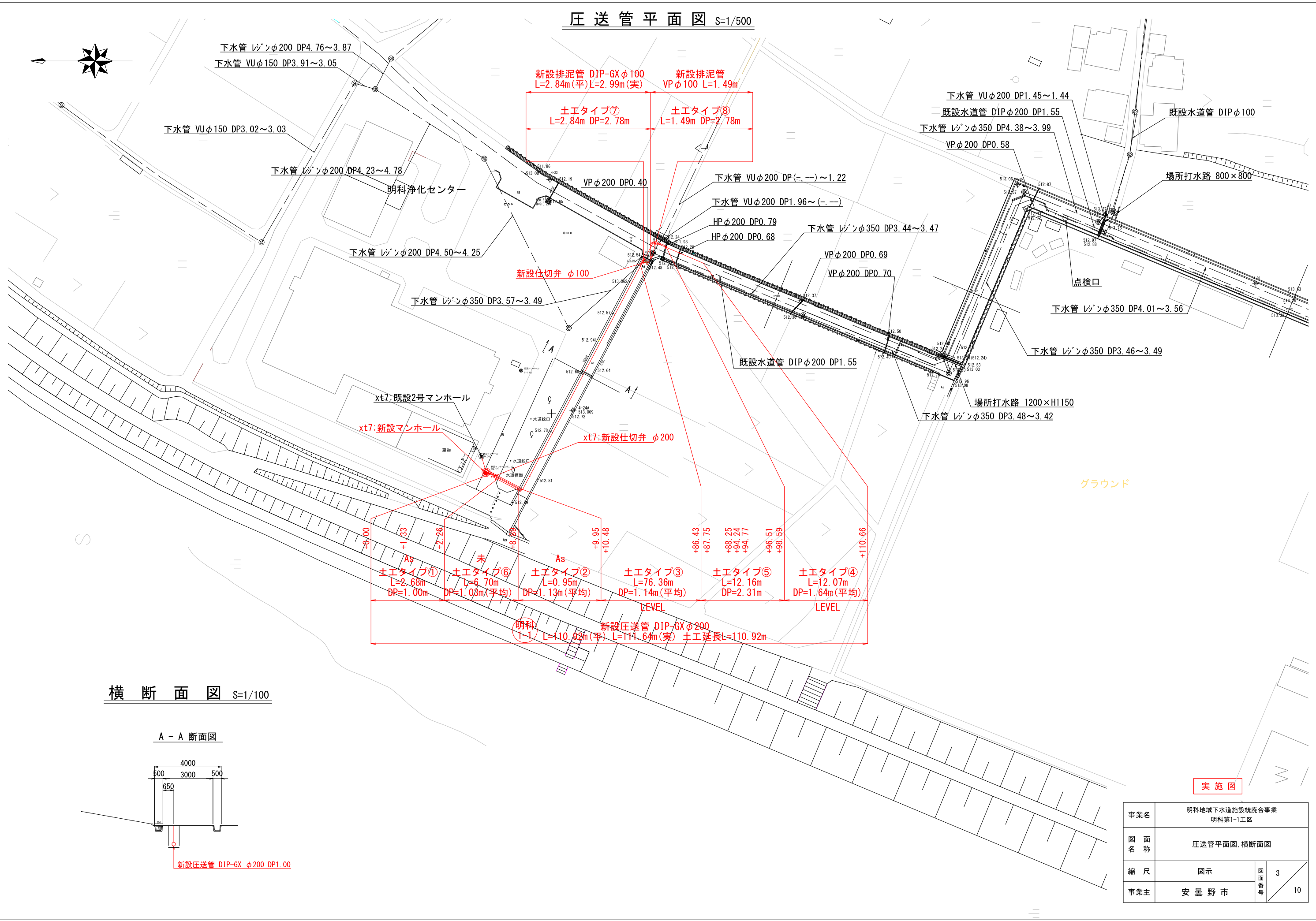
系 統 図 S=1/1,000



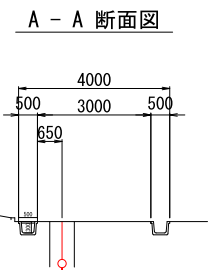
実 施 図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第1-1工区		
図 面 名 称	系統図		
縮 尺	図示	図面 番 号	2
事業主	安曇野市	10	

圧送管平面図 S=1/500



横断面図 S=1/100



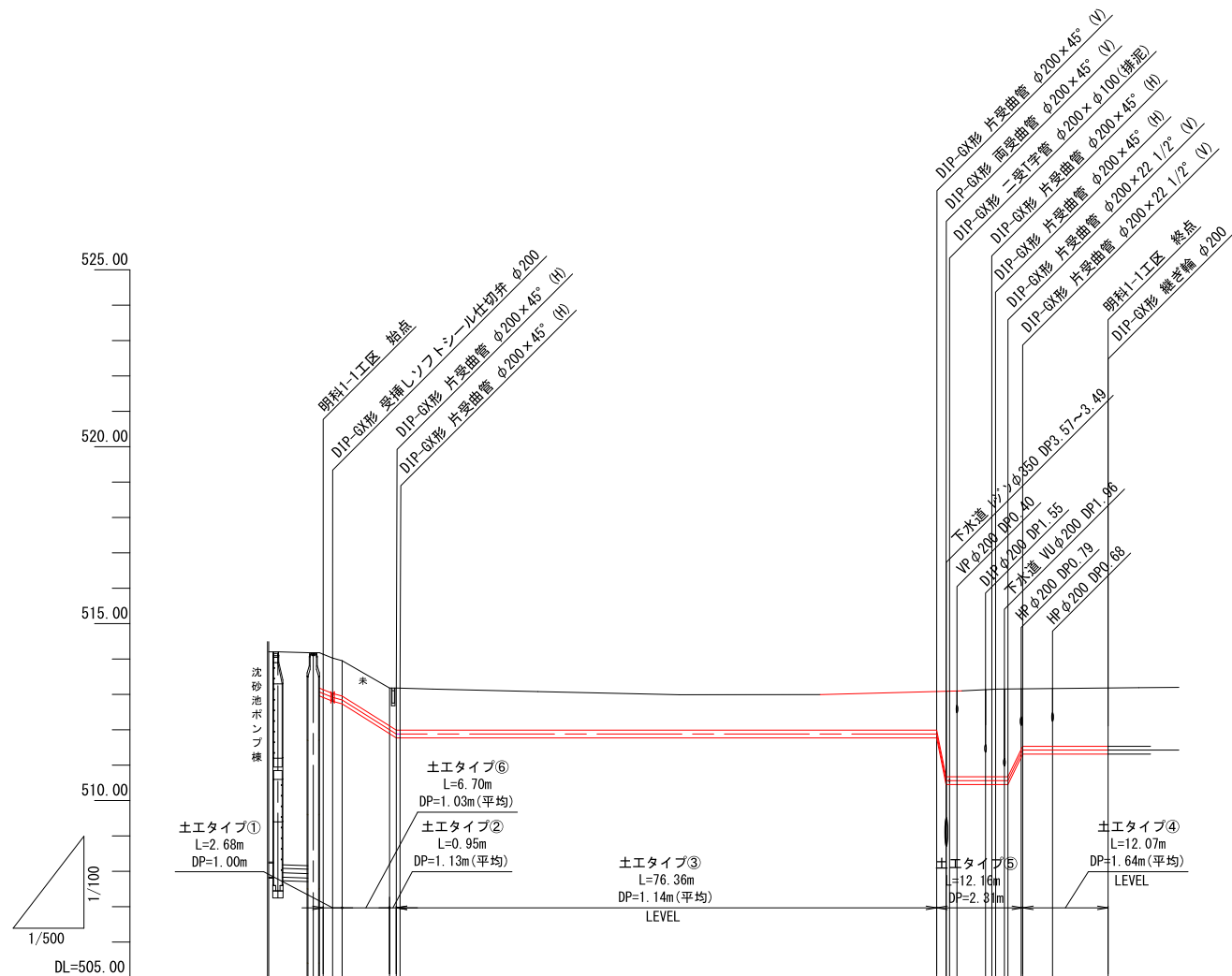
新設圧送管 DIP-GX φ200 DP1.00

実施図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第1-1工区		
図面名称	圧送管平面図, 横断面図		
縮尺	図示	図面番号	3
事業主	安曇野市		10

圧送管縦断面図

H=1/500
V=1/100

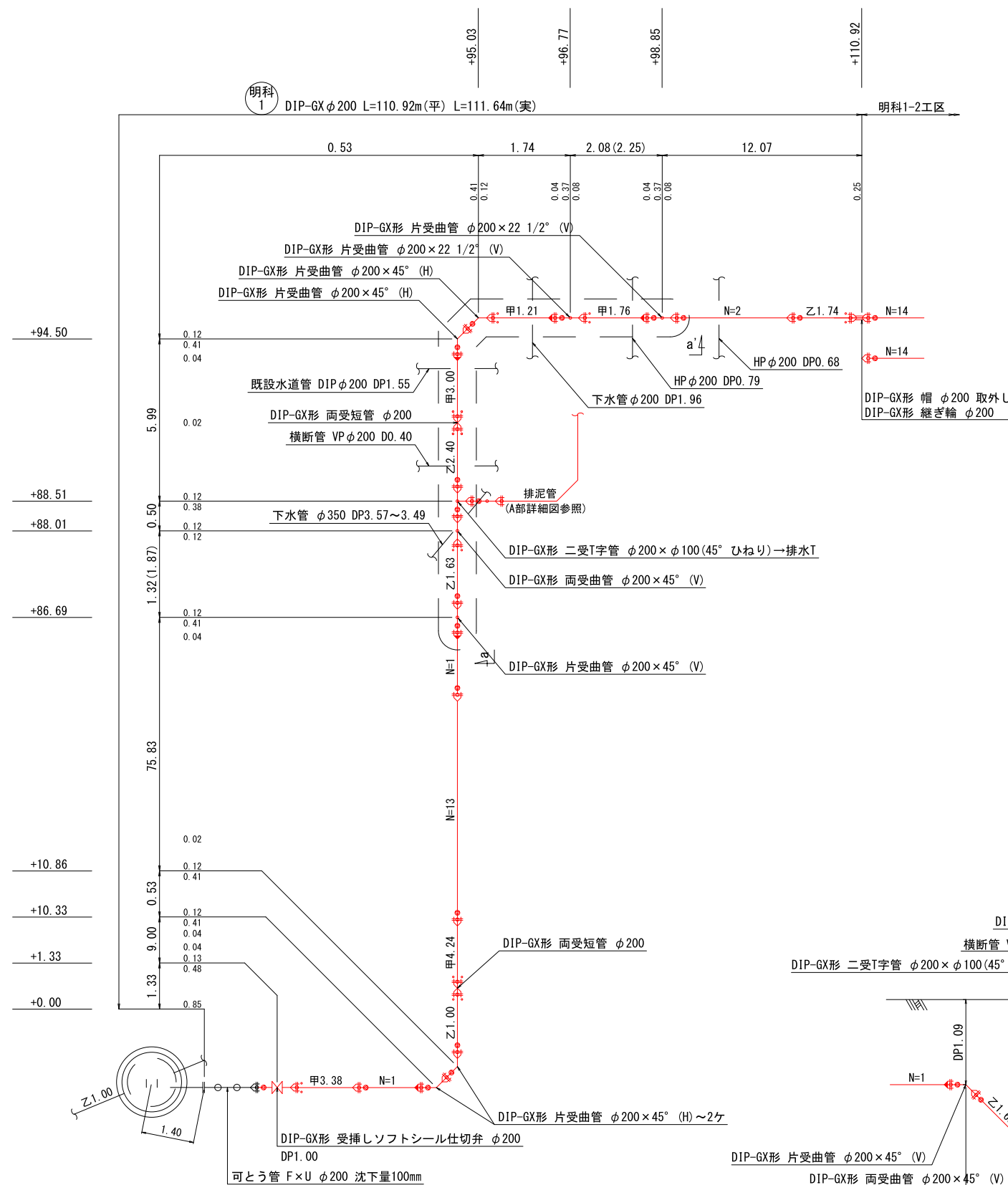


管径延長 管種	明科1 新設圧送管 DIP-GXφ200 L=110.92m(平) L=111.64m(実) 明科1-2工区									
土被り	1.00	1.00	1.06	1.19	1.09	2.42	2.42	2.42	2.46	2.48
掘削深	1.32	1.32	1.38	1.51	1.41	2.74	2.74	2.74	2.78	2.80
管底高	512.92	512.74	511.91	511.78	511.78	510.46	510.46	510.46	510.46	510.46
地盤高	514.12	514.03	513.95	513.18	513.09	513.09	513.09	513.13	513.15	513.15
水平 追加距離	0.00	1.33	2.68	9.38	86.69	88.01	88.01	88.01	93.60	95.03
平面 距離	0.00	1.33	6.70	0.95	75.83	1.32	0.04	1.04	4.04	0.53
平面 追加距離 測点	+0.00	+1.33	+2.68	+9.38	+86.69	+88.01	+88.01	+88.01	+93.60	+95.03

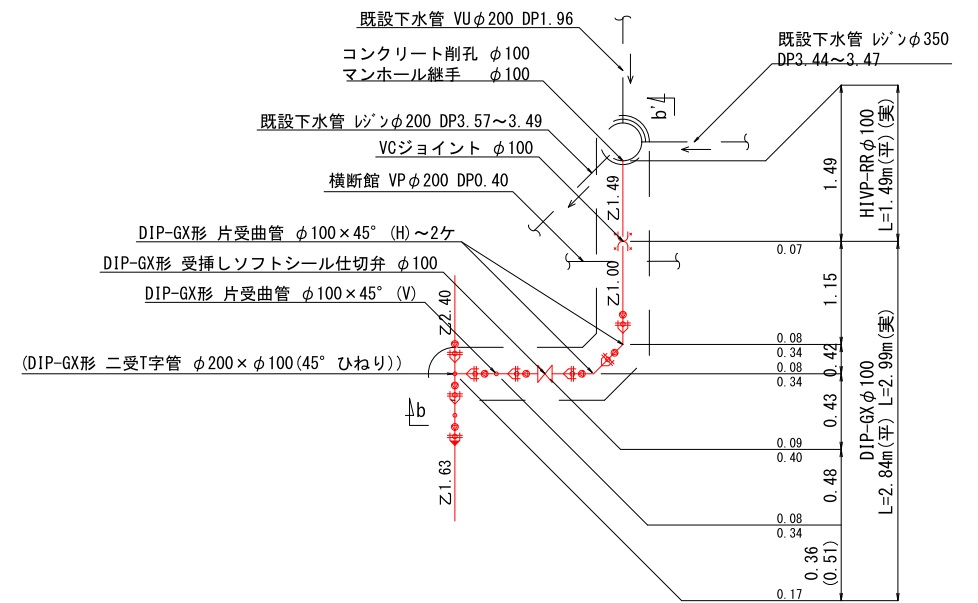
実施図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第1-1工区		
図面 名称	圧送管縦断面図		
縮尺	図示	図面 番号	4
事業主	安曇野市	10	

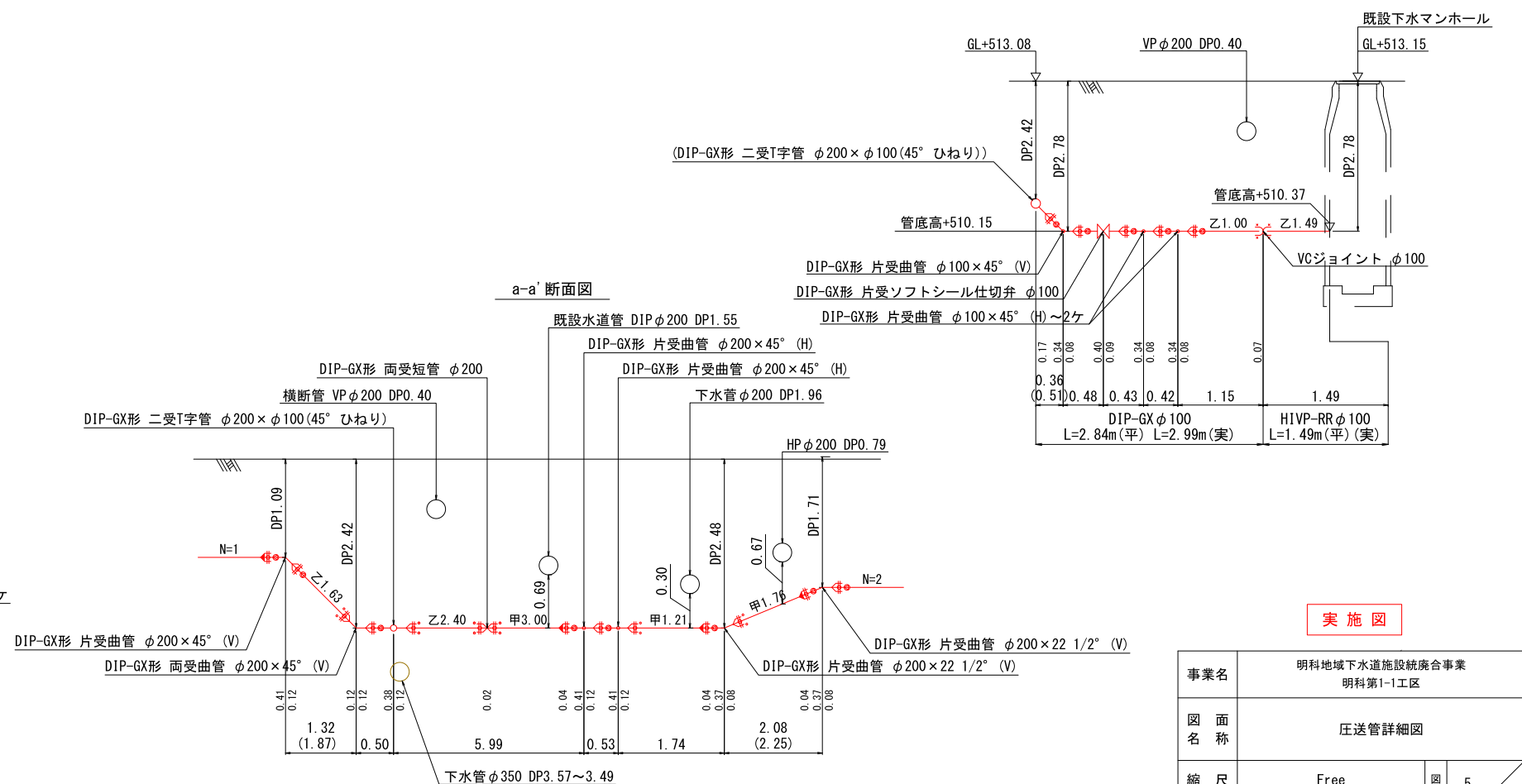
圧送管詳細図 S=Free



排泥管 A部詳細図



b-b' 断面图

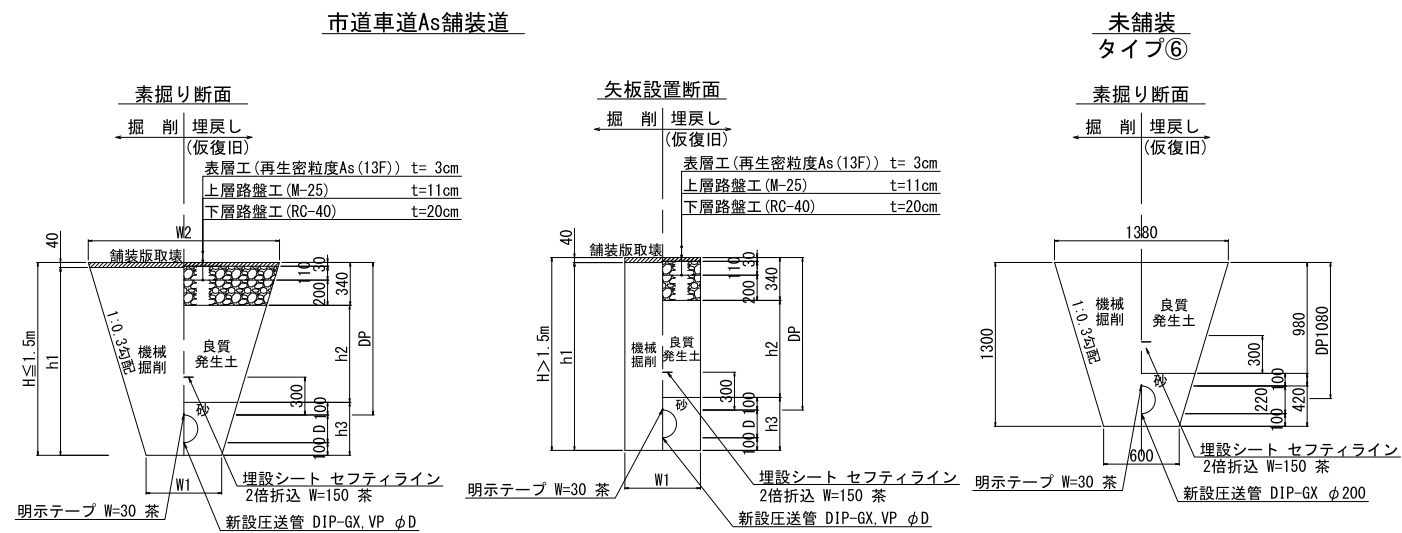


a-a' 断面図

实施

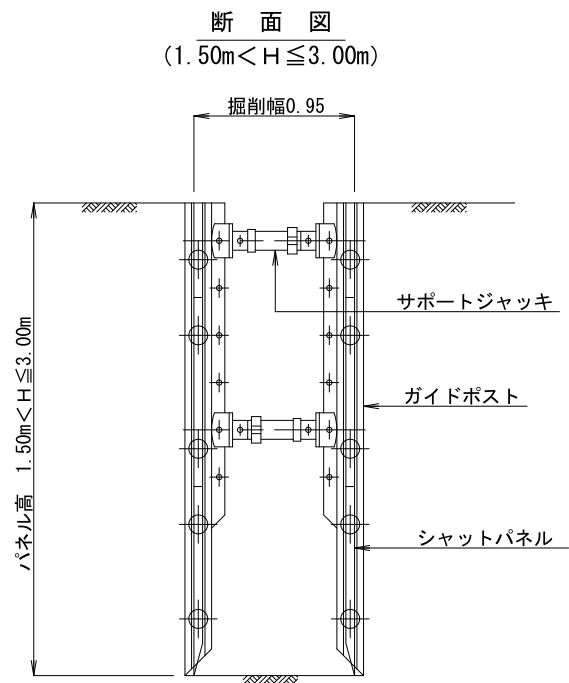
事業名	明科地域下水道施設統合事業 明科第1-1工区		
図 面 名 称	圧送管詳細図		
縮 尺	Free	図面 番号	5 / 10
事業主	安 曇 野 市		

圧送管土工定規・舗装復旧工図 S=1/30

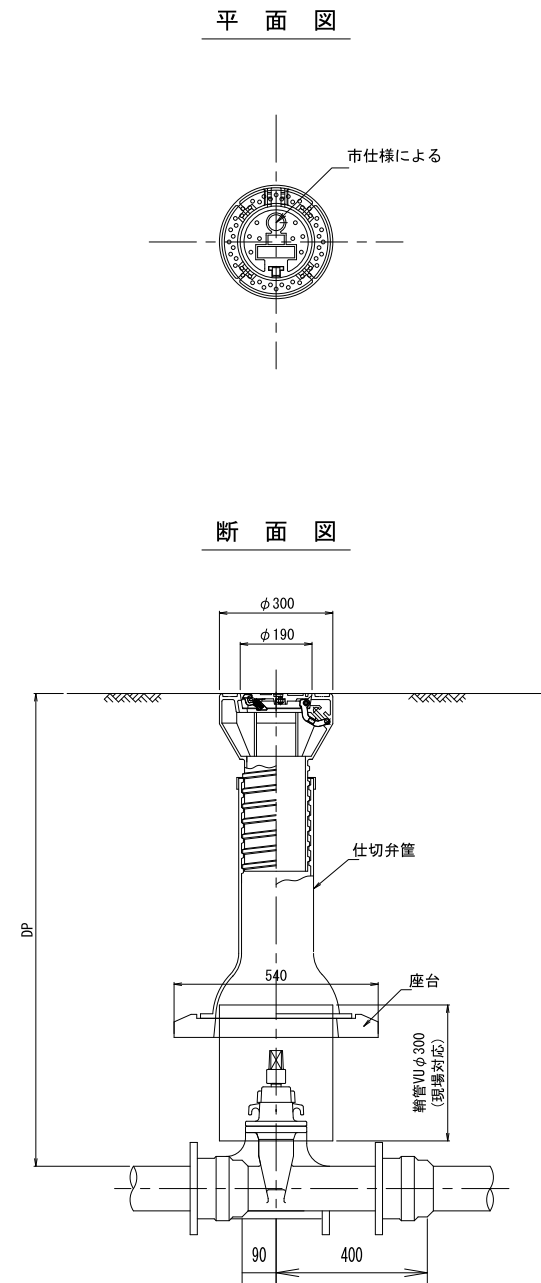


タイプ	口径(D)	DP	W1	W2	H	h1	h2	h3	土留め	管種
①	φ200(220)	1000	600	1390	1320	1280	560	420	無	DIP-GX
②	φ200(220)	1130	600	1500	1500	1460	740	420	無	DIP-GX
③	φ200(220)	1140	600	1480	1460	1420	700	420	無	DIP-GX
④	φ200(220)	1640	950	—	1960	1920	1200	420	有	DIP-GX
⑤	φ200(220)	2310	950	—	2630	2590	1870	420	有	DIP-GX
⑥	φ200(220)	1030	600	1380	1300	—	980	420	無	DIP-GX
⑦	φ100(120)	2780	950	—	3000	2960	2340	320	有	DIP-GX
⑧	φ100(110)	2780	950	—	2990	2950	2330	310	有	HIVP-RR

圧送管土留工標準構造図 S=1/20



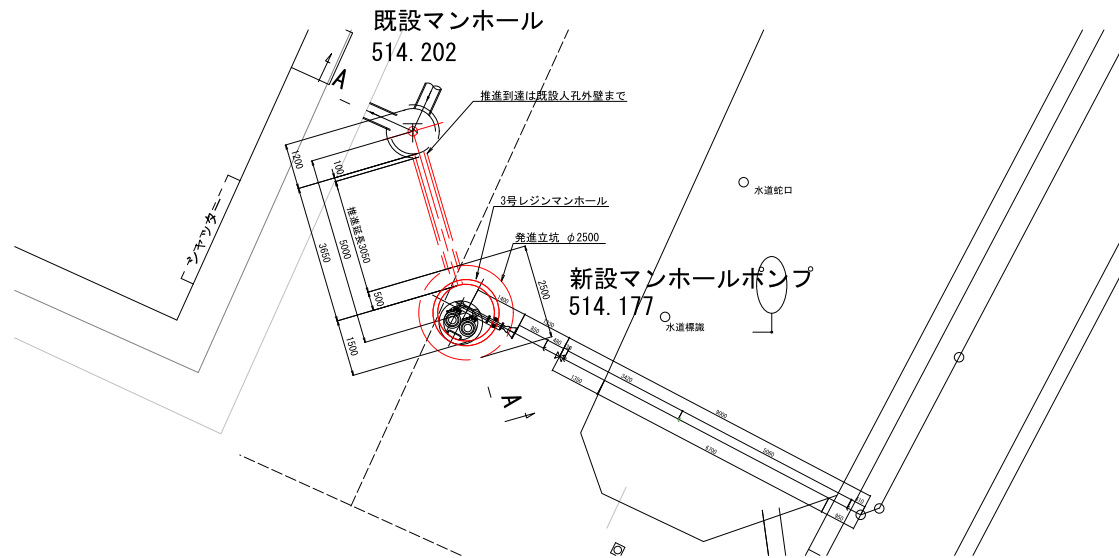
仕切弁筐設置標準図 S=1/10



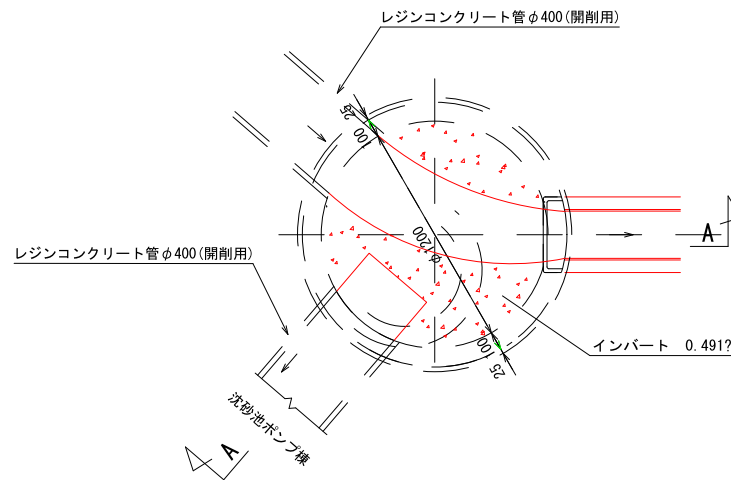
実施図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第1-1工区		
図面名称	圧送管土工復旧標準図,土留工標準構造図 仕切弁筐設置標準図		
縮尺	図示	図面番号	6
事業主	安曇野市		10

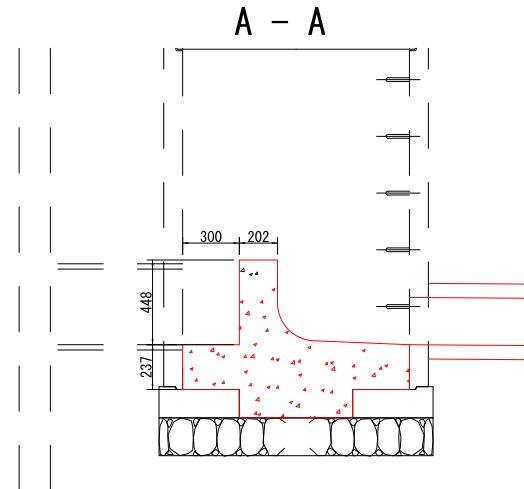
推進平面図 S=1/50



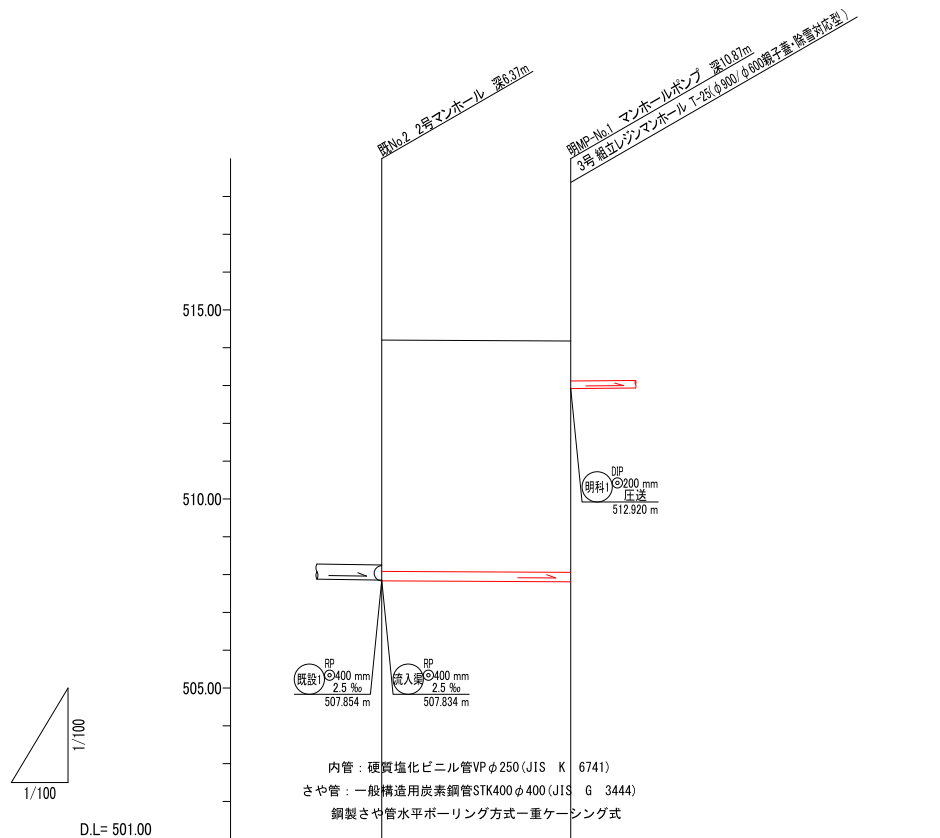
既No. 2 切替平面図 S=1/20



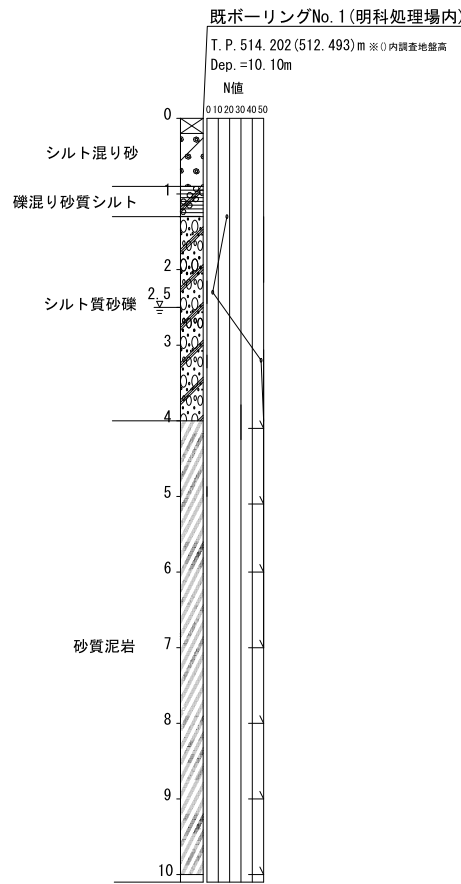
既No. 2 切替断面図 S=1/20



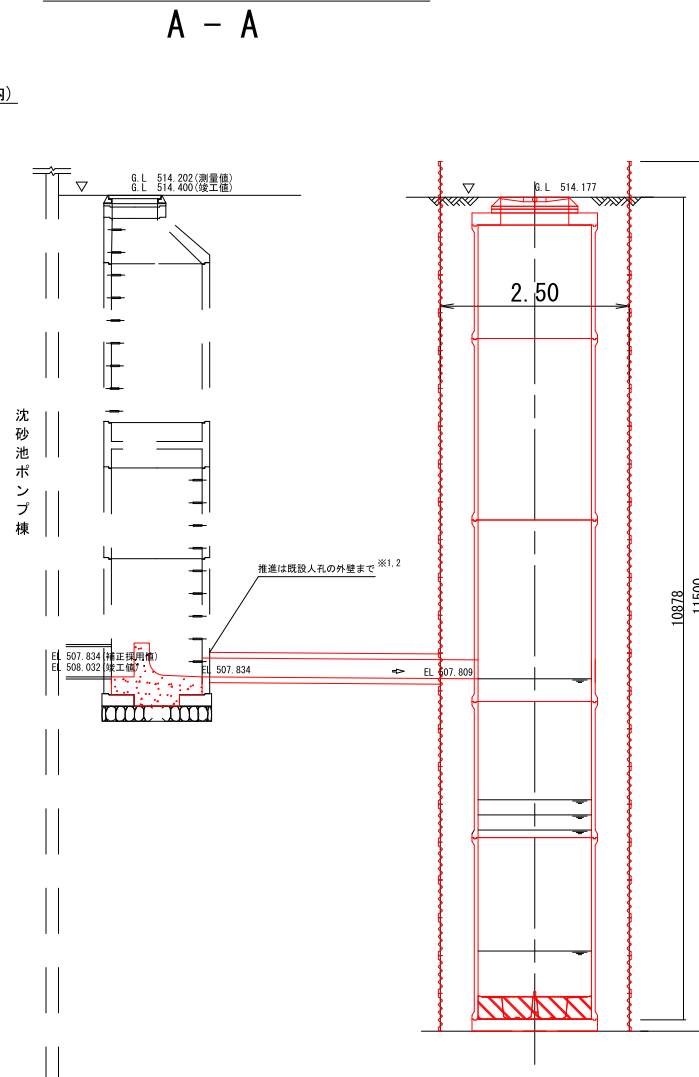
推進縦断面図 S=1/100



地 盤 高	514.202	514.177
土 被	6.11 (6.04)	6.11 (6.04)
管 底 高	507.834	507.809
掘 削 深	1	1
追 加 距 離	0.000	5.000



推進横断面図 S=1/50



※1 推進区間について、到達側は既設2号人孔の外壁までとし、鋼管推進による既設削孔は行わない。

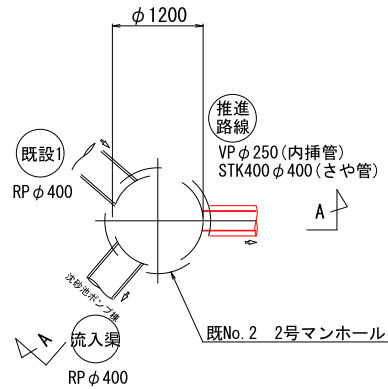
※2 既設人孔との接続は、ステップ図による施工手順を要確認。

実施図

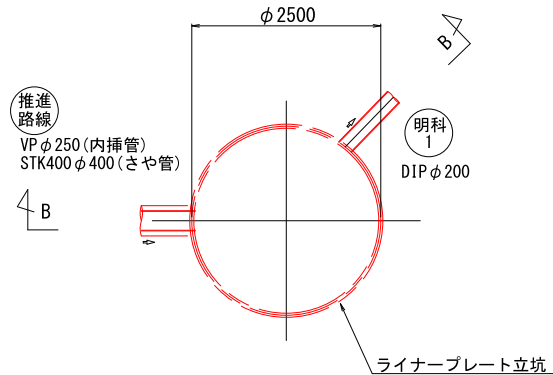
事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第1-1工区		
図 面 名 称	推進平面図, 推進縦断面図, 推進横断面図		
縮 尺	図示	図面番号	7
事業主	安曇野市		10

推進立坑仮設図 S=1/50

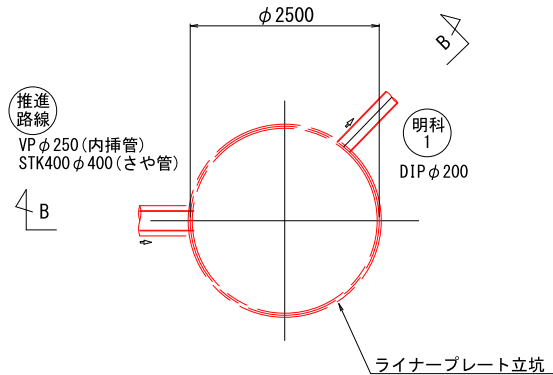
到達側既設2号マンホール



発進立坑φ2500(推進時)

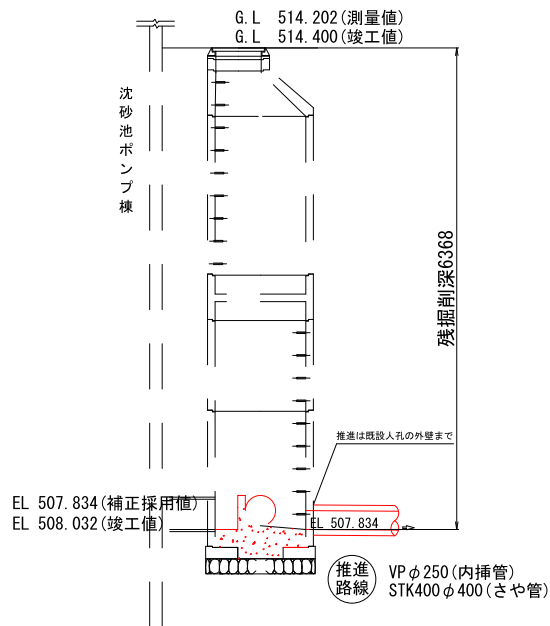


マンホールポンプ立坑φ2500(マンホール設置時)



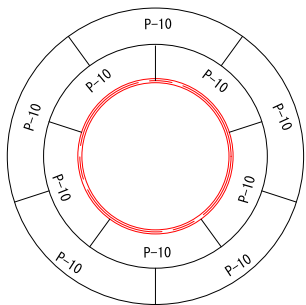
到達側マンホール

A - A



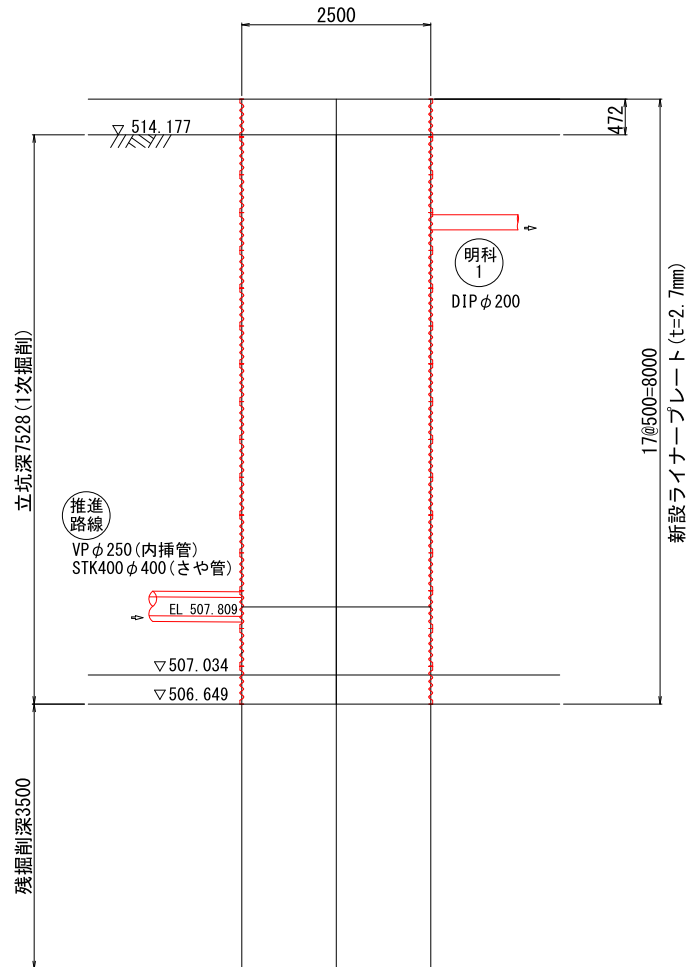
セクション構成図

発進立坑φ2500



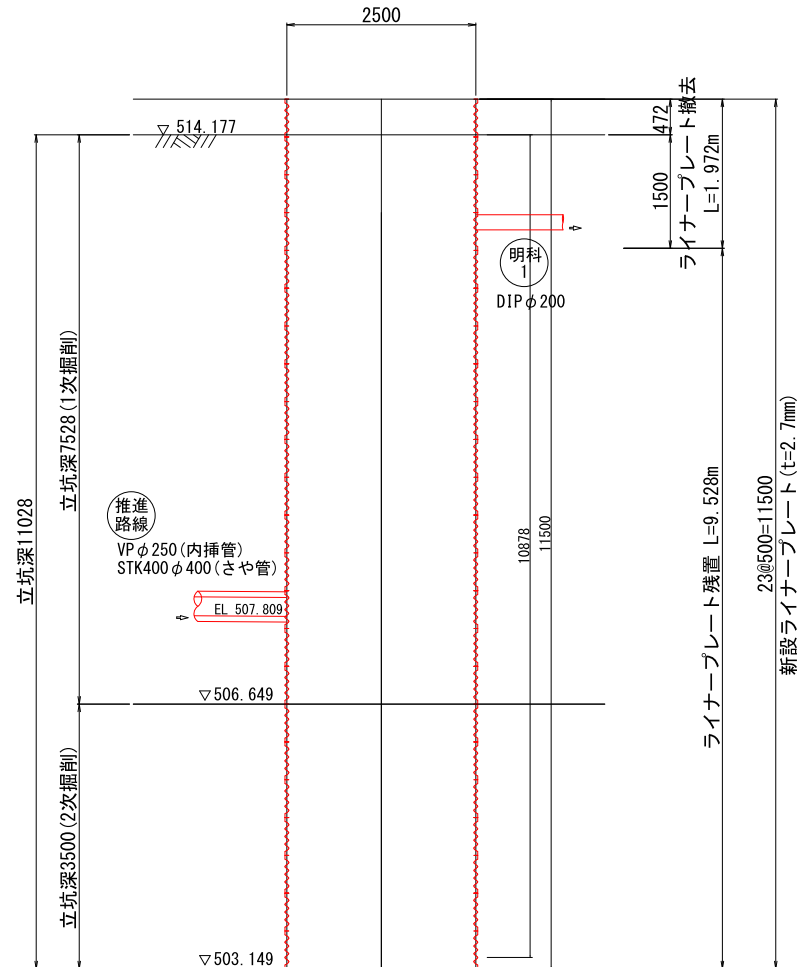
発進立坑

B - B



マンホールポンプ立坑

C - C

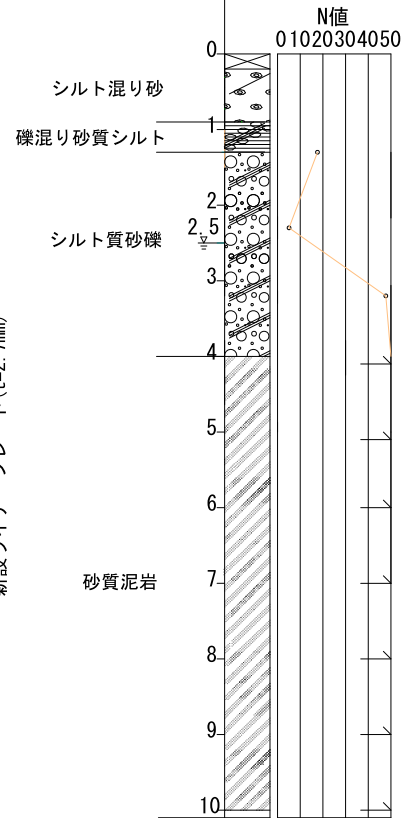


既ボーリングNo. 1 (明科処理場内)

T. P. 514. 202 (512. 493) m

Dep. =10. 10m

※ () 内調査地盤高



実施図

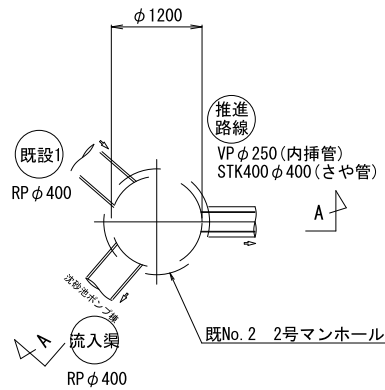
※発進立坑は、マンホールポンプ立坑としても利用する。
先に推進立坑、推進後にマンホールポンプ立坑として2段階の掘削を行う。

※強風化砂質泥岩および泥岩は、ボーリング調査より不透水層と判断した。

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第1-1工区		
図面名称	推進立坑仮設図		
縮尺	図示	図面番号	8
事業主	安曇野市		10

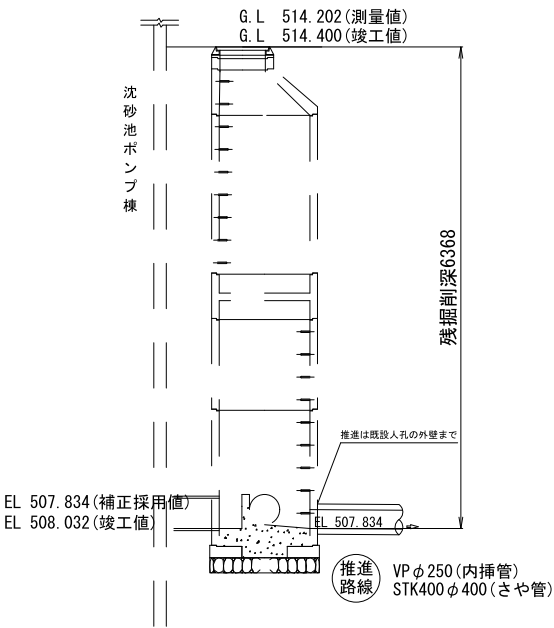
推進立坑地盤改良工図 S=1/50

到達側既設2号マンホール



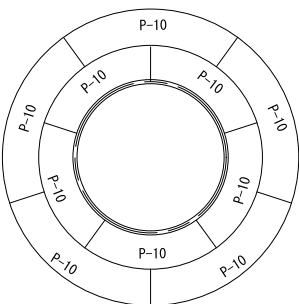
到達側マンホール

A — A

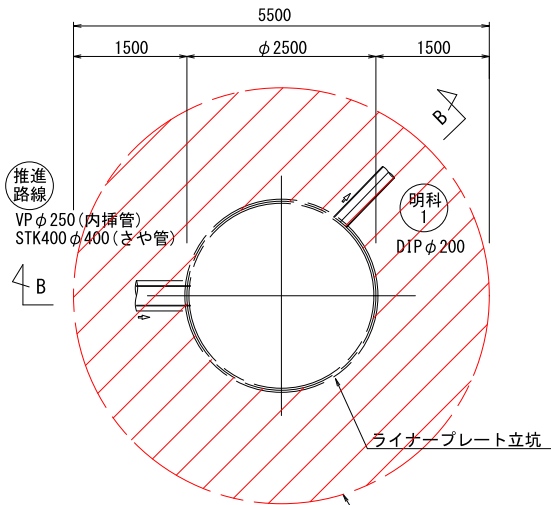


セクション構成図

発進立坑φ2500

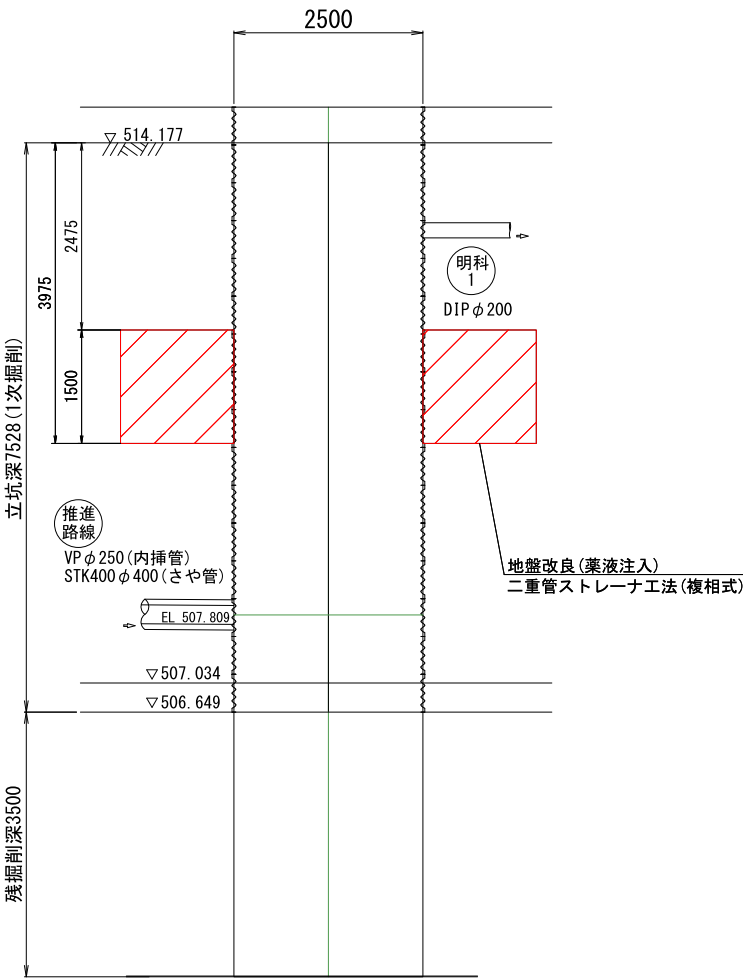


発進立坑φ2500(推進時)

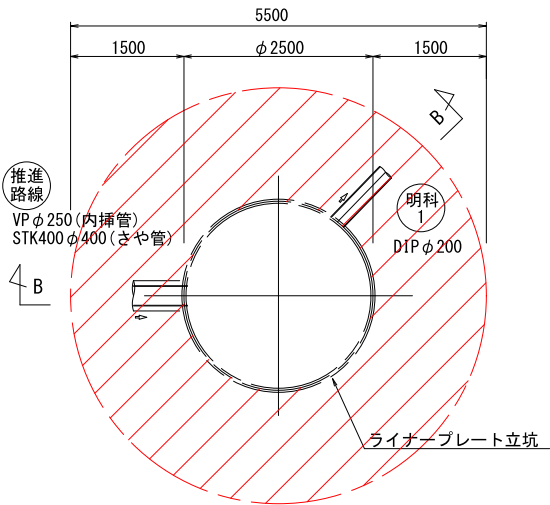


発進立坑

B — B

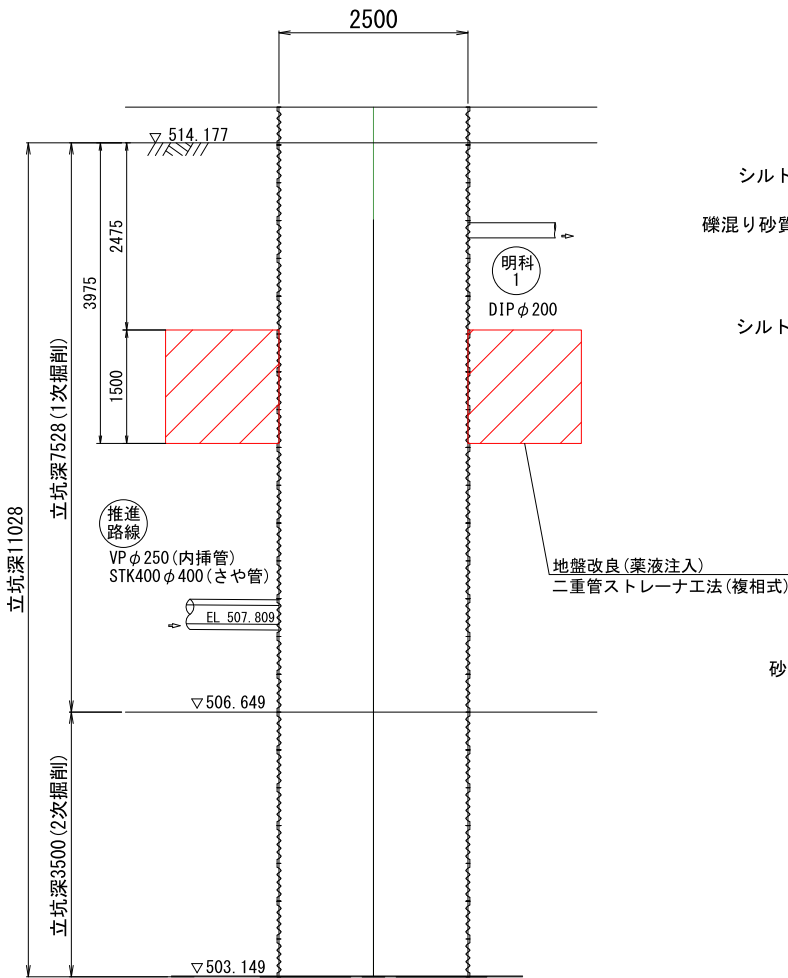


マンホールポンプ立坑φ2500(マンホール設置時)



マンホールポンプ立坑

C — C

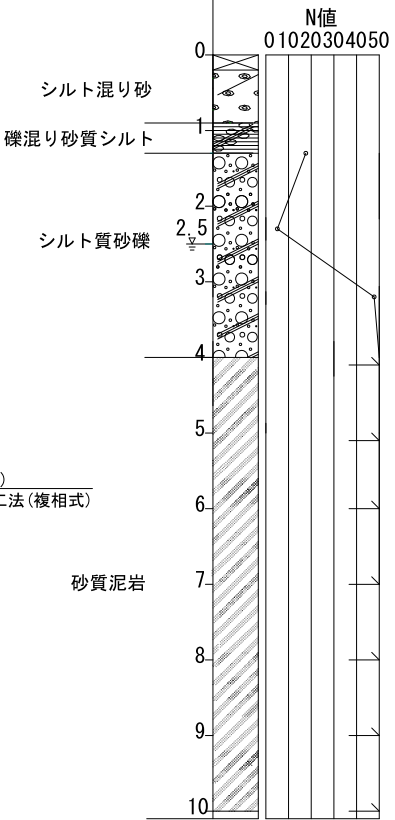


既ボーリングNo.1(明科処理場内)

T. P. 514. 202 (512. 493)m

Dep. =10. 10m

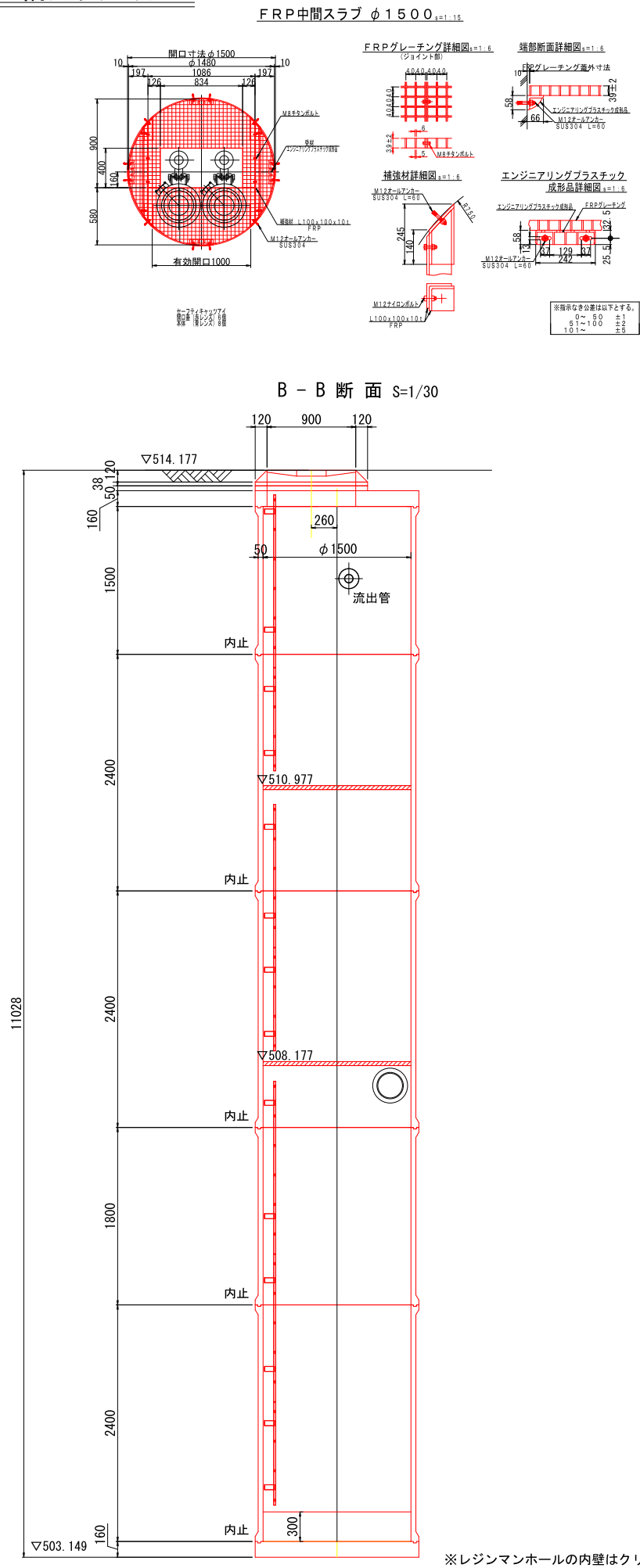
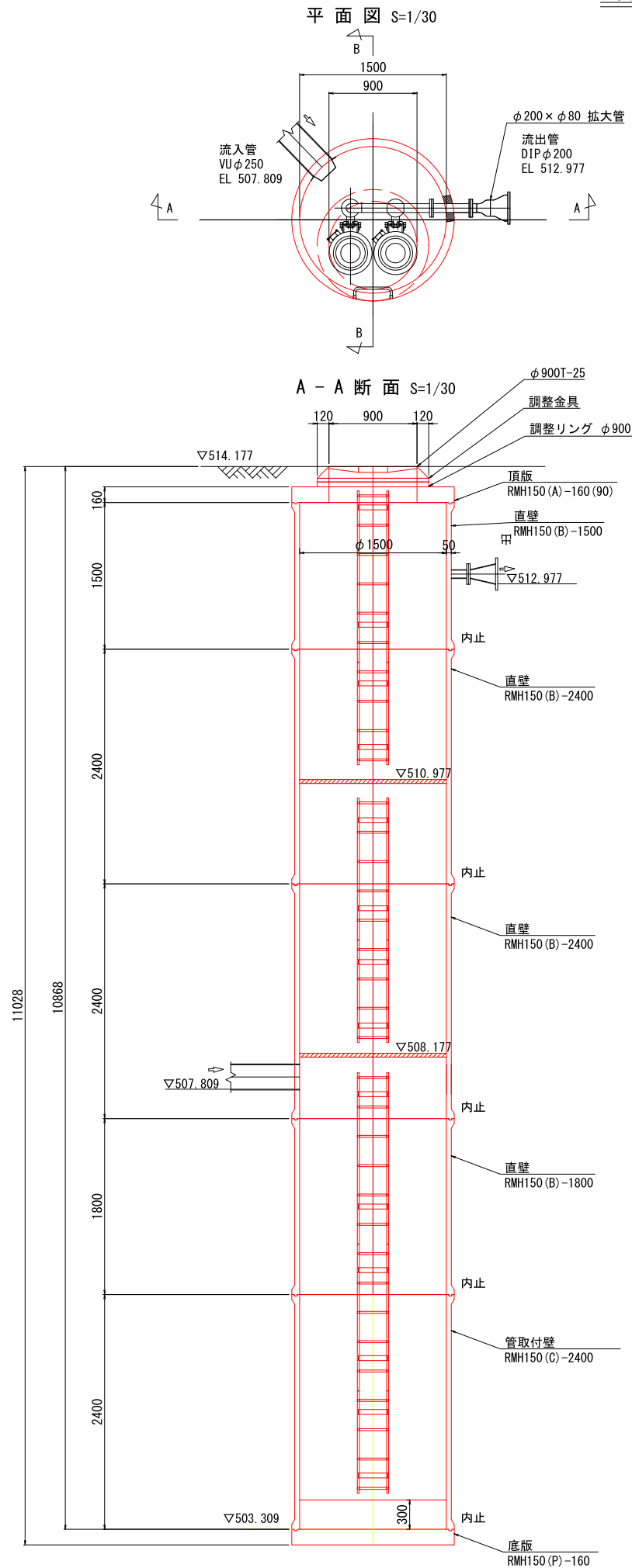
※()内調査地盤高



実施図

事業名	明科地城下水道施設統廃合事業 明科第1-1工区		
図面名称	推進立坑地盤改良図		
縮尺	図示	図面番号	9
事業主	安曇野市		10

明MP-1 3号組立レジンマンホール構造図 図示



実施図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第1-1工区		
図面 名称	明MP-1 3号組立レジンマンホール構造図		
縮尺	図示	図面 番号	10
事業主	安曇野市	10	